

緑化に関する調査報告

(その 50)

令和 5 年 3 月

東 京 都 建 設 局

目 次

I. 技術調査・計画編

1. 井の頭恩賜公園浅場報告について

西部公園緑地事務所工事課緑化推進担当 阿部好淳、岡田岬

2. 猿江恩賜公園の生物多様性事業について

東部公園緑地事務所事業推進課

3. 生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引

環境局自然環境部緑環境課保全担当
(前 自然環境部計画課計画担当) 鈴木 千聖

Ⅱ．管理運営編

1．令和3年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
田中 利彦

2．令和3年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館アメニス夢の島グループ前館長
高橋 将

3．地域とともに創る花と笑顔あふれる公園へ ～浮間公園に1万本のチューリップを！～

公益財団法人東京都公園協会
浮間公園前サービスセンター長 三村 和子

4．光が丘公園バードサンクチュアリにおける生物多様性保全の取組みについて

公益財団法人東京都公園協会 松元 信乃

5．小金井公園の裏方を楽しむ

小金井公園 樹木の会 中島三晶

6．皆伐更新による雑木林管理

桜ヶ丘公園雑木林ボランティア 長久 豊

7. コミュニティガーデンのすすめ

西武・狭山丘陵パートナーズ

西武・武蔵野パートナーズ

西武・多摩部の公園パートナーズ

礒脇 桃子（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

矢口 直生（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

8. 令和4年度 都立東綾瀬公園における花壇づくり等の取組

アメニス東部地区グループ

利用促進担当 齋藤桃子

Ⅲ. 資料編（グリーン・ファイル）

1. 東京都の道路緑化状況

東京都建設局公園緑地部計画課道路緑化計画担当

2. 令和3年度 都立公園等植栽本数一覧表

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種

4. 委託調査一覧（令和3年度）

5. 令和4年度 花の見ごろ情報年間リスト

6. 都立公園における都民協働団体一覧

7. バックナンバー目次（その1～その49）

井の頭恩賜公園浅場報告について

西部公園緑地事務所工事課緑化推進担当 阿部好淳、岡田岬

I. はじめに

大正6年に開園した井の頭恩賜公園は、2017年に開園100周年を迎えました。開園当時は、郊外に位置する公園とされていましたが、現在では、住宅地に隣接する貴重な緑の空間として親しまれています。園内は、井の頭池周辺、雑木林のある御殿山、運動施設のある西園、第二公園と4区域に分かれています。また、井の頭池周辺は低地、御殿山周辺は高台になっており、変化に富んだ景観が楽しめます。

井の頭恩賜公園と聞くと「かいぼり」をイメージされる方もいらっしゃるかもしれませんが。水質が悪化し外来種が増加した井の頭池の水辺自然再生事業としてかいぼりが行われましたが、その一環として浅場の整備を合わせて行っています。本稿では浅場整備から現在までの経過について報告します。

II. 井の頭恩賜公園の水辺再生の経緯

1. かいぼりについて

井の頭池にはかつて豊富な湧水がありましたが、1960年代に枯渇し水質が悪化しました。1980年代頃からはオオクチバスなどの外来種が増えて、在来種の減少もみられました。そこで行われたのがかいぼりです。かいぼりはため池を維持する手法として、昔から日本各地で行われていた手法です。水を抜いて池底を干すことで、窒素を空気中に発散し、池底のリンが水に溶けだしにくい状態に変わります。これによって水を戻した後は、富栄養化が抑制されて水質が改善されるというメカニズムです。井の頭池ではこのかいぼりを、2017年の開園100周年に向けて3回実施したことで、水質改善だけでなく、外来種防除による在来種の増加や、これまで絶滅したと考えられていたイノカシラフラスコモなどの水草が埋土種子から復活するといった効果が出ています。

2. 浅場整備について

このかいぼり毎に整備されたのが池畔の浅場です。コンクリート矢板の垂直護岸で覆われていた池畔の一部に、陸域と水域をつなぐ基盤造成のほかに、ボランティアとの協働による微地形造成を組み合わせることで、水深に変化のある湿地帯を創出しました。基盤造成には池底の泥や砂礫を運び込み、埋土種子からの発芽を期待しました。また、早期の湿地環境回復のため、数種類の水生・湿生植物を植え戻しましたが、これらは池底から採取した泥土から、保護増殖した個体を活用しております。浅場は弁天池・お茶の水池に計5ヶ所を造成しましたが、浅場の微地形づくりは、経験豊富なボランティア(井の頭かいぼり隊)による協力と、井の頭かいぼり隊と共に保全作業を経験していただくイベント「チョコっとかいぼり

隊」など都民協働で進めました。詳細は「第3回かいぼり報告会資料」1)をご覧ください。



写真1 整備後の弁天池下流浅場

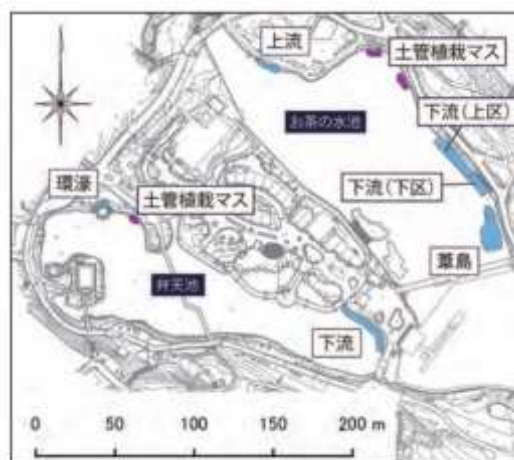


図1 井の頭池に整備した浅場の位置

Ⅲ. 整備の浅場

1. 都民協働での整備・管理の継続

浅場の造成は、池干し期間にできる作業量が限られていたこともあり、完成には至りませんでした。2017年から5年が経過した現在でも、多様な生き物が集まる湿地環境としていくために、東京都が募集し、井の頭池を中心とした自然再生事業に取り組むボランティアである「井の頭かいぼり隊」にご協力をいただき、再整備が進められています。各浅場で月1回程度、足りない泥土の補充等による地形修正や、アメリカセンダングサ等の外来植物などの選択除草等を行い、より湿地帯らしい景観に変わってきました。景観だけでなく、良好な湿地環境を生み出すことで、かつて井の頭池に生育していた多様な水生植物や、トンボ類をはじめとする生き物も多くみられるようになってきました。



写真2 井の頭かいぼり隊による浅場の微地形修正

2. モニタリング調査による把握

井の頭池の自然再生の経過を見ていくため、毎年継続したモニタリング事業を行っております。水草類をはじめとする湿生植物、水鳥、トンボ類、魚類、甲殻類、プランクトンなど多岐に渡りますが、浅場整備と関連の高い「植物」「トンボ類」「水鳥」より2022年度の結果を基に報告します。

(1) 植物

浅場及び植栽マスで確認された植物を表1に、その中での希少種を表2に示します。確認

種の中には陸生の植物も見られましたがいずれも外来種（ノハカタカラクサ、トウネズミモチ、アメリカセンダングサ）であり、選択除草の対象種となっています。残りは水草に当たる湿生植物で19科35種が、うち希少種は8科11種が見つかっており、希少種の中には東京都RLで絶滅危惧IAに位置づけられているサジオモダカ（写真3）といった種があります。また植栽株もありますが、これらはかいぼりの際に採取した埋土種子から発芽し育成したものを使用しており、種の再生につなげる試行としています。

表1 浅場及び植栽マスの植物種数

池	浅場名称	植物	
		確認種数 ・水草 ・希少種 ・外来種*	希少種
弁天池	上流浅場	11科14種	2科2種
	下流浅場	11科17種	5科5種
	植栽柵	2科2種	0種
お茶の水池	上流浅場	10科16種	3科3種
	下流浅場	11科20種	4科8種
	葦島	14科24種	4科8種
	上流植栽柵	1科1種	0種
	下流植栽柵	5科5種	2科2種
計		19科35種	8科11種



写真3 サジオモダカ

*特定外来生物・生態系被害防止外来種に該当する外来種。

表2 浅場及び植栽マスの希少種

科名	種名	弁天池			お茶の水池				生活型*1	希少種*2	
		上流浅場	下流浅場	植栽柵	上流浅場	下流浅場	葦島	上流植栽柵	下流植栽柵	環境省RL	東京都RL
オモダカ	サジオモダカ	●			●	○	●			抽水	CR
トチカガミ	トチカガミ					○	○			浮葉	CR
ヒルムシロ	ツツイトモ		●							沈水	EN
ガマ	ナガエミクリ		●							抽水	VU
カヤツリグサ	ジョウロウスゲ		●		●	●	●			湿生	EN
カヤツリグサ	ミコシガヤ				●	●	●			湿生	NT
カヤツリグサ	カンエンガヤツリ				●	●	●			湿生	NT
カヤツリグサ	カンガレイ				●	○	●		○	抽水	VU
カバノキ	ハンノキ				●	●	●			湿生	VU
オオバコ	カワヂシャ		●							湿生	VU
シソ	シラゲヒメジソ	●	●		●	●	●		●	湿生	VU

●: 自生株, ○: 植栽株(井の頭池の埋土種子から発芽させたもの)

*1 複数の生活型を持つ種については調査地での代表的な生活型を記載した。

*2 CR: 絶滅危惧IA EN: 絶滅危惧IB VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧

(2) トンボ類

トンボ類は環境に対応してさまざまな種が生息するため、自然再生の経過を見るため、2017 年より継続して調査を行っています。かいぼり後、個体数や種数は増加傾向にありますが(図 2, 3)、井の頭池や他の生き物など様々な要因が考えられます。それらのうち抽水植物が繁茂する浅場との関連が高いと思われる種を紹介します。



図2 各月に確認されたトンボの種数 (2017～2022 年)



図3 各月に確認されたトンボの個体数 (2017～2022 年)

①アオイトトンボ (アオイトトンボ科)

東京都レッドリスト VU (多摩部) に指定され、抽水植物の繁茂する池沼や湿地に生息します。成虫は初夏に羽化し、成熟するまでは林内へ移動することが多く、秋期に水辺の抽水植物の葉や茎の組織内に産卵します。2021 年に初めて確認され、2022 年に連結産卵行動は確認できませんでしたが、確認範囲が広がっています。



写真4 アオイトトンボ

②チョウトンボ (トンボ科)

東京都レッドリスト VU (多摩部) に指定され、浮葉植物や抽水植物の繁茂した池沼に生息します。井の頭池では 2016 年、2019 年、2020 年に数頭が確認されていましたが、2021 年に 28 頭、2022 年に 15 頭と数が増加傾向にあります。浅場で飛翔する個体や産卵行動も見られており、本種が定着してきたことが考えられます。



写真5 チョウトンボ

③コフキトンボ（トンボ科）

抽水植物が繁茂する開けた池などに生息します。池の全域に分布しており、特に抽水植物帯付近では多く確認されました。幼虫や羽化殻も多数見つめています。確認数は、2017年には56頭、2018年は57頭、2019年は137頭と年々増加しており、2020年は180頭、2021年は150頭であり、本年は206頭でした。本種が好む抽水植物の群落が広がっていることが理由と考えられます。



写真6 コフキトンボ

（3）水鳥

浅場は水鳥達の隠れ場や採食の場ともなります。2022年度に繁殖に関わる行動が確認された水鳥は、カイツブリ、カワウ、バン、カルガモの4種でした。この中でも特に浅場との関連が高い、カイツブリ、バンの2種について繁殖状況を報告します。

①カイツブリ

水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類などを食べる体長26cmほどの水鳥で、東京都レッドリスト VU（多摩部）に指定されています。カイツブリは、一般的にヨシやヒメガマなどの抽水植物群落や、水面に達した沈水植物上に浮巣を造りますが、井の頭池では多様な環境での営巣が見られています（表3）。かいぼり以前は、営巣に適した環境が不足していたため、水面に垂れ込んでいるサクラ等の樹木の枝先や人工物に巣を架けていました。ただ垂れ込んでいる枝には枯損し、安全管理上撤去が必要なものもありますので、安定した環境とは言えません。2018年より抽水の茂み（浅場等）での営巣が見られはじめ、2022年には枝先に営巣した巣の数を超える11個の営巣が確認されました。合計で27個の営巣があり、カイツブリの子育てを様々な場所・様々な時期で確認できる年となりました。

水辺の保全作業として維持管理に取り組み浅場の抽水植物群落を良好に保った結果、カイツブリの繁殖に適した植生が広がった成果と考えられます。

表3 2016～2022年度のカイツブリの営巣環境

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
水面に垂れた枝先	10	14	3	12	8	10	10
抽水植物（構造物上）		1	1	3	1	1	2
抽水植物の茂み（浅場等）			2	4	3	7	11
開放水面（沈水植物上）				1	6		3
開放水面（構造物上）					3	1	1
構 造 物					1		
合 計	10個	15個	6個	20個	22個	19個	27個



写真7 カイツブリの浅場での営巣と交尾の様



写真8 パンの営巣

②パン

水際にヨシやガマが生育する水辺で見られ、植物の種子や昆虫類等を食べる体長 32.5cm ほどの水鳥で、東京都レッドリスト VU（多摩部）に指定されています。井の頭池では、2016 年に繁殖した後、春の渡りに単独で確認される状況が続いていました。2019 年秋以降は複数羽が滞在、2021 年は 5 月に巣を確認しましたが、放棄されていました。11 月頃からお茶の水池で 2 つがいを確認。1 つがいは、2022 年 3 月に人工浮島に放棄された巣を確認しましたが、その後営巣した様子はありませんでした。もう 1 つがいは 4 ヶ所で巣を確認し、2022 年 2 月には交尾を確認。3 月には更に 2 ヶ所の営巣を確認し、うち 1 ヶ所では抱卵も確認しましたが 3 月末には営巣放棄しました。4 月には葦島内のイグサとお茶の水池下流浅場のヒメガマ内で抱卵を確認しましたが、いずれもすぐに放棄しました。その後、両つがいても 4 月中旬に井の頭池からいなくなりました。

パンが長期滞在し、造巣・抱卵していることは、浅場整備によって湿地を維持していることで営巣環境が整ってきたことを示唆しており、今後定着し繁殖することが期待されます。

IV. 今後の流れ ～都民とともに楽しむ浅場へ～

井の頭池で創出された浅場は、5 年の年月を経て井の頭池の貴重な生き物の生息空間となっています。現在も浅場は、かいぼり後から継続して都民協働運営を受託している NPO 法人生態工房の皆様や、井の頭かいぼり隊の会員のお力添えをいただきながら、毎年少しずつ改良が続けられています。令和 4 年度現在はこのような状況となっています（写真 9～14）。

井の頭恩賜公園の浅場の魅力は、様々な動植物が生育・生息できる貴重な湿地環境であるということだけでなく、公園を利用する方々が身近に生き物たちの存在に気づき楽しむことができることが挙げられると思います。またトピックスは、井の頭池情報と合わせて掲示板やかいぼり新聞、ホームページ 2) などでお知らせしております。

井の頭池は 1960 年代に湧水が枯渇するまでは、一面に水生植物が広がり、様々な生き物

が生息していたと記録されています。当時みられた動植物たちが戻ってくるような発見があるかもしれません。引き続き井の頭池の浅場の取組にご注目ください。



写真9 弁天池上流浅場（2022年10月）



写真10 弁天池下流浅場（2022年5月）



写真11 お茶の水池上流浅場（2022年7月）



写真12 お茶の水池下流浅場（2022年7月）



写真13 葦島（2022年4月）



写真14 植栽マス（2022年6月）

1) 内山香 第3回かいぼり報告会資料 よみがえる湿地帯～協働による水辺再生 P25～31

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/seibukouen0041.html>

2) ホームページ：<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/seibukouen0041.html>

猿江恩賜公園の生物多様性事業について

東部公園緑地事務所事業推進課

I. はじめに

猿江恩賜公園で生物多様性事業を行うこととなった経緯は、「2020年の東京」において「都立公園における多様な生物が生息する空間整備」が位置づけられ、あわせて「実行プログラム 2012」において「都立公園における生物多様性の保全について、課題の整理、取組の方向性の検討する」とされたことに始まる。

上記を受け、低地から丘陵地に至る都内のさまざまな地形にまんべんなく対応すべく、区内 14 公園、多摩部 17 公園の計 31 公園が選定され、猿江恩賜公園も低地の生物多様性を図る公園として対象となった。

事業の目的は、1. 都市における生態系の回復、2. 生物多様性保全の普及啓発、3. 園の利用価値の向上である。

以下において、猿江恩賜公園の生物多様性事業(黄枠内)の概要を説明する。

II. 猿江恩賜公園生物多様性事業の概要

1 猿江恩賜公園の沿革

猿江恩賜公園(図)は江戸幕府公認の貯木場として開設され江戸市中へ木材を供給する拠点の一つとなった。明治時代に皇室御用材の貯木場(木蔵)として引き続き木材供給地の一つとして利用された。

昭和47年、都は東京営林局より貯木場を取得し、防災広場を兼ねた園地として造成することが基本方針とされた。

猿江貯木場としての歴史に鑑み、後世への伝承ならびに、一部遺物の保存を買収の条件とされたことを受けて、公園計画にこの条件が反映され、歴史ある貯木場の面影を残すため園内北側にミニ木蔵(写真)が整備された。

また、地域住民の要望により、北側にはミニ木蔵の他に、せせらぎ小川や時計塔、桜山、桜広場などが導入され、地域性の強い公園となっている。

本公園はこの結果、緑環境が著しく少ない周



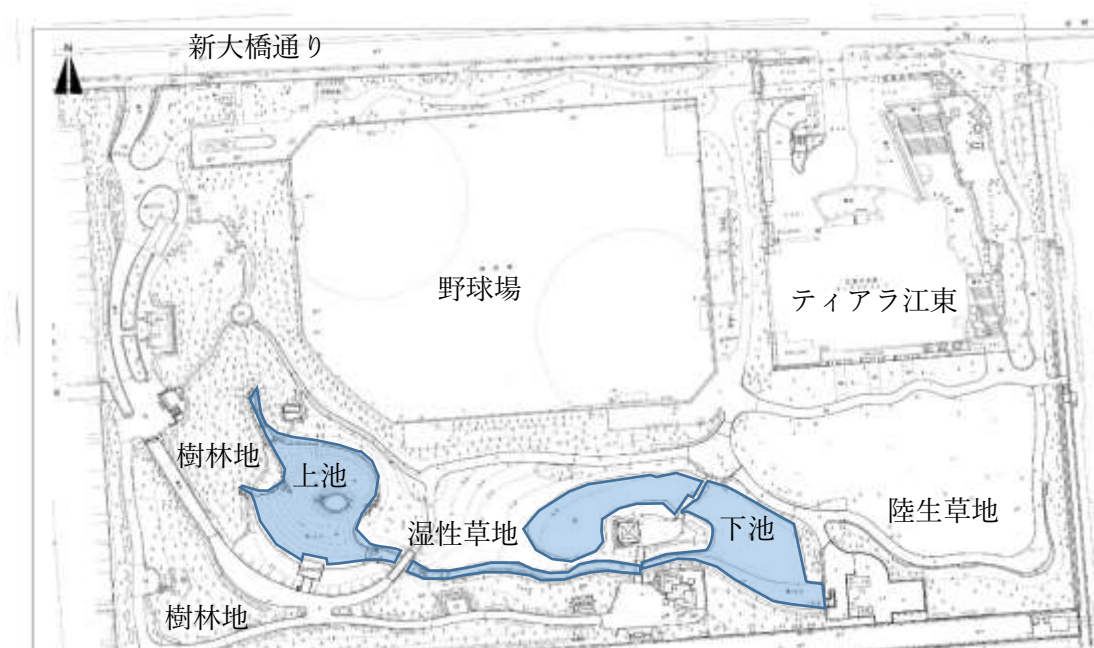
辺市街地の中にあって、かつての貯木場としての歴史を踏まえつつ、水をテーマとした緑豊かな憩いの空間として重要な役割を担っている。

なお、新大橋通りを挟んで南側は野球場、区営施設のティアラ江東、日本庭園がある。

更に、東京都地域防災計画及び江東区、墨田区の地域防災計画により防災上の重要な位置付けを持っている。

2 猿江恩賜公園の現状

猿江恩賜公園において生物多様性事業を実施するにあたり調査したところ、日本庭園及びその周辺が対象区域に選定された。日本庭園は二つの池（上池と下池）・滝・流れ・



草地・樹林地・四阿で構成されている（図）。

園内には、繁殖期以外は樹林内で生活する「ニホンアカガエル」が生息する。区部では貴重な空間であるので、これを象徴種としてその生息環境向上を目標としているが、現状では園内の樹木の経年の成長により樹林内が薄暗く、林床の植生が乏しく剥き出しの斜面から土砂が流出し、乾燥化が進み(写真)、ニホンアカガエルの生息には望ましくない状況になっている。また、二つの池のうち上池の護岸の一部の区間は垂直の石張り護岸となっており、カエル類の往来の支障となっている。



また、鳥類ではカワセミも目撃されている

が、カワセミの繁殖可能な土手がない。

ゴロタ石で底が舗装されている上池に対し下池は土の底であるが、ヨシが繁茂し開放水面が乏しく、開放水面を好む湿地性昆虫類が生息するには厳しい環境である。

草地についても、低い草丈を維持する単一な管理により、陸生昆虫類が生息可能な環境を提供するに至っていない。また、踏圧による乾燥化も進んでいる。

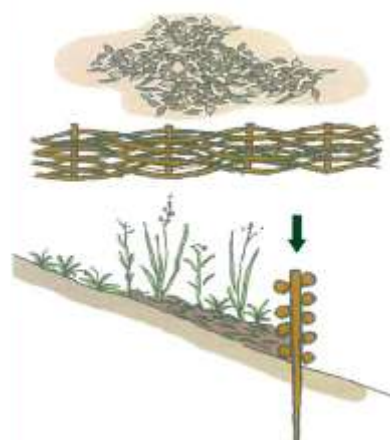
3 猿江恩賜公園の生物多様性の取り組み

2節現状を改善するため、以下の6つの取り組みを行った。

(1) 樹林地の改良

まず、北東方向からの日照を確保し下草類の生育を向上させるため、樹木の強剪定や間引きを行った。次に土砂流出対策として、細丸太材に園内の剪定で発生した細枝を絡めて流出土砂を止める柵である「粗朶(そだ)柵」を設置(図)して土砂流出を止めると共に落ち葉も受け止めて湿潤な表層の維持を図った。以上によりニホンアカガエルが好む湿潤な環境への転換と移動経路としての草地の育成を目指した。

なお、西側は乾燥化を促す西日を遮るため、あえて現状の樹林を維持することとした。



(2) 上池の改良

上池(写真)の護岸は前述のとおり一部が垂直な石張となっているうえ、池底も単一なゴロタ石敷きであるため、池で活動できる生物が限られる。

そこで、多様な湿地環境を創出するため池底の一部に傾斜をつけ、樹林→陸生草地→湿性草地→水面という様々な環境条件が緩やかに連続する「エコトーン」を創出し、湿地の生態系を向上させることとした。



具体的には、池の水深の深いところから岸へ荒木田土を客土してから湿性植物の植栽を行い、水生昆虫や魚類及び池辺を好む鳥類の生息環境を提供し、併せてエコトーンの創出により段差が解消、ニホンアカガエルの移動経路を増やすことも期待できる。

(3) 下池の改良①(西側)

下池は前述のとおりヨシの繁茂により開放水面が少なく生態系が乏しい(写真)。

そこで、ヨシの一部の上部を刈ると共に、外来種除去も兼ねた「池干し」を行い在来水生草本の埋土種子の発芽を促した。

池干し期間中は、底泥の天地返しを行い残ったヨシの根も伐根しヨシの勢力を弱めて開放水面を回復させるとともに、護岸の一部に湿性植物を補植した。

これらにより、開放水面・湿性草地・残存ヨシの高茎草地など様々な環境を提供することが可能となり、トンボ類を中心とした湿地の生物多様性の向上が期待できる。

また、開放水面が広がったことにより、公園利用者が水辺に親しむ環境としても機能向上が図れることとなり、更に利用者サービスとして、トンボ類の観察を想定した観察デッキも造った。



(4) 下池の改良②(東側)

前述のとおり園内にはカワセミが繁殖可能な土手が無い。護岸にはシュロやアオキ等の低木が繁茂している(写真)ので、客土等による垂直な土手の造成と低木を整理し、カワセミの繁殖環境を整えた。併せて、カワセミの採餌のための止まり木を新設した。

なお、野鳥の撮影等で人が滞留するのを防ぐため、下池の東側には観察デッキ等の設置を行わないこととした。



(5) 草地の改良①(湿性草地)

下池の西側には緩傾斜の湿性草地が広がっており(写真)、ニホンアカガエルの重要な移動経路となっているが、現状では草丈が低く均一に刈りこまれており、カエルの隠れる余地が少ないことと、公園利用者が自由に立ち入ることによる踏圧で乾燥化が進行していた。

そこで、今回の事業により草丈の刈高を見直しニホンアカガエルの安全な移動経路の確保と草地性昆虫の「すみか」の提供を図った。



併せて、(4)の木道の設置によって間接的に公園利用者を誘導することにより、草地への立ち入りの機会を減らして乾燥化を抑制することが期待できる。

(6) 草地の改良②(陸性草地)

こちらの草地も現状では草丈が低く均一に刈りこまれており、生態系が乏しい。

今回事業により、バッタ等の陸生昆虫の生息環境となることを期待して、草地の一部(写真右側)の刈高を見直した。

一方、公園利用者の草地利用との共存を図るため、残りの草地(写真左側)は従来の管理を続けることとした。



4 本工事の技術的な工夫

本工事における技術的な工夫を紹介する。

(1) 多摩産材の活用と鋼材の併用

本工事で使用する木道及び木柵の木材には多摩産材が使用されている。

木道は延長が長いうえ池内に張り出していることから基礎部分が水に浸かるため、管理の負担増が避けられないが、今回工事では木材を床板と地覆など上部材にのみ使用し、杭や大引などの基礎材や下部材と強度を確保する必要がある手摺については鋼材を使用することにより、交換を上部材に限定することができ、管理費用の圧縮と木材の風合いの両立を図った。

木柵についても、安全性を重視する区間は擬木ロープ柵を採用したが、日本庭園という性格を踏まえて危険性の低い区間は木柵とした。なお、技術の伝承にも寄与できるように新設柵の一部に四ツ目垣を採用した。

(2) カワセミ土手の造成

前述のとおり、本工事では下池東側にカワセミの繁殖に寄与すべく「カワセミ土手(図)」を造成したが、その技術的な方法を以下に述べる。

カワセミは土手に営巣するが、緩傾斜面の土手は好まず垂直な土手を好むため、造成する土手は前面を垂直の壁とした。

また、既存斜面に盛る客土については、下部には水はけの良いレキ混じりの黒土、上部は赤土を用い、奥行きを約5mとした。客土の転圧については、突き固め過ぎず崩れにくくする絶妙な塩梅とするため、転圧の厚みを図面で指示した。



更に、巣穴作りを誘引するために、水面から1.4mの高さに、直径6cmくらいの窪みを3箇所（それぞれ、深さ15-20cm、10-15cm、5-10cm）設けた。

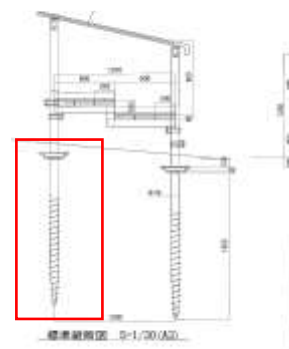
（３）木道の基礎の湿地対策

木道は４（１）のとおり下部は鋼材を使用するが、湿地に基礎を設けるためコンクリート基礎では不同沈下による不陸が生じる恐れがあり、根柵基礎では支持力不足でぐらつく恐れが高い。

そこで、今回工事では長さ1600の鋼製基礎に、「ねじ」基礎（図）を採用した。

この工法は、杭の必要最低限の幅をアースドリルで掘削して杭を挿し込むため、コンクリート基礎や根柵基礎のような余堀、余堀後の転圧も不要となり転圧不十分で支持力不足になる恐れが無くなることから、湿地でも強固な支持力が維持できる。

反面、余堀のように広い掘削面が発生しないので埋設物の確認には細心の注意が必要だった。



（４）仮設のアクアガーデン

救出した池の生き物は、先に清掃が終わり復水した上池へ放流したが、下池の生き物も混ざっているため、下池が復水され下池に移動するまでの間は一時的に「密」な状態が発生する。そこで、なわばり争いなどで生き物が消耗しないように水面下に小石と粗朶をプラカゴで包んだ「アクアガーデン(写真)」を工事期間設置



し、隠れ場所を提供することとなった。見栄えをよくするため、水面上は花物を植栽した。

（５）フレコン(大型土嚢)の仮締め切りとりやめ

当初設計では、上池の清掃を２回に分け、半分は大型土嚢で締め切ったのち清掃を先に行い復水して生き物を速やかに放流する計画であった。

しかし、大型土嚢の水漏れリスクがあること、撤去時に水を含んだ大型土嚢を、対岸からアームが伸びきったラフタークレーンで吊る安全上の問題が懸念された。

そこで、大型土嚢の仮締め切りを取りやめて、上池全面の洗浄を一体で行う代わりに作業ヤードの一角に救出した在来生物を一時飼養する大型水槽とエアープンプの設置を新設することに変更し、上池の廃棄物を減量し環境負荷の低減を図った。

なお、大型水槽は今後の池干しを想定して管理所に保管するので廃棄はしない。

5. 苦勞した点

本稿の最後に、本工事で苦勞した点を述べる。

(1) 難航した種の同定作業

池干しにより救出した個体の一時飼養に先立ち、外来種が紛れていないよう種を同定する作業が必要であるが、厄介なことは在来種と見分けが難しい外来種が存在することである。

特にメダカとカダヤシ、スジエビとチュウゴクスジエビの2種は種の同定に難航した。秋の池干しの種の同定作業は、まさに日没との格闘であった。

(2) 3週間の一時飼養

4(5)のとおり、当初は速やかに救出後の在来生物を広い上池の一部に放流する予定であったが、種毎の複数の大型水槽に3週間飼養するという方法に変更となった。

しかし、多数の在来種を飼養するには大型水槽でも「密」となり、エアーポンプを設置しても酸素不足により死ぬ個体が発生した。

更に、密になるとなわばり争いが勃発し傷ついた個体が衰弱してやはり死んでしまう。なわばり争い対策としては、大型水槽の一部に塩ビ管等で隠れ場所を設置した。

なお、死亡個体を放置すると腐敗して水質を悪化させるため、早急に取り除く必要があり、施工業者が交代で常に飼養個体の健康状態の注視と死亡個体の除去を行った。

施工業者の懸命な飼養のおかげで、死亡個体数を最小限に留めることができた。

(3) 草種の選定

湿性草地の多様性を創出するため、本工事では園内の移植等で調達できない一部の植物材料を外部から導入した。

しかし、当初予定していた植物のうちカサスゲ、ミソハギ、サンカクイ、カンガレイ、ススキ、チガヤは入手が困難なため、アゼスゲ、オギに変更した。

計画段階で入手の難易度についても検討すべきであった。

(4) 粗朶材の収集

当初は粗朶柵に使用する粗朶材(L3000で元口φ30を1200本)は工事の剪定等で発生する園内の枝で賄えると判断していた。

しかし、意外にも粗朶にふさわしい「しなる」材に向く枝が少なく、長さも3mの真っすぐな材が少なかった。

更に発生材の元口がφ30よりも太いものが意外に多く、粗朶材に向くものが少ないこともあり材の調達に難航し、約500本を外部から調達することとなった。

粗朶に向く樹種を基本計画段階で調査する必要があった。また、粗朶の長さも2.5mにすればもう少し園内で調達しやすかった。

(5) しぶとい外来草本対策

池干しの目的の一つに、外来水生草本対策があげられるが、対象種のうち「オオフサモ」は茎の切れ端一つでも容易に再生するうえ、多少の乾燥では生き延びてしまう厄介な種であることが判明した。

そこで、今回天地返しができない畔部分で80℃超の熱水を噴霧して地上部と熱水が浸透した地下部の根の枯死を図れる「温水除草(写真)」を試行したところ、効果は予想以上であった。対象種を狙い打ちできるうえ、熱水は化学物質を含まない真水のため、周辺の生態系への影響は少なく環境負荷も低減できる工法である。



更に、国交省のNETIS(新技術情報提供システム)にも登録されている工法である。

ただし、機器のレンタル代が高価で、実証事例が少なく効果の持続期間も未知数のため、今後もモニタリングを行う必要がある。

課題としては、導入にあたっては事前に希少種等の在来植物の生育状況を確認する必要がある。

なお、今回試行した箇所はオオフサモが優先する畔であったが、天日干し中の池底であると不特定多数の埋土種子が予想されるため、施工箇所は慎重に選定したい。

(6) 更なる上池の段差解消

今回工事ではニホンアカガエルの円滑な移動のため、3(2)のエコトーンを新設したが、それでも50cmの段差が残ってしまったため、カエルの生態に詳しい方に相談したところ50cmの段差では厳しいとの指摘があったことから更なる段差解消が必要となった。

そこで、護岸の一部にφ200~300の石積みスロープを5箇所程度新設した。これは、カエルが1箇所に集中することを防ぐためであるが、そのままでは対岸から見ると護岸が「歯抜け」になって日本庭園の風情を損なうため、石積みの合間に水草を植栽して石と草本が噛み合った多自然型護岸とすることとした。

(7) ヨシの根茎対策

今回工事では湿地植生の多様性を増すため、ヨシの生息密度の縮小を図るべくヨシの伐採・抜根を行った。

抜根により発生したヨシの根茎は、泥等を高圧洗浄機で洗い流して泥と洗浄水は池に戻し、ヨシの根茎のみ天日干し後園外搬出して発生材量を減らして環境に配慮する計画

であった。

しかし、根茎を洗浄したところ、一部のヨシの根茎にゴミの付着が計10m³ほど確認され、それらは混廃ゴミとしてしか処分できなくなった。

また、ヨシの根を掘り上げるためにバックホウで湿地施工を行ったが、ぬかるみにキヤタピラを取られるため、平坦性を維持しながらの作業はかなり困難であった。

（８）カワセミ土手の造成方法

４（２）のカワセミ土手の造成に際し、下地を調整するため掘削したところ、高木の根が予想以上に繁茂していた。

樹木の生育を阻害しないよう太い根を避けて造成したこともあり、一部の盛土厚が高くなった箇所が生じ、盛土が崩れないように側面に設置した土留板の許容範囲を超えたため、設計意図に沿う範囲で側面を段切りして盛土の強度の維持を図った。

また、カワセミが営巣しやすいように土を柔らかめにする必要があるため、転圧は人力で少しずつ叩きながら行ったため、直角で高い盛土のカワセミ土手は乾燥が続くとひび割れしやすく、土留板より上部の土が徐々に崩れる恐れがある。

今後とも、これらの経験を活かして多様な生物が生息する空間整備を行っていきたい。

以上

生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引

環境局自然環境部緑環境課保全担当（前 自然環境部計画課計画担当） 鈴木 千聖

I. はじめに

私たちの生活は、生物多様性がもたらす多様な恵みに支えられているが、人間活動や気候変動などの様々な要因により、生物多様性の劣化は急速に進んでおり、深刻な問題として国際的な関心が高まっている。こうした中、東京都環境局では、令和 5（2023）年春に生物多様性地域戦略の改定を予定している。また、東京都内の多くの自治体で、生物多様性地域戦略や、生物多様性に配慮した緑の基本計画等を策定しており、生物多様性に対する認識はますます浸透してきている。

一方で、生物多様性保全の場となる公園・緑地の現場からは、「生物多様性の重要性は認識しているが実際にどのような取組が生物多様性につながるのか分かりにくい」という声も聞かれる。そこで、『生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引』（以下、「手引」とする。）は、主に都内の公園・緑地の現場を担う担当者向けに、生物多様性の向上につながる取組をより多くの現場で実践してもらうために作成した。都市のみどりが生きものの生息・生育環境として効果的に機能するように、みどりの質を高めるための工夫や整備方針、維持管理手法、実際の公園・緑地における生物多様性向上の取組事例等について分かりやすく解説した。



図1 「生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引」表紙

II. 手引作成の経緯

環境局は、区市町村への補助事業である「地域環境力活性化事業」を平成 26（2014）年度に創設し、都と区市町村が一体となった取組の促進を図ってきた。公園・緑地における生物多様性保全の取組に対する補助メニューとしては、「江戸のみどり復活事業」と「樹林地や湧水などの貴重な生態系を保全するための取組の推進事業」の 2 つがあるが、補助対象が限定的であったり生物多様性地域戦略の策定に向けた基本方針作成が要件に入っていたりと、補助を受けたい自治体からすると使いにくい面があり、メニューの改善が課題として挙がっていた。

東京都都市整備局が平成 29（2017）年度に策定した「都市づくりのグランドデザイン」を受けて発足した全庁的な「緑溢れる東京プロジェクト推進 PT」の中で、環境局は「緑の質を高め都民がみどりに触れ合う機会を増やすことで生物多様性の意識を醸成する」取組

を行うこととした。折しも令和2（2020）年は世界的な新型コロナウイルス感染症の流行により、コロナ禍における自粛生活の中で身近な緑地のみどりが見直されるようになり、環境局でも何かコロナ対策の施策を打ち出すべきとなり、閉鎖されて活用されていない荒れた緑地を整備して都民に開放する取組に対し補助金を支出する「緑地の利活用推進事業」を令和3（2021）年度に創設した。しかしながら、区市町村のニーズを把握する時間もなくコロナ対策として突貫で創ったメニューであったこともあり、残念ながら自治体からの申請はなかった。

このような流れの中、前述のとおり、以前より区市町村の公園・緑地担当者からは「生物多様性の重要性については理解しているが、具体的にどのような取組を行えば生物多様性保全につながるのかがよく分からない」と相談を受けることがしばしばあったことから、環境局として‘こういう取組を行ってほしい’という内容を明確に示す普及啓発と、その取組に対してバックアップする財政的支援を車の両輪として行う必要があると考え、既存の「緑地の利活用推進事業」を、生物多様性保全に関する取組を包括的に対象とする「生物多様性に配慮した緑地の利活用推進事業」（令和4（2022）年度開始）にリニューアルするとともに、公園・緑地におけるみどりの質を高めるための工夫や維持管理手法、実際の公園・緑地における生物多様性向上の取組事例等を解説した本手引を作成するに至った。

Ⅲ. 手引の内容

1. 対象者

対象を広く設定すると内容が多岐に渡り、しかもそれぞれが中途半端な内容になる可能性があったため、本手引の対象者は、公園・緑地の現場管理者や計画部署の担当者に絞った。これらの自治体担当者は、必ずしも造園職のような緑の専門職ばかりではなく、土木職や事務職である場合も多いため、特に「区市町村の公園・緑地の担当者（専門職以外）」とした。そのため本手引で取り上げる取組は、ある程度の面積規模の公園・緑地で実践できる内容とした。

2. 手引の特長

東京の地形は、低地、台地、丘陵地、山地と複雑で、自然環境や周辺地域の開発の変遷などにより、緑地の形態やその土地の持つポテンシャルや課題も様々であるため、これをすれば生物多様性につながる、と一概に言えるものではない。自治体担当者とはもすれば、まずは調査をして、有識者の意見を踏まえて計画を策定し、設計、整備と、数年がかりの計画を考えがちであり、それが故に取組が進まないことも多い。本手引では、公園・緑地の現場でまず出来ることから取り組んで行ってもらいたいと考え、都内の公園・緑地でよくみられる「あるある」な生物多様性保全上の主な課題を取り上げ、生物多様性の回復・向上（手引では、以下「エコアップ」と表現した。）に向けた解決手法の例やヒントを、事例も交えながら紹介することとした。

3. 手引の概要

(1) 環境タイプからエコアップ手法をたどる

緑地とひとことで言っても、その環境には、樹林や草地、水辺など様々なタイプがあるため、生物多様性保全上の課題も、環境のタイプによって異なる。そのため、この手引では、主な環境のタイプ（樹木植栽地、樹林、草地、水辺）ごとに、都内でよくみられる主な課題を取り上げ、エコアップの手法を示した。（図2、3）

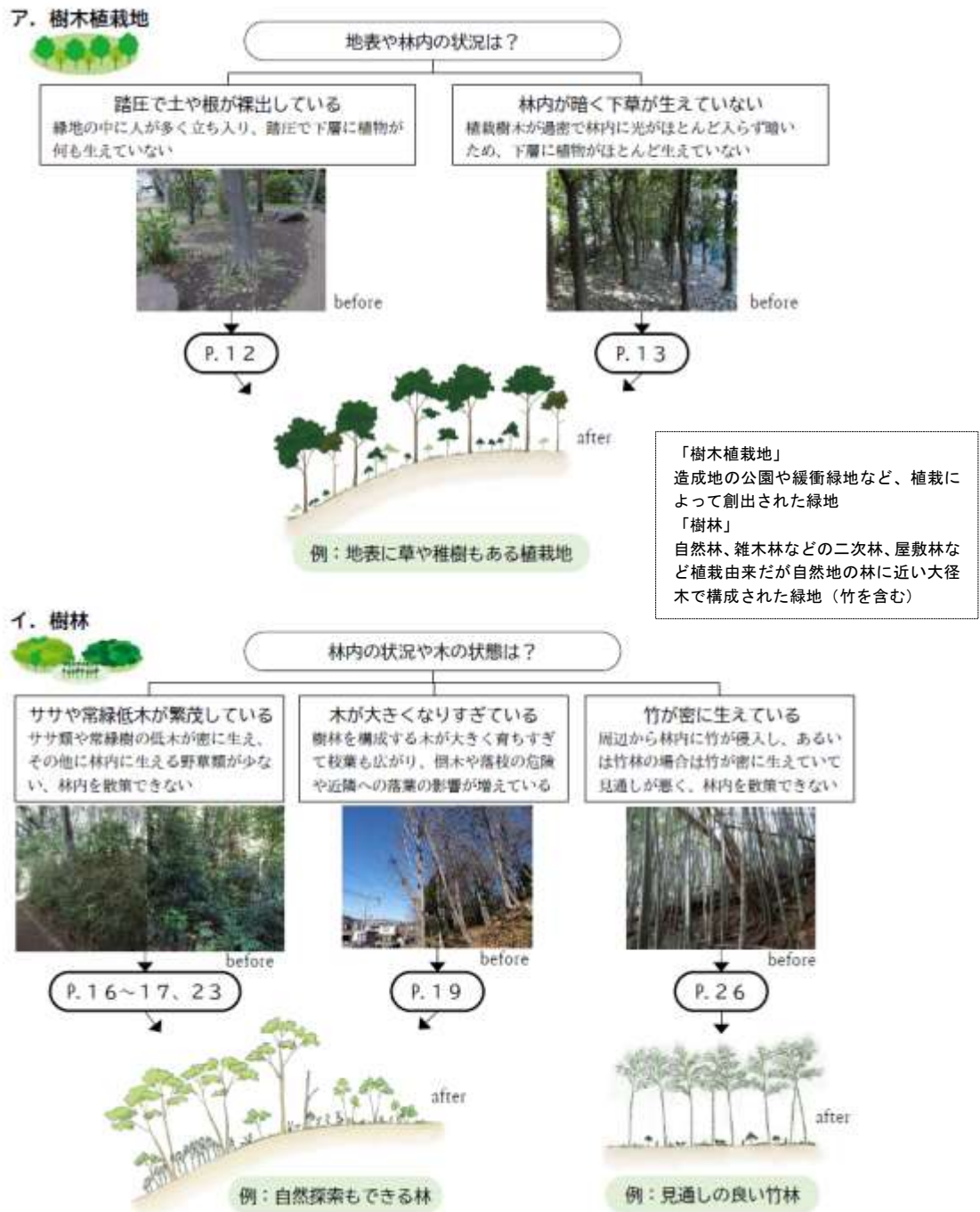
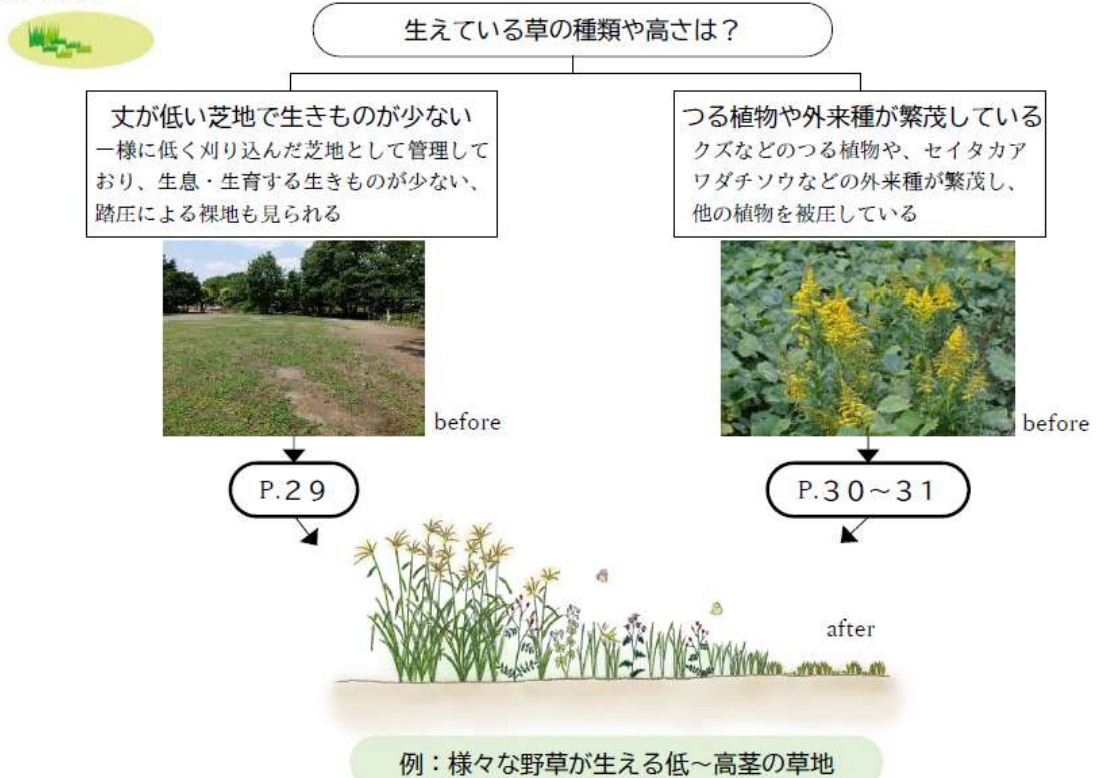


図2 緑地の環境タイプごとに見られる生物多様性保全上の課題とめざす姿の例（樹木植栽地、樹林）

ウ. 草地



エ. 水辺



図3 緑地の環境タイプごとに見られる生物多様性保全上の課題とめざす姿の例（草地、水辺）

（２）課題に応じたエコアップ手法

環境タイプごとの課題の中から一例として、「外来動植物が増えている池・湿地」(図4)を「在来水生植物が適度に生え、外来種の少ない水辺」(図5)にエコアップする手法をここでは取り上げる。本手引では、具体的な作業内容や時期のほか、実際に取組を行う際に現場で陥りやすい点や工夫するとよい点を分かりやすくポイントとして紹介している。(手引掲載の図に赤字で加筆。)

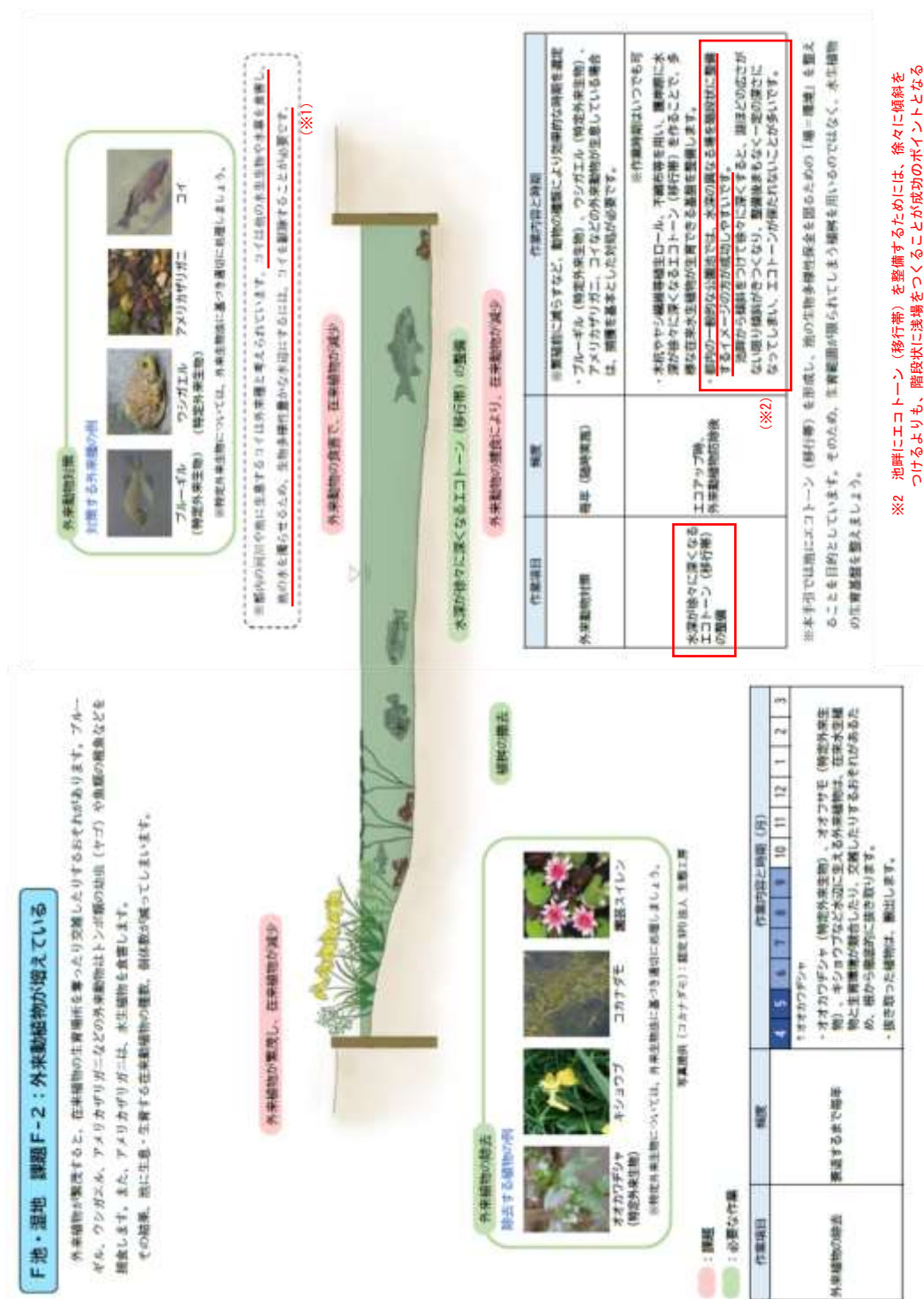


図4 「外来動植物が増えている池・湿地」のエコアップ手法

（３）実際の公園・緑地における取組事例

公園・緑地の管理者からすると、生物多様性のどのような解説書よりも実際の現場での取組事例が最も参考になるため、本手引では、樹林、草地、水辺それぞれにおける取組事例を取り上げ、取組内容や工夫したポイントなどを紹介した。

①土地のポテンシャルを活かしてハンノキ林を再生（都立井の頭恩賜公園）

都立井の頭公園では、井の頭池の隣接地の一角にあったハンノキ高木が平成 30（2018）年の台風で複数倒木したことを機に都がハンノキ林再生を計画した。ここは元々ハンノキ高木が生える池畔のくぼ地であったため（写真１）、大雨後は水がたまる湿潤な立地ポテンシャルを活かし、くぼ地をさらに掘り下げてより水がたまりやすくなるようにして、ハンノキの生育に適した環境を再生した（写真２）。



写真１ 整備前



写真２ 整備後（くぼ地を掘り下げた様子）

ハンノキ林再生地の管理・モニタリング調査の委託業務を都が発注し、その仕様に「市民協働による整備・管理実施」も入れることによって、広く一般の人が参加できる作業・体験を委託業務の中でイベントとして実施し、整備・維持管理に関心のある市民が身近な所で気軽に参加できる機会を創出した（写真３）。

公園で樹木の伐採等を行うと必ずと言っていいほど反対の声があるが、ここでは来園者に向けて目につきやすい場所に看板を掲示し、整備の目的・意図や目指す環境・景観などを伝え、伐採や掘り下げなどの整備への理解を得ている（写真４、５）。



写真３ 枯れ枝を利用しながら柵づくり



写真４ ハンノキ林そばの園路沿いに設置した看板



写真５ 整備の目的やめざす姿を来園者に伝える工夫

②芝生地に生きものに配慮した原っぱを創出（都立光が丘公園）

光が丘公園の芝生広場は元々年４回程度草刈りを行っており、その一角に草丈の高い“草地保全ゾーン”を設けていた（写真６）。その後、芝生と草地保全ゾーンの間に、公園利用者が自由に入って虫の観察などが行える“原っぱ”を設けた（写真７）。当初原っぱは芝生

広場よりは草刈り回数を減らして年数回行う想定であったが、利用者が虫探しなどで自由に歩き回る踏圧により適度に草丈が保たれるため、現在は基本的には草刈りを行わずに原っぱを維持できている。そのため芝生広場の草刈り面積を減らすことにもつながり維持管理上のメリットもある。



写真6 元々は芝生広場として年4回程度草刈りをしていた場所（右奥が“草地保全ゾーン”）



写真7 奥から“草地保全ゾーン”
→“原っぱ”→芝生

原っぱや草地保全ゾーンの植生管理は、公園の指定管理者と協働で、市民活動団体が自主事業として実施している。機械を使う草刈りや大きな労力のかかる作業は市民活動団体が行うが、刈り草集めや搬出、外来植物の抜き取りなど市民でもできる作業をイベントとして行っており、市民参加の機会を創出している。



写真8 市民参加で草地保全ゾーンや原っぱの保全・管理を行う
「武蔵野茅原組合」の活動（市民活動団体の自主事業で行っている取組）

③市民協働で池畔の外来植物キシノウズを駆除（都立石神井公園）

元々は観賞目的で導入されたであろう外来種のキシノウズは、初夏に咲く黄色いきれいな花に見慣れて駆除作業に反対する声がよくある。都立石神井公園では、石神井池のかいぼりをきっかけに、東京都、指定管理者、地域団体等が自然再生に関する定例活動を毎月開催し、隣の三宝寺池の湿地に保全されているカキツバタ群落（写真9）を目標に、池畔に群生するキシノウズ（写真10）の駆除活動を行い、この土地ならではの湿地環境の再生を目指している。作業後の環境・景観の目標像を具体的に示すことで、来園者のみならず保全活動に携わる人たちの中にもある駆除反対の声に対応している。



写真9 三宝寺池中の島のカキツバタ群落
（めざす姿）



写真10 石神井池の池畔に群生するキシノウズ

毎月の定例活動では、生態系保全・再生に詳しいNPO法人が第三者機関として活動に加わり、行政と市民をつなぐコーディネート役として三者（東京都、指定管理者、地域団体等）の良好な関係を構築し、技術的サポートも行っている。毎月定例で関係者が集まり、できることを一緒に行うことが、相互の信頼・協力関係構築や一体感を共有する大きな効果を発揮している（写真 11）。



写真 11 行政・市民が協働で行う駆除作業

外来種駆除のポイントは、目標達成まで継続して取り組むことにある。キシノウブ駆除などの対策やモニタリングにかかるまとまった予算を確保するのは難しいが、できる規模のことを継続することが重要で、石神井池では、数年かけて池畔の全てのキシノウブを駆除する目標を設定して毎年継続して取組を進めている。

（４）生きものの生息生育空間を創り出す工夫

（３）で紹介した取組事例はある程度規模の大きな取組であるため、予算の確保や活動体制を整える必要があるが、通常の維持管理の延長で出来るちょっとした工夫により、生きものの生息生育空間を創り出すこともできる。

枯れ木や倒木をあえて残置することで、クワガタ類など昆虫や小動物の生息の場となり、それらを捕食する鳥など他の動物も増えることが期待される。また、粗朶柵（写真 12）や落ち葉溜め（写真 13）は、剪定枝葉などの現場発生材を活用するため発生材処分量の減少につながり、それ自体が生きもののすみかになるほか、粗朶柵についてはロープ柵等を設置せずとも緩やかな人止め効果を生む。



写真 12 粗朶（そだ）柵



写真 13 落ち葉溜め

また、草刈り作業では、生い茂ったササ藪を刈り払う際に一部残すと、ウグイスなど藪を好む生きものの生息の場となり、樹林内への人の立ち入りを抑止することもできる（写真 14）。草刈りの頻度をエリアによって変えて草丈の高い場所、低い場所を維持することで多様な草地空間が生まれ（写真 15）、それぞれの環境を好む小動物がやって来る。パッチ状に草を刈り残すのも良い（写真 16）。



写真 14 ササ藪の刈り残し



写真 15 一部低頻度での草刈り



写真 16 パッチ状に草刈り

IV. 公園・緑地における生物多様性に向上に向けて

本手引の使い方や実際の公園・緑地での取組事例を紹介してきたが、実践において大切なことは、その土地の持つポテンシャル（野生生物の生息・生育環境としての潜在的なチカラ）を理解し、環境としての“場”を整えるために何をすべきかを公園・緑地の担当者が自ら考え、地域住民やボランティアの方々と認識を共有し、“場”毎に適した生物多様性保全の取組を行っていくことにあると著者は考える。本手引に掲載されている事例を参考に、それぞれの“場”の特徴を最大限に活かした取組を計画してみたい。

そして、更に大事なことはその計画を具現化するために、「まずはやってみること」である。本手引に掲載したように、大規模な整備工事を伴わなくとも、公園管理に携わる人達の工夫や市民協働による取組により、高い成果を生み出した事例も多数ある。まずは、本手引を参考に取組を始めてみましょう。そして、その成果を確認し共有しながら次の取組につなげていってください。

最初は小さな取組であっても、生きものの生息・生育環境としての緑地の整備、維持管理が各地で促進されることにより、周辺のみどりにつながるエコロジカル・ネットワークが形成され、東京全体の生物多様性が向上していくはずである。

公園・緑地の現場から、「まずはやってみましょう」。

写真提供

写真 1～8、10～11 認定 NPO 法人 生態工房

写真 14 八王子市長池公園

写真 16 スポーツパークパートナーズまちだ

写真の出典

写真 9 「石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保存活用計画」平成 30 年 東京都東部公園緑地事務所

令和3年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長

田中 利彦

I. はじめに

植物多様性の衰退が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年4月に開設された。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には情報館(650㎡)、学習園(16,000㎡)、栽培温室(200㎡)の施設がある。

情報館は、東京の植生図や丘陵地の公園を紹介するパネル展示や図書文献が閲覧できるライブラリーコーナー等、植物多様性に関する展示・解説を行っている。

学習園は、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度より指定管理者として職員7名の体制で執行している。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖については、平成19年度から25年度まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種(本土部43種及び島嶼部75種)選定し、保全策に基づき、それら植物種の現地調査等の域内保全や種子採取・無菌培養等の域外保全を平成26年度から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信については、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動主体の保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。このため、保全団体や愛好家等との情報連絡会や公園管理者連絡会等を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。また、土日には職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

本報告は、植物多様性センターが令和3年度に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考として、また今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができると考えている。

なお令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止を優先的に考慮しながら事業を展開した。そのため、島嶼部における調査や情報連絡会の対面開催の全面的な中止、またガイドツアーや講座等のイベントの一部中止といった措置を取ったことをここに記しておく。

Ⅱ. 絶滅危惧植物の保護増殖に関する取り組み

1 優先保全対象種等の植物調査

（１） 本土部における優先保全対象種の調査

本土部において令和3年度に実施した優先保全対象種の調査を、以下に示した。

No.	調査日	種名	調査概要
1	5月24日	タチスゲ	2個体確認。
2	5月24日	オオニガナ	
3	7月9日	スギラン	1個体確認。大きな石灰岩の崖の角に着生しており、肉眼での観察は難しい。
4	7月9日	キバナノショウキラン	目的地までの道が途中で崩落し、上ることは事実上不可能。案内人のヒアリングによると、数年前は多数発生、以降現在まで発生は確認できていない。
5	7月9日	ウラジロヒカゲツツジ	1個体確認。案内人によると開花及び結実が確認されている。
6	7月9日	マツノハマンネングサ	8個体確認。2015年調査から大幅に減少したが、以降個体数に変化はない。
7	9月14日	ゴマノハグサ	対象種の生育は確認できず。 過去の生育地（2002年8月30日が最後の記録）
8	9月19日	ヒメナエ	アイナエの誤認だった。
9	9月19日	シラン	

（２） 島嶼部における優先保全対象種の調査

島嶼部については、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため調査を実施しなかった。

2 東京都内における生息域外保全

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、以下に示した。

No.	種名	場所	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	島嶼部	H26年9月26日 種子採取 H30年8月29日 種子採取 H30年8月30日 種子採取	H26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	本土部	H27年10月1日 種子採取	新宿御苑へ送付（しいな）
3	オオシマシスラン	島嶼部	H27年1月20日 種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	本土部	H27年9月30日 種子採取	新宿御苑へ送付
5	キンラン	島嶼部	H26年9月3日 種子採取	H26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	島嶼部	H26年9月3日 種子採取 H30年9月11日 種子採取	H26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	島嶼部	H26年9月27日 種子採取	無菌培養、H26年より継続・無菌培養（2系統）
8	コウズエビネ	島嶼部	H27年10月5日 種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養（2系統）
9	シムライノデ	本土部	H30年2月15日 個体受取	栽培、危険分散のためつくば実験植物園へ送付
10	シラン	本土部	H27年9月15日 種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	島嶼部	H26年9月3日 種子採取	H26年より継続・無菌培養（対象外だがキョンの食害で消失の恐れがあるため採取）
12	ナギラン	島嶼部	H28年10月27日 種子採取	H28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	島嶼部	H27年7月7日 個体受取	栽培
14	ナツエビネ	島嶼部	H29年11月8日 種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	島嶼部	H28年10月27日 種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付（自生地消失のため代替地で採取）
16	ハマカキラン	本土部	H28年8月6日 種子採取	新宿御苑へ送付

No.	種名	場所	採取日	備考
17	ヒイラギソウ	本土部	H27年9月30日 個体採取	挿し木にて栽培、H26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	本土部	H29年11月16日 種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	本土部	H27年4月30日 種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	島嶼部	H28年11月1日 種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	島嶼部	H26年9月26日 個体採取	H26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	島嶼部	H27年11月17日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培
23	ミズネコノオ	本土部	H27年10月14日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	本土部	H29年7月13日 種子採取 H29年7月28日 個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	本土部	H28年1月22日 種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、 他の自生地から採種 新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	島嶼部	H30年10月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソブ	本土部	H30年10月3日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	本土部	H29年11月28日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	島嶼部	H30年10月7日 種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	本土部	H30年10月29日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付
31	カイコバイモ	本土部	R1年5月10日 種子採取	栽培、新宿御苑、筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	本土部	R1年9月3日 種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	本土部	R1年12月17日 種子採取	無菌培養
34	フジバカマ	本土部	R2年12月25日 種子採取	栽培

3. 建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、以下に示した。

事務所 担当部署	植物種名 数量・規模	目標等	取組状況	着手
				完了（予定）
北多摩北部 建設事務所 工事第一課 設計担当	マヤラン サガミラン マヤラン8鉢 サガミラン6鉢	菌根株の形成確認、開花	コナラ実生、腐葉土に植えた鉢の維持管理、共生可否の確認	平成24年6月1日（苗木） 平成24年10月19日（培養苗植付）
				平成27年度
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 1基	発現種や生育状況によって、継続した個体の保護・増殖、もしくは現地への植え戻し	埋土種子発芽個体の保護育成	平成24年12月11日
				平成30年程度（状況等による）
西部公園 緑地事務所 工事課 緑化推進担当	キンラン 三者共生：2鉢 二者共生：2鉢	委託業者のバックアップが枯れた場合は、整備事業終了後、現地への植え戻しを予定	菌根菌・コナラ等苗木との共生体の保護育成、共生可否の確認	平成25年5月26日
				平成31年
第三 建設事務所 工事第一課 環境対策担当	アマナ プランター2基 （土嚢6袋分）	整備事業終了後、現地への植え戻しを予定	個体の保護育成	平成27年6月24日
				令和3年
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 4基	発現種や生育状況によって、継続した個体の保護・増殖、もしくは現地への植え戻し	埋土種子発芽確認、発芽個体の保護育成	平成28年2月12日
				平成30年程度（発芽状況等による）
西部公園 緑地事務所 工事課 事業係	水生植物類 0.6m×0.9m バット 6基	発現種や生育状況によって、継続した個体の保護・増殖、もしくは現地への植え戻し	埋土種子発芽確認、発芽個体の保護育成	平成30年3月11日
				令和2年程度（発芽状況等による）
北多摩南部 建設事務所 工事第一課 環境対策担当	希少植物 3g程度	事業終了後、現地への播種を予定	種子の保存（1～2年間で種子を更新）	平成28年3月8日
				令和13年

事務所	植物種名	目標等	取組状況	着手
				完了（予定）
公園緑地部 公園管理担当	タチクラマゴケ 100㎡に点在	工事区域内の個体調査	個体調査 保全の助言	平成29年6月16日
				平成29年7月1日
公園緑地部 緑化推進担当 第二建設事務所 工事第一課	クスノキ 中央分離帯の3本 分の種子、差し 穂	工事区域内の伐採対象 個体の増殖、植え戻し	街路樹植栽までの保 護育成	平成30年10月16日
西部公園 緑地事務所 工事課 緑化推進担当	キンラン 無菌培養苗約50 株（4シャーレ） 菌根菌の保存2系 統（3シャーレ） 二者共生苗20株	無菌培養苗の育苗、植 え戻し	無菌培養苗の育苗、 菌根菌の保存、二者 共生苗の育苗	令和2年3月23日
				令和2年10月7日
第二 建設事務所	キンラン 共生苗4鉢	工事区域内個体の保護	個体の保護育成	令和4年1月31日
				令和9年（工事の状 況等による）

Ⅲ. 絶滅危惧植物の情報収集・発信に関する取り組み

1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは、情報館内ライブラリーコーナーにおいて、植物に関する書籍や保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。これまでの収集実績を以下に示した。

年度	冊数
H24	187
H25	288
H26	215
H27	257
H28	63
H29	112
H30	87
H31	104
R2	130
R3	30
計	1,473

2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、書面開催とした。ポスター・報告書等の提出団体数を、以下に示した。

	ポスター・報告書等提出団体数
本土部	22
島嶼部	9

3 ホームページの「お知らせ」

植物多様性センターでは毎週1回、ホームページの「お知らせ」を更新し、見ごろの植物を紹介している。令和3年度の「お知らせ」のタイトルを、以下に示した。

No.	更新日	タイトル	No.	更新日	タイトル
1	4月2日	タンポポの生存戦略	27	10月1日	タンキリマメとトキリマメ
2	4月9日	オトコヨウゾメの実生	28	10月8日	センニンソウのヒゲ
3	4月16日	ツクシとスギナ	29	10月15日	コシオガマの一生
4	4月23日	のっぽのシュラン	30	10月22日	アザミいろいろ
5	4月30日	もうひとつのマメ科の花	31	10月29日	イシミカワの意外な親戚
6	5月7日	手ごわいコゴメウツギ	32	11月5日	小型ミカンの中身
7	5月14日	コチャルメルソウの発芽	33	11月12日	秋のイボクサ
8	5月21日	ドクダミの総苞片のヒミツ	34	11月19日	サネカズラの実
9	5月28日	ウツギとハチの甘い関係	35	11月26日	ヤツデもうひとつの生態系
10	6月4日	2種のニワゼキショウ	36	12月3日	イヌビワの小さな生態系
11	6月11日	アカメガシワの花外蜜線	37	12月10日	ツワブキの花の構造
12	6月18日	果樹類の落果	38	12月17日	季節外れの花たち
13	6月25日	人間散布のヤブジラミ	39	12月24日	ホラシノブの紅葉
14	7月2日	ハンゲショウの夏化粧	40	12月31日	トチノキの冬芽の中身
15	7月9日	孤独のツノハシバミ	41	1月7日	赤い実総選挙？
16	7月16日	ヤブミョウガとミョウガは似た者同士？	42	1月14日	クロマツの種子
17	7月23日	ミズキンバイの謎の器官	43	1月21日	冬芽の雌雄性
18	7月30日	ウマノスズクサの秘密	44	1月28日	センダンの実、大繁盛
19	8月6日	東と西のヤブカラシ	45	2月4日	イヌハコベ現る
20	8月13日	ナンバンギセルの戦略	46	2月11日	アオキの実
21	8月20日	バアソブのポリネーター	47	2月18日	ノボロギクの旅立ち
22	8月27日	ヘクソカズラとハマサオトメカズラ	48	2月25日	アセビの花
23	9月3日	オカタツナミソウ	49	3月4日	ロゼットの金メダル
24	9月10日	カキノキ	50	3月11日	ネコヤナギの返信
25	9月17日	2種のスズメノヒエ	51	3月18日	続々・シバヤナギの性転換
26	9月24日	ハチジョウイタドリ	52	3月25日	オオバヤシャブシの花

Ⅳ. 植物多様性の教育・普及に関する取り組み

1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和3年度のエントランス展示の実施概要を、以下に示した。

期間	題
6月4日～9月5日	園内の水草
9月7日～12月5日	イネ科植物
12月7日～3月31日	植物の繊維

2 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは毎週土曜日・日曜日に、来園者を対象としたガイドツアーを実施している。令和3年度の実施回数と参加人数を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、令和3年4月～10月、及び令和4年1月～3月はガイドツアーを実施しなかった。

月	回数	参加人数
4	0	0
5	0	0
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	0	0
10	0	0
11	8	68
12	7	63
1	0	0
2	0	0
3	0	0
計	15	131

3 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、以前から予定されていた団体を除き、基本的に団体ガイドを実施しなかった。

No.	月	団体名	参加人数
1	10	逍遙の会	10
2	3	ブナの会	20
計			30

4 学習園植栽植物

令和3年度に来園者の観察・学習を目的として、温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、以下に示した。

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
1	4	ツルニンジン	管理	奥多摩借景
2	4	アヤメ	管理	奥多摩借景
3	4	クサボタン	奥多摩	落葉広葉樹林
4	4	ハンショウヅル	武蔵野	池回り
5	4	タムラソウ	奥多摩	石灰岩地
6	4	シラスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
7	4	ヌマトラノオ	奥多摩	池回り
8	4	ママコノシリヌグイ	奥多摩	池回り
9	4	ヒメウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
10	4	ヒメシャガ	奥多摩	落葉広葉樹林
11	4	バアソブ	奥多摩	落葉広葉樹林
12	4	ヒメシャガ	管理	奥多摩借景
13	5	ヤマアイ	武蔵野	雑木林
14	5	ギンラン	武蔵野	雑木林
15	5	コオニユリ	奥多摩	石灰岩地
16	5	ミシマサイコ	奥多摩	石灰岩地
17	6	ウラギク	管理	バックヤード
18	6	ホソバハマアカザ	管理	バックヤード
19	6	シオクグ	管理	バックヤード
20	6	イセウキヤガラ	管理	バックヤード
21	6	ハマツメクサ	管理	バックヤード
22	6	イネ「対馬」	管理	バックヤード
23	6	コウキヤガラ	管理	バックヤード
24	6	サクラタデ	管理	バックヤード
25	6	チョウジソウ	管理	バックヤード
26	6	オグルマ	管理	バックヤード
27	6	ノウルシ	管理	バックヤード
28	6	ヤナギトラノオ	管理	バックヤード
29	6	クサソテツ	奥多摩	湿生林
30	6	シュンラン	武蔵野	雑木林
31	6	カラタチバナ	管理	伊豆極相林
32	6	ヤブコウジ	管理	伊豆極相林
33	6	イヌゴマ	管理	バックヤード
34	6	ギンロバイ	奥多摩	石灰岩地
35	6	コシダ	奥多摩	石灰岩地
36	6	ホトトギス	管理	奥多摩

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
37	7	ヤブマオ	武蔵野	雑木林
38	7	クコ	武蔵野	礫地
39	7	ハマウド	武蔵野	礫地
40	7	ヒメミカンソウ	武蔵野	礫地
41	7	ケカモノハシ	伊豆	海岸砂地
42	7	ヤマジソ	伊豆	海岸岩地
43	7	イタビカズラ	管理	伊豆極相林
44	7	オオイタビ	管理	伊豆極相林
45	7	ツルナ	伊豆	海岸砂地
46	7	トゲナシサルトリイバラ	伊豆	火山性草地
47	7	ワニグチソウ	武蔵野	雑木林
48	7	ウラシマソウ	武蔵野	雑木林
49	8	クサネム	管理	バックヤード
50	8	ミズオトギリ	管理	バックヤード
51	8	タヌキマメ	管理	バックヤード
52	8	ホウライシダ	武蔵野	池回り
53	8	カワラヨモギ	武蔵野	礫地
54	8	センジュガンピ	管理	奥多摩
55	8	ヒガンバナ(2倍体)	管理	旧球根
56	8	ボントクタデ	管理	バックヤード
57	8	ヤマタツナミソウ	管理	奥多摩
58	8	ユウガギク	武蔵野	雑木林
59	8	クサボケ	管理	奥多摩
60	8	イヌゴマ	奥多摩	落葉広葉樹林
61	8	イシミカワ	奥多摩	湿生林
62	8	ヒメキンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
63	8	ウツボグサ	奥多摩	落葉広葉樹林
64	8	ヤブツルアズキ	奥多摩	落葉広葉樹林
65	8	ハダカホオズキ	奥多摩	落葉広葉樹林
66	8	ツリフネソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
67	8	キッコウハグマ	奥多摩	落葉広葉樹林
68	8	ハグロソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
69	9	キハダ	武蔵野	低木
70	9	タンキリマメ	奥多摩	湿生林
71	9	オトコエシ	伊豆	海岸岩地
72	9	ハマナデシコ	伊豆	海岸岩地
73	9	ハマボウス	伊豆	海岸岩地
74	9	ヤマイ	管理	バックヤード
75	9	マルバアキグミ	伊豆	海岸岩地
76	10	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
77	10	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
78	10	ホラシノブ	奥多摩	落葉広葉樹林
79	10	リョウメンシダ	奥多摩	湿地エリア
80	10	リュウノウギク	奥多摩	石灰岩地
81	10	クチナシ	管理	極相林
82	10	カワラノギク	武蔵野	礫地
83	10	ハマダイコン	伊豆	海岸砂地
84	10	ツルナ	伊豆	海岸砂地
85	10	ハマヒルガオ	伊豆	海岸砂地
86	10	カラスノゴマ	武蔵野	雑木林
87	10	ナギナタコウジュ	武蔵野	雑木林
88	10	オニグルミ	武蔵野	礫地
89	11	ヒメシャガ	奥多摩	石灰岩地
90	11	キクタニギク	奥多摩	石灰岩地
91	11	ウラハグサ	奥多摩	石灰岩地
92	11	アズマヤマアザミ	奥多摩	石灰岩地
93	11	アズマヤマアザミ	奥多摩	石灰岩地
94	11	ハンショウヅル	奥多摩	石灰岩地
95	11	リュウノウギク	奥多摩	石灰岩地
96	11	ムラサキニガナ	奥多摩	石灰岩地
97	11	ホンモンジスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
98	12	ユキノシタ	武蔵野	池回り
99	12	センリョウ	管理	旧球根
100	12	アオキ	管理	奥多摩
101	12	カワラノギク	武蔵野	礫地
102	12	シバヤナギ	奥多摩	落葉広葉樹林
103	12	ニオイタチツボスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
104	12	ジュウニヒトエ	奥多摩	落葉広葉樹林
105	12	コチャルメルソウ	奥多摩	湿生林
106	3	シバオノエヤナギ	武蔵野	池回り
107	3	マテバシイ	武蔵野	雑木林
108	3	ハタザオ	武蔵野	礫地
109	3	オヘビイチゴ	管理	バックヤード
110	3	シロバナサクラタデ	武蔵野	池回り
111	3	マツバスゲ	武蔵野	池回り
112	3	マツバイ	武蔵野	池回り
113	3	コウガイゼキショウ	武蔵野	池回り
114	3	オグルマ	武蔵野	池回り
115	3	ノジマトラノオ	武蔵野	池回り
116	3	ミゾカクシ	武蔵野	池回り

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
117	3	ミズドクサ	武蔵野	池回り
118	3	コナラ	武蔵野	雑木林
119	3	アカガシ	武蔵野	雑木林
120	3	ノリウツギ	武蔵野	池回り
121	3	イヌシデ	武蔵野	雑木林
122	3	アブラガヤ	武蔵野	池回り
123	3	クサソテツ	奥多摩	池回り
124	3	ハコネウツギ	武蔵野	雑木林
125	3	クコ	奥多摩	池回り
126	3	センリョウ	管理	伊豆極相林
127	3	クチナシ	管理	伊豆極相林
128	3	ホンモンジスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
129	3	タカオスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
130	3	エイザンスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
131	3	ヤマルリソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
132	3	ツルマサキ	奥多摩	落葉広葉樹林
133	3	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
134	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
135	3	フクジュソウ	管理	フクジュソウ園
136	3	ミチノクフクジュソウ	管理	フクジュソウ園
137	3	トボシガラ	奥多摩	落葉広葉樹林
138	3	オドリコソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
139	3	シンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
140	3	ルリソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
141	3	コクサギ	奥多摩	落葉広葉樹林
142	3	オカタツナミソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
143	3	タカオスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
144	3	コチャルメルソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
145	3	ナミキソウ	武蔵野	礫地
146	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
147	3	モクレイシ	管理	伊豆極相林
148	3	シチトウスミレ	伊豆	海岸岩地
149	3	スズメノカタビラ	武蔵野	路傍
150	3	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
151	3	ナシ	武蔵野	果樹林
152	3	オオツクバネウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
153	3	ウラハグサ	奥多摩	石灰岩地
154	3	タチツボスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
155	3	アキノキリンソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
156	3	ヌマトラノオ	奥多摩	落葉広葉樹林

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
157	3	ジュウニヒトエ	奥多摩	落葉広葉樹林
158	3	ヌカボシソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
159	3	タチタネツケバナ	奥多摩	石灰岩地
160	3	ヒメニラ	奥多摩	落葉広葉樹林
161	3	ケスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
162	3	ヤマスズメノヒエ	奥多摩	落葉広葉樹林
163	3	ニシキギ	武蔵野	雑木林
164	3	ツリバナ	武蔵野	雑木林
165	3	ヤマハギ	武蔵野	雑木林

5 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	7月10日	13:30～16:00	第13回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム（オンライン）	藤森 祥平氏 大城 温氏 藤井 健太氏	27
2	8月22日	10:00～12:00	親子で養蜂家体験ミツバチとともに ちになろう！	小野 俊英氏 杉沼 えりか氏 御園 孝氏	11
3	12月12日	13:30～15:00	センター講座 冬芽博士になろう！	センター職員	19
4	1月23日	13:30～15:30	ガイドツアースペシャル	センター職員	中止
5	2月27日	13:30～15:30	伊豆諸島の植物多様性と保全の最前線（オンライン）	上條 隆志氏	24
6	3月13日	13:30～15:30	東京都レッドリスト植物たちの今（オンライン）	内野 秀重氏	25
合計					106

※中止は、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため。

6 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネルの展示を実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月日	題	場所
1	4月1日～4月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	東南植物楽園(沖縄県)
2	4月1日～5月31日	生物多様性のはなし	国営武蔵丘陵森林公園(埼玉県)
3	6月1日～6月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	七北田公園都市緑化ホール(宮城県)
4	8月17日～10月31日	生物多様性のはなし	小峰公園サービスセンター
5	10月1日～11月30日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	東南植物楽園(沖縄県)
6	3月1日～3月31日	植物多様性センターの紹介、生物多様性のはなし	豊橋総合動植物公園(愛知県)

7 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて外部での講座を実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月日	参加人数	題	場所
1	6月3日	21	学んで楽しもう 植物との長いおつきあい	調布市西部公民館

8 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、小学校や各種団体向けに、植物をテーマとした学習プログラムを実施している。令和3年度の実施状況を、以下に示した。

No.	月	団体名	人数	No.	月	団体名	人数
1	6	日本大学生物資源科学部	15	7	11	女子学院中学校・高等学校	32
2	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	26	8	11	調布市立北ノ台小学校	143
3	7	日本大学生物資源科学部	25	9	12	東京環境工科専門学校	4
4	9	調布市立北ノ台小学校	142	10	12	葛飾区生物多様性推進協議会	17
5	10	東京都立調布特別支援学校	51	11	12	小金井市子供会父兄連合会	17
6	10	調布市立緑ヶ丘小学校	59	12	1	調布市立北ノ台小学校	135
合計							666

V. その他

1 来館者数

令和3年度及び過去2年間の植物多様性センター内情報館の来館数を、以下に示した。なお令和3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、4月1日～6月3日、1月12日～3月2日の期間は臨時休園措置を取った。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H31 / R1	4,572	4,087	2,354	2,160	1,933	2,280	1,971	2,391	1,950	2,665	3,991	3,498	33,852
R2	0	0	2,860	2,223	2,466	2,710	3,131	3,335	1,832	0	0	0	18,557
R3	0	0	2,298	2,132	1,720	2,796	2,557	3,457	2,418	1,075	0	1,227	19,680



令和3年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

前館長 高橋 将

I. はじめに

令和3年度は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)が開催され、都立夢の島公園はアーチェリー競技の会場として使用された。開催前は大会組織委員会による競技施設の設置工事における定例会の出席や安全指導の他、セキュリティやスケジュールの確認など協議し、運営ルールに従い管理を行った。会期中も運営担当・警備担当と連携し、巡回強化や維持作業の要望に答え、世界が注目するスポーツの祭典は大きな事故も無く無事終了することができた。



写真1 アーチェリー競技会場

大会終了後は撤去工事や復旧工事が開始され、利用者への案内や動線の確保、園内の工事車両の安全走行など利用者の安全第一で施工するよう指導した。10月には予選会場として使用されたアーチェリー場が開放となった。アーチェリー場と連携した体験イベントを開催し、レガシー施設を活用した公園の新たな魅力を発信できた。

植物館では、感染症や大会による臨時休館(約6か月の休館)があったが、DXを活用したイベントや動画配信、さらにSNSを充実させ、コロナ禍で来館が困難な方にも楽しめる新たな施設利用を提供した。また、他施設でのアウトリーチ活動を行い、新たな利用者層を得たことや、大学と連携し、コロナ禍で困難となっている学生に発表の場を提供し、感謝の言葉を頂いている。

II. 夢の島公園

1 公園運営

前年度(令和2年度)末より再開された大会整備は、園路を閉鎖してのクレーン車設置やセキュリティエリアのフェンス工事、決勝会場の設置の他、電気や通信の工事も行われた。開催1ヵ月前からは、設置工事を行う大会組織委員会の整備担当に加え、運営担当や警備担当も常駐し、入園パスの発行や大会に向けた感染症対策、開催期間における運営管理の他、セキュリ



ティエリア外での車両走行についても協議した。



写真2 大会組織委員会と協議や打合せ

6月中旬からはセキュリティが一段階上がり、一般来園者は入園できるものの公園入口は一ヵ所と制限された。バス停からの階段は閉鎖され、園内施設の第五福竜丸展示館からのアクセスもできなくなったため、園内各所に掲示看板を増設し、利用動線を示した。なお、警備担当とは、持ち込み品（維持管理用品含む）の調整などを重ね、職員と共有して入園制限期間に備えた。7月7日からは一般利用者は入園不可となり、植物館も休館となった。職員は入園のたびア kredィテーションパスの提示や荷物検査を受け、また、園内の移動も選手と距離を保って行動するなど大会運営ルールに従った。さらに会期中は、園内の植物館敷地前にもセキュリティのフェンスが立ち、植物館内への立ち入りも警備のチェックを受けて入館した。植物館などの設備点検や定期作業があるが、会期中は車両許可台数が限定されたため、事前に作業や点検項目を精査し、可能な範囲内で会期前後の計画にするなど大会運営に支障が無いよう協力した。

維持管理では、大会のために新たな作業となった会場清掃業務の他、組織委員会と連携した巡回を強化し、風揺れによる防犯センサー発報対応（剪定作業）やスズメバチの巣の撤去など、セキュリティにより入園できる業者が限られる中（事前登録外の入園は不可）、時に職員自ら運営側の要望に応じていった。台風の接近や選手の熱中症、選手移動バスの接触事故などはあったが、大きな問題はなく無事終了した。



写真3 大会前 利用動線の樹木管理



写真4 入園パス（身分証明）検温・荷物検査





写真6 会場清掃業務や巡回を強化
作業箇所の変更など臨機に対応

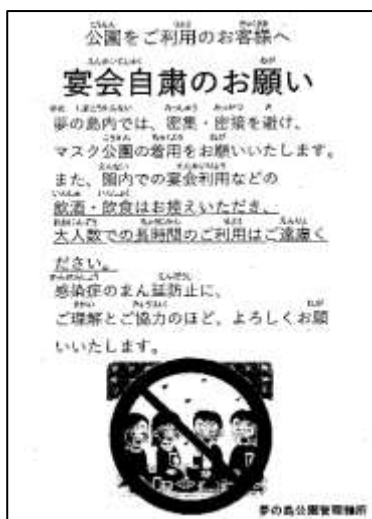


写真7 突発的な案件は職員が対応
(ハチの巣除去など)

東京 2020 大会後は、入園不可期間も終了し、それまで不可だった自転車の通行や宅配業者が入れるようになった。大会組織委員会とは、復旧スケジュールを打合せ、東京都建設局と共に施設不具合個所の確認を行い、特に大型車両が走行したことによる舗装の段差や芝生地の復旧を立ち会った。復旧工事が進んでいくにつれて開放区域が広がったが、工事後の未整地や通行車両の安全指導を徹底した。11月には南側（第一）駐車場が、12月にはグリーンパーク（植物館横芝生地）が復旧工事を終え、3月末までには決勝会場となった陸上競技場や園路の段差などの復旧が終了した。



写真8 復旧工事定例会



なお、利用者への感染症対策は継続しており、園内アナウンスによる注意喚起の継続の他、大会により使用停止となっていた BBQ 利用は利用人数を制限しつつも 11 月から再開とし、1 月にまん延防止等重点措置が発令された後は、利用停止、園内での飲酒なども自粛して頂いた。



写真9 利用者第一での安全管理を指導

2 公園維持管理作業

令和3年度は夏期に東京2020大会が開催されたため、前年度計画した5ヵ年計画をもとに植栽管理作業の実施検討を行った。大会組織委員会との打合せ内容も含めた検討の結果、レジリエンス（災害対応能力）の高い公園づくりの達成のため、作業エリアと作業方法を変更し、東京2020大会での選手・関係者・観客導線を重点的に行う計画を策定した。

大会期間中は、大会関係者と連絡を密にとり、気象情報から園内で起こりうる災害リスクを共有し

た。また状況に応じて倒木等の処理を迅速に行える体制を整え、主要動線上や園内広範囲で樹木管理を行い、「安心・安全・快適」な状態で大会開催を迎えることができた。さらに、隣接する緑道でも被害が確認された「ナラ枯れ」の対策では、優先度をつけ、決勝会場となるメイン園路沿いの樹木薬液樹幹注入作業を実施。この結果、大会期間中の被害発生は無く、防除対策の効果が伺えた。会期中は大会スケジュールを鑑みた臨機応変な作業により円滑に大会が運営されるよう維持管理を行い、安全な大会開催へ寄与することができた。なお、大会前に大径木管理を先行して実施することで、大会期間中の災害被害をゼロに抑えることができた。

その他、樹木診断結果をもとに倒木のリスクのあるスロープ沿いエリアの剪定を実施した。高所作業車の使用が困難な樹林地内は、高所ロープを用いて樹木医の資格を持つ技術者が作業を行い、適正な管理を遂行した。

施設管理では、大会関係工事と調整を図り、不要公園灯の撤去や車止めの交換などを実施。また、大雨などの自然災害への備え、排水改善を行い、快適な施設利用に繋げている。



写真10 ナラ枯れ対策



写真11 ユーカリ樹高低減作業（ロープワーク）



写真12 排水樹清掃

職員教育では、特に事故の多い草刈り作業において、職員や委託業者を集めた講習会を開催。近年の事故の傾向や事例、また、様々な機器の使い比べを委託業者とともに実践。新たな装備が加わった機械の紹介など、講習会により安全意識の向上の他、新機種の導入による事故防止に取り組んだ。



写真 13・14 安全講習会

また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施。自衛消防隊を設置し、各担当が避難誘導。アーチェリー場を最終避難所として消火訓練を実施した。また、園内の防災施設点検や災害対応トイレの設置訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを行った。



写真 15 防災トイレ設置訓練



写真 16 避難訓練、消火訓練

3 公園利用促進事業

東京 2020 大会関連で、閉鎖区域の拡大により利用できる広場も減少し、また、会期中 2 ヶ月間は公園主要個所への入園もできなくなった。大会終了後も撤去工事等が行われ少しずつ園路などは開放されたが、決勝会場（競技場）の現状復旧工事などは年度末まで行われたため、工事関係の大型車両などの通行がある中での利用開始となった。さらに、感染症に留意しながらの運営も継続となり、団体利用や学生の受入れも自粛や縮小した。

そのような中、秋には、先に開放となったアーチェリー場のオープニングイベントに、公園事業としてミニアーチェリー体験会を隣接する江東区陸上競技場と連携して開催。参加した児童のみならず、保

護者も楽しんで頂くなど、大会により利用制限のあった公園で、レガシー施設を活用し公園の魅力を発信し、久しぶりに広い広場を楽しまれる姿が見られた。また、「アーチェリー場をどのように活用できるだろうか」をテーマに大学生が描いた企画を展示した企画展を開催。学生らしい視点は観覧者にも好評で、施設を通じて夢の島公園の認知度や魅力の向上に繋がった。

なお、ボランティア活動では、夏の大会を草花で彩り日本のみならず海外の方たちをもてなすことを目的に植付イベントや勉強会を実施してきた夏花（夏に強い花・夏によく咲く花）の植付を実施。セキュリティの関係で観戦者の動線などの情報を得られない中、大会組織委員会と打合せを重ね、選手やスタッフなど国内外の方々の目に付く場所に花壇を設置し、公園管理者として、おもてなしを行った。会場工事ばかりが目立つ公園の中で、来園者の憩いの場となったこの夏花花壇は今後、大会のレガシーとしてさらに発展させていく予定である。



写真 17 ミニアークチェリー体験を開催（公園事業）



写真 18 公園活用アイデア大発表企画展



写真 19 夏花花壇（協働作業）

また、社会も自粛となる事業も多い中、都内の中学校も自ら出向いて課題解決学習に取り組めない時期に、ON-LINE での講義依頼を受諾。リモートで学校と継ぎ、夢の島の歴史に関する講義を行い、コロナ禍において体験的な学びの場を提供した。



写真 20 ON-LINE 授業

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1 植物館利用と入館者数

植物館は、年度当初から6月4日まで、緊急事態宣言に伴う臨時休館となり、7月7日からは公園で東京2020大会によるセキュリティ強化入園不可期間のため9月6日まで休館となった。再開館後も1月11日からは第6波感染拡大対策として3月21日まで休館。結果的に年間140日の開館となった。大会が終了した9月からの再開館では、入館予約システムを導入し、入館上限設定に従って運営した。10月にはご来館頂きながら、やむなくご予約のない方をお断りしなければなら

ない事態もあった。また、企画展は実施できたものの、イベントの自粛、ボランティアガイドなどを休止の他、幼稚園や学校関係の団体の受付も休止した。夏期は東京2020大会開催で、入園不可期間前後はバンプアウト期間（6/14-7/6、9/7-12）として、公園に入園できるものの入口が1カ箇所のみとしたため、利用できる北側駐車場やバス利用者にとっては遠回りとなり、植物館までに時間を要することで来館を控える方も多かった。前年も感染症対策として約5ヵ月休館（180日の開館）したが、今年度は、東京2020大会期間の休館を含め140日間閉館したが、入館者数はここ数年と比較しても大きく上回る結果となった。

その他、感染症対策は継続。コロナ対策リーダーの受講（カフェ）や新たに可動式授乳室の設置、カフェ・売店のキャッシュレス化など快適な利用の提供を行った。また、前述した「予約システム」は、ご利用者からは好評をいただき、コロナ禍に於いて「安全・安心」に繋がった。（3月から滞留式管理方式に変更し運営を再開。）感染症による臨時休館、公園での東京2020大会の開催により、例年とは異なる運営となったが、DXを活用した運営や広報を積極的に取り入れ、利用者目線で楽しめる工夫や癒しの空間の提供、さらに環境問題の提言を含めた教育機関として、魅力ある施設運営を図った。



写真 21 モニターを使用したガイダンス



写真 22 コロナ対策リーダー動画視聴



写真 23 可動式授乳室設置

2 植物館維持管理

昨年度、温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを伐採したが、継続してその他のヤシ類などを含め、大型樹木に対して定期的な樹木点検を実施した。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。さらに景観が一時的に大きく変わる作業（強剪定や草本整理、新規植え付けのための伐根・除草等）は臨時休館中を利用した。なお、伐採したヤシは、前庭芝生地に展示した他、動画で作業風景を配信し、来館者に管理の重要性を知って頂く機会にも繋がったと考える。

植物は、特にイベントホールやエントランスの観葉鉢物の状態が良くなり、景観が向上した。栽培温室で開花し、エントランスで展示する植物の種類が増え、ガーデニア・タヒテンシスやストロファンツス・プレウシイ等熱帯らしい花を展示できる回数が増え、来館者に喜ばれた。

臨時休館中は展示する機会はなかったが、再開館後に栽培温室で保有しているラン類の開花が増え、エントランスやイベントホールに常時数種類の鉢を展示でき、珍しいランの紹介ができた。エントランスに常設している小笠原コーナーの小笠原関連の植物の花も絶えず咲き、エントランスに滞在されてご覧



写真 24 ロープワークによる
高性ヤシの手入れ



写真 25 本日のスタッフおすすめ
（みごろの花情報）

になっている方が多かった。植物展示鉢は、季節の企画展に合わせて小まめに入替えを行い、「小笠原諸島展」では栽培温室の鉢を移動して解説文とともに展示するなど、保有する固有種を紹介し、施設の魅力向上に繋がった。なお、公式 HP の開花情報文にて植物の情報を「本日のスタッフのおすすめ」として発信。臨時休館中は、毎日更新した。紹介した植物を御覧になるのを目的に来館されたり、電話での問い合わせがある等、反響があった。東京 2020 大会開催中の臨時休館時には、夜間開館が開催できなかったことから、「夜も楽しめる植物編」として夜咲く、夜香る植物を紹介し、夜間開館の雰囲気を楽しんでいただいた。ハロウィン時期には、館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したものの名前を持っていたり、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみしているというお客様の声に応えることができた。

トピックとしては、日本植物園協会を通じて、閉館する渋谷区ふれあい植物センターの植物譲渡について手を挙げた。実地で見学し検討を行い、51 種を選定し申請した。1 月および2 月に植物の引き取りを行い、大温室に6 種、ハーブ園に5 種、北側花壇に3 種を植え付けた。その他は適宜植え替えを行い、イベントホールや食虫植物温室に展示した。大型のリュウケツジュは鉢に植付けイベントホールに設置。新たな見所を創出した。渋谷区ふれあい植物センターでは、Twitter で当館の宣伝をしていただき、連携をとることができた。

その他、日本植物園協会が毎年発行している日本植物園協会誌（第 56 号）に当館の施設や作業紹介を寄稿。全国に設置されている植物園に施設や作業について詳しく知って頂き、各園との連携も深まることとなった。また、初めて実施された全国の植物園の施設を動画で紹介する「オンラインツアー」に参加。施設紹介の動画を提供した。動画は、日本植物園協会の YouTube チャンネルで配信され、NHK テキスト「趣味の園芸」などでもご紹介いただけて、コロナ禍で施設利用が減少した全国の植物園の普及啓発となった。

施設設備管理では、植物館開館から 30 年以上が経過し老朽化が進む一方、キャッシュレス発券機など新たに導入した設備もあり、老朽化した施設設備の更新、不具合個所の修繕の他、新しい設備の環境整備（例えば券売所のオーニング設置など）を実施。計画していた大規模改修が延期となった事から、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含



写真 26 植物の譲渡（新たな見所の創出）



写真 27 発券機オーニング設置



写真 28 老朽化した配管の交換（地下ピット内）



写真 29 栽培温室カーテン交換

む) や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行い、維持修繕による施設の快適な環境改善を図り、施設の長寿命化、施設の機能の維持、安全性の向上、美観の向上に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合(温水の漏水など)が発生した際は、優先順位を高めて迅速に対応したことで、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。

職員教育では、感染症拡大防止の為、外部研修や講座への参加は控え、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。また、本部の研修はLive配信やeラーニングを活用。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行い、コロナ禍でも質の高い研修となった。さらに、安全パトロールや避難訓練の他、植物館で飼育しているミツバチの指導を頂いている養蜂家に依頼し「スズメバチの安全対策講習会」を実施した。蜂に詳しい養蜂家の体験談や映像なども含めた講話によりスタッフ全員が身近な脅威として刺傷の対処を職員全員で共有した。大会による立ち入り制限などでハチの巣の発見が遅れ、例年以上に被害も増える中、有効な講習となった。



写真 30 避難訓練



写真 31 養蜂家によるハチ講習

3 植物館利用促進事業

先に記した通り、令和3年度も休館が多い年となった。前年度開始した公式HPの「バーチャル植物館(VR)」は、ご来館頂けない中、居ながらにして植物館を楽しめるコンテンツとして人気で、団体利用や撮影利用の方が植物館内部を見るため非常に便利であると施設のPRとしても有効だった。令和3年度も施設の新しい取り組みでYouTube「ゆめねつチャンネル」を開設。子供でも理解しやすいコンテンツ「さよならダイオウヤシ」「植物館紹介」とし、「みごろの花」情報は大人でも楽しめる落ち着いた内容とするなど、動画作成に



写真 32 YouTube ゆめねつチャンネル



LINE(リッチメニュー追加) Twitter(令和3年6月開始) Instagram(ストーリーの活用)

写真 33 SNSによる広報強化

も視聴層の幅を広げる工夫を凝らした。動画を見たことで来館頂いた方もおり、新しい取り組みを提供できた。そして新たなSNSとしてTwitterも開始。従来から運用していたInstagramと相互に連携しながら、「SNS Link ポータル」を介し、これまであまり植物に親しみのなかった世代やコミュニティーにまで来館促進を行った。9月にはZOOMを使った「ONLINE 夜間開館」をライブで配信。さらに、2月の休館中には「ゆめねつLIVE オンラインツアー」を配信。利用者と双方向なバーチャル開館を開催した。若い世代には自身のフォロワーと共にONLINE開館を楽しんでいただき、60代70代の女性の方や、北海道や秋田・広島・京都など遠方の方からもご参加をいただくまでとなった。

コロナ禍でも動画配信やSNS、ONLINEで植物館を楽しんでいただき、物理的に来館できない方々にも時間と情報を共有いただける対策を実施した。なお、ガイドボランティアは管内でのガイドツアーができなくなり、ほとんどの活動が停止していたが、リモートで音声データを提供していただき植物館で動画と合成し、オンラインツアーなどで披露しYouTubeのゆめねつチャンネルに期間限定で解説動画を公開



ON-LINE 夜間開館 (9月)



ON-LINE ガイドツアー (2月)

写真 34・35 休館中の取り組み

した。また、同動画を利用し、ドーム内でアプリやコンテンツのダウンロードなしで解説を聞ける QR コードを設置し、夜しか咲かない花、1 日の中で色が変わる花、夜動く花・葉などを、異なる季節や日中でもその場で映像を楽しめるバーチャルガイドとして実施することができた。こういった積み重ねによって、これまで当館の存在さえも知ることのなかったあらゆる年代層に情報提供を行い、来館数の拡大につなげることができたと考える。



ぬいぐるみおとまり会



亀戸中央公園

写真 36 休館中の取り組み（アウトリーチ）

東京 2020 大会による休館時期は、施設から飛び出したアウトリーチを実施。他施設と連携し「ぬいぐるみおとまり会」を企画。当社グループで指定管理をしている施設を受付場所とし、さながらぬいぐるみを夢の島熱帯植物館へ旅に出すツアーデスクのかたちで受付を設けた。施設受付は当館近隣の都立猿江恩賜公園、都立亀戸中央公園の管理事務所とやや遠距離でありながら公共交通機関 1 路線で当館へ来館できる埼玉県三郷市ピアラシティ交流センター、豊島区立イケサンパークとし、来館の可能性のあるエリアのニーズを測ることのできる場所をセレクトした。予約開始日の翌日には各施設共満席となり、その後も問い合わせが相次いだ。お預かり中に植物館でぬいぐるみが過ごしている様子を写真に撮り、アルバムにして返却。ぬいぐるみと離れることでお子様の独立心を図り、親子の会話を増やすことがで



写真 37 大学連携による企画展



写真 38 アフリカのヴィルンガ国立公園と

ZOOM をつないで講演会を開催

きたと好評を頂いた。また写真を持って帰ってきたぬいぐるみの写真と同じ場所へ行き、植物を觀賞し
たくなるというご感想も多く、大会により、人の出入りが制限された時期に施設の認知向上と再開館後
の新規来館者の開拓に繋がった。

企画展でのトピックとして、世界に関連した企画展示として「あつまれ！熱帯探検隊！」を慶應義塾
大学アフリカ研究会と連携し実施。熱帯地域を中心とした地域の植物や動物の生態系について、学生の
柔軟な考えと行動を取り入れ、熱帯であるアフリカでどのような生き物や植物が生息しているか子供か
ら大人まで楽しめる企画で、展示パネルが大学生らしいデザイン性だったことも起因し、パネルや標本
のキャプションに足を止める方が多かった。子供向けには塗り絵・折り紙コーナー、絵本コーナーを設
置。週末には映像ホールを使用し、ゴリラの保護活動等を行っているアフリカのヴィルンガ財団の方と
ZOOMによりライブでやり取りするなど新しい手法も取り入れた。植物館にはじめて来館したという方も
多く、イベント後にはドーム内などを散策いただき新規の獲得に繋がった。また、コロナ禍で活動は
もとより発表の場を大きく制限されている学生達から、「今回の施設利用は有益となった。」と感謝の言
葉を頂いている。

その他、従来の企画展も継続し、年間学習のテーマのミツバチ展では、採蜜体験の他、ハチミツをオ
リジナル商品として販売を開始。企画展の観覧前後に購入される方も多く、企画展を通じて植物館がミ
ツバチと関係していることも伝えられ、ご来館頂いた思い出の品として、とても人気の商品となった。



写真 39 年間学習テーマ ミツバチ展



写真 40 オリジナル新商品として販売

IV. さいごに

令和 3 年度は東京 2020 大会の開催と感染症拡大にともなう休館が半年以上もあり、ご来場の機会が
失われた年だった。そこで YouTube や SNS、ON-LINE イベントなど、映像などを駆使し、外出自粛中
は家から、そうでなくても全国どこからでも楽しめる新たな施設利用の方法を模索した一年となった。
新たな企画はとても好評を頂いており、施設の認知度も向上していると感じている。まだまだ感染症に
は留意が必要だが、今後も安全・安心に楽しめる施設を目指していく。

地域とともに創る花と笑顔あふれる公園へ ～浮間公園に1万本のチューリップを！～

公益財団法人東京都公園協会

浮間公園サービスセンター

三村 和子

I. はじめに

都立浮間公園は、昭和42年に開園し、浮間ヶ池と風車が印象的な公園で、JR埼京線「浮間舟渡」駅下車徒歩1分、北区・板橋区の区界に位置するアクセスのよいところにある。公園面積の約40%を占める浮間ヶ池は、荒川放水路が開削される以前の荒川本流だったところで、この池とバードサンクチュアリを中心に数多くの野鳥が観察でき、また都立公園ではめずらしく釣りが楽しめる。公園東側の一角には、かつてのサクラソウの名所として知られた浮間ヶ原の伝統を伝える桜草園場がある。また運動施設としてテニスコートと野球場があり、そのほか子ども向け遊具のある広場やじゃぶじゃぶ池などもある幅広く利用いただける公園である。本稿では、令和2年度からはじまり、今も進化・発展し続けている浮間公園の地域と一体となった花壇づくり等の取組みについて紹介する。

II. 協議会「チーム UkiUki ミーティング」の立ち上げ

令和2年2月、浮間・舟渡地域を対象としたオープンハウスを開き、「子どもの体験活動や、飲食できる快適な空間がほしい！」という、ニーズが多くあることに着目。そこから地域の企業、市民団体、公園指定管理者が連携し、北区・板橋区の垣根を超えた協働で、新たな魅力づくりに取り組む「うきまガーデンカフェプロジェクト」を立ち上げ、公園協会を含む10団体と協議会形式の「チーム UkiUki ミーティング」を設置。定期的な意見交換や事業運営を通じて、浮間公園のランドマークである風車広場を中心に日常的にくつろげる空間創出を目指していくこととした。

III. ボランティア団体「うきうき隊」の組織

浮間公園では、それまでは個人ボランティアの方たちが園内の花壇の植栽等を手掛けていたが、後ほど記載するチューリップの広場づくりを持続するために、令和2年度に「うきうき隊」という、地域の親子連れを中心としたボランティア団体を立ち上げた。この団体は、みんなでうきうきと楽しみながら地域をよくすることを目的としているため、花壇管理だけではなく、園内でのワークショップや清掃活動など、その活動内容は多岐に渡っている。公園管理者としても地域のつながりが自然と生まれ広がる「だれもがくつろげる空間づくり」の実現のため、うきうき隊とともに一年を通じた広場の活用方法について話し合いを重ね、「“やってみたい”で描く広場の将来像」を作成し、ビジョンを共有。このことによって、「うきうき隊」の自発的な企画や取組が始まり、ヨ

ガ、絵本の読み聞かせ、昔遊びなど、多世代が交流する新たな事業が展開されていった。



写真1：ワークショップの様子



図1：“やってみたい”で描く広場の将来像



写真2：音楽と合わせた絵本の読み聞かせ



写真3：ぶんぶんコマをつくろう

IV. 都民協働による持続可能なガーデンづくり

「うきうき隊」を主体とした活動に、コミュニティガーデンの手入れがある。まずは、ワークショップを通じて構想を練り、5つのテーマ毎にゾーン分けしたイメージを図案化。

- ①低木や宿根草で骨格を作り、ヒマワリなど季節感あふれる一年草で彩る「おもてなしガーデン」
- ②ハーブを中心に、見て、触って、香って、お茶やクラフト素材としてワークショップにも活用できる「五感で楽しむガーデン」
- ③ススキやアジサイ等、日本らしい季節を感じることができる「和ガーデン」
- ④鳥が好きな実のなる木や、チョウやミツバチの蜜源植物等を中心にデザインされた「生きもの観察ガーデン」

⑤風車のある広場の法面の下方に帯状に連なり、春には1万球の花々が咲き誇る「チューリップガーデン」

これらのガーデンは「うきうき隊」の他、ランドスケープデザインを学ぶ東京農業大学の学生や近隣8保育園など、多くの方々の協力を得て、令和3年から造成を開始。広場に、子ども用じょうろを備え付けることで、草花に水やりするちょいボラ「お水あげ隊」の活躍もあり、一年を通じたお手入れ活動が展開され、地域コミュニティ活性化や、多世代交流の促進にも繋がっている。

また、「うきうき隊」の活動は公園のツイッターやうきうき隊の公式 SNS でも発信、周知し、当日来園された方でも参加できる受入態勢を整えているため、小さなお子様連れが気軽に参加できることが特徴と言える。令和4年度は4月から2月までの間に、延べ1,000名を超える方が花壇活動され、地域に愛される魅力スポットを創出することができた。



図2：ガーデンのゾーン分け

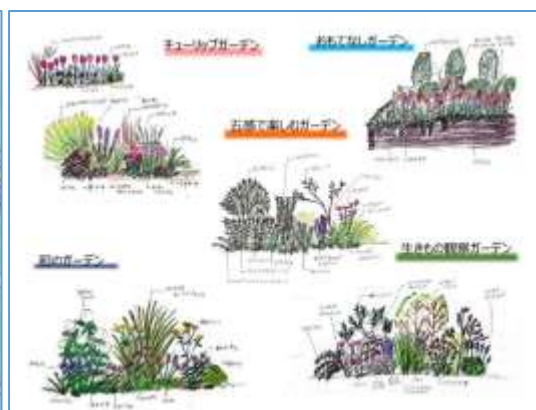


図3：各ガーデンの植栽イメージ



写真4：たねダンゴをつくる保育園児



写真5：保育園児が花壇活動する様子



写真 6：土壌改良する大学生



写 7：大学生が低木等を植栽



写真 8：うきうき隊の活動の様子



写真 9：親子でお楽しみワークショップ



写真 10：親子で一緒に草取り



写真 11：子どもたちが大活躍「お水あげ隊」

V. 1万本のチューリップと笑顔あふれる浮間公園へ

さらにこの広場が、地域に愛される魅力スポットとなった大きな要因の一つに、令和2年からはじまり、今年で3年目を迎えた「1万本のチューリップ」事業が上がられる。浮間公園のランドマークとなる風車と調和したチューリップの咲き誇る景色を演出したいという「チーム UkiUki ミーティング」の発案によるもので、球根の購入資金を

確保するためにクラウドファンディングを実施した。その結果、「こんな企画を待っていました！大好きな浮間公園が素敵になるプロジェクト、本当に嬉しいです！」や「幼い頃から知っている公園がチューリップでいっぱいになるのが楽しみです。応援しています！」といった多くのコメントとともに支援をいただき、3年連続で目標額を達成することができた。

毎年12月初旬の植付けイベントでは、「うきうき隊」や協議会メンバーをはじめ、150名近くの協力を得て1万球の球根を植付けており、春は色とりどりのチューリップでおもてなしする、くつろぎ空間を提供している。



写真12：たくさんの球根をミックス



写真13：小さな子も球根植付にチャレンジ！



写真14：親子で球根の植付



写真15：参加者そろって集合写真！

VI. UkiUki マルシェ

「うきまガーデンカフェプロジェクト」では、風車のある広場を「くつろぎの広場」と位置づけたのに対し、浮間舟渡駅から徒歩1分程ある入口広場を「賑わいの広場」と位置づけ、地域の飲食や物販でおもてなしする「UkiUki マルシェ」を企画してきた。これまでは、コロナ禍による影響のため、風車広場で規模を縮小して「プチマルシェ」を

開催してきたが、今年度秋にようやく念願だった「UkiUki マルシェ」開催。地域の 20 店舗以上が出店し、ステージやワークショップを展開すると、初開催にも関わらず 8,000 名が来場するなど地域の新たな賑わいを創出するとともに、コロナ禍の地域店舗救済や、チアダンスやフラダンス等の発表の場としても機能することができた。

また同様に、子育て支援団体や NPO と連携して開催した「キッズスマイルフェスタ」も大盛況でこちらも 8,000 名が来場するなど、「チーム UkiUki ミーティング」メンバーのそれぞれの個性や強みを活かした、新たな事業が次々と展開されている。



写真 16 : UkiUki マルシェ開催



写真 17 : フラダンス等の発表

VII. 設置許可受者や、都事業との新たな連携

令和 3 年 2 月、東京都の多面的活用事業によりコメダ珈琲店がオープン。開業前より「チーム UkiUki ミーティングメンバー」に参加いただき、不法駐輪やテイクアウトによるゴミ等の地域課題対策にも連携して対応しつつ、店内の無料休憩スペースを活用したフォトコンテストや、SNS を活用した謎解きゲーム、店舗のウッドデッキ前にある花壇づくり等、公園とカフェが一体になった賑わいづくりを進めている。



写真 18 : コメダ珈琲店前花壇の球根植付



写真 19 : みんなで記念撮影

また、令和4年3月には、東京都の「花と光のムーブメント」とのタイアップにより、チューリップやサクラ、風車等をライトアップし新たな魅力を創出した。「チームUkiUki ミーティング」の広報力やJRとの連携によって、多くの来園者を迎え、民放による天気中継や個人のSNSにも多く取り上げられるほど注目を集め、今春も、桜草保存会や地元北区とも連携した新たな魅力創出に取り組んでいる。



写真 20：民放による天気中継



写真 21：花と光のムーブメントによるライトアップ



写真 22：写真撮影する来園者



写真 23：新たなビュースポット

VIII. おわりに

以上、地域と一体となった花壇づくりやイベント運営を通じて、子どもからお年寄りまで地域に新たなコミュニティが生まれ、自発的な企画や活動に繋がり、公園や地域の愛着を醸成してきたこと実感することができた。私たちはこれからも、公園と地域の繋がりを広げつつ、公園を中心とした地域の魅力や賑わいの向上に寄与していきたい。

光が丘公園バードサンクチュアリにおける生物多様性保全の取組みについて

公益財団法人東京都公園協会 松元 信乃

I. はじめに

都立光が丘公園は米軍住宅の跡地に造成された公園で、公園管理所北側にあるバードサンクチュアリは1983（昭和58）年に整備された。中島や州浜が配された池は0.6ヘクタールの面積を有し、水生生物種の導入により多様な生き物が生息し、さまざまな野鳥を見ることができる。整備当初は野鳥誘致を目的として閉鎖管理が続けられたが、度重なる開園要望を受け1987（昭和62）年に一般公開された。現在、バードサンクチュアリは土、日、祝日および月1回の平日開園を行っており、令和4年度は年間129日間開園した。一方で、バードサンクチュアリに併設する観賞池は、光が丘公園を代表するフォトスポットとして来園者の憩いの場である。コンクリートで覆われた都会風な造りでありながらバードサンクチュアリ池と同様に観賞池にも大小さまざまな野鳥の飛来があり、多様性に富んだ生物相を有している。なお、バードサンクチュアリ及び観賞池の運営及び維持管理はNPO法人生態工房が当協会の委託を受けて行っている。本稿では、令和4年度における光が丘公園の二つの池を中心に行われた生物多様性保全の取組みについて報告する。



図1. バードサンクチュアリ及び観賞池の位置図

Ⅱ. バードサンクチュアリの運営

1. 来園者数の動態

(1) 観察舎

バードサンクチュアリは、開園日にはスタッフが2名以上常駐し、生き物についての解説を行うほか、来園者数のカウント、鳥類相の把握、施設の清掃等を行っている。通常の開園時間は9:00～16:30である。決められた時間に通常1日2回開催される‘スタッフトーク’では、専門知識を有するスタッフがその季節ごとの旬の鳥をテーマに、写真や図を用いながら生態等の情報を解説する。こどもに人気の‘いきもの調べ’では生き物のスケッチを通して、観察スキルを磨く学びの場をこどもたちに提供している。

これらの取組みが奏功し、観察舎の来場者数は増加傾向にある。年度別来場者数の推移をみると近年では令和3年度が最も多く、年間5万人を超えている。月別では11月の来場者が最も多く、次いで5月が多い。反対に、7月・8月・12月に訪れる人は比較的少ない。(図2)

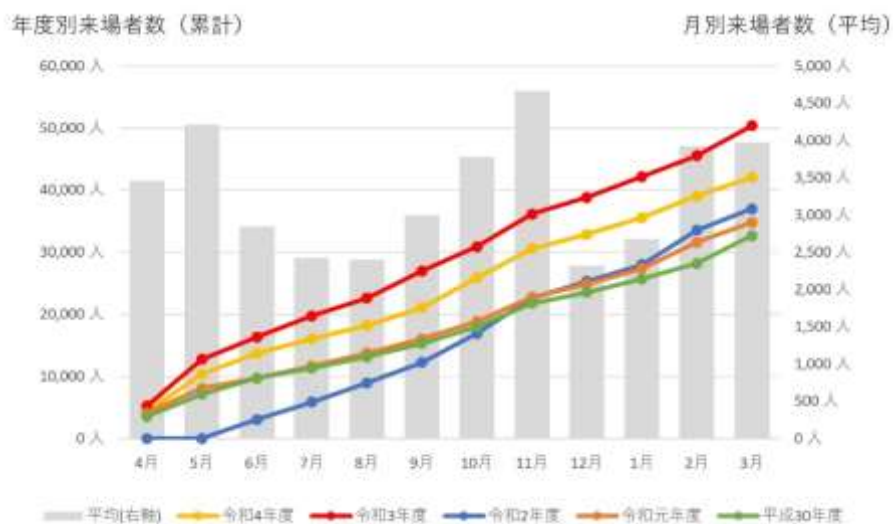


図2. 来場者数の推移



図3. 観察舎の前景と来園者の様子 (1月平日に撮影)



図4. 鳥の解説と『いきもの調べ』で作成された生き物のスケッチ

(2) 夜開園

日中が高温になる夏季には、開園時間を 16:00～21:00 にずらす夜開園が行われる。夜開園の期間中は、夜間活動が活発になる生き物をテーマに特別なプログラムを企画する。令和4年度は、特別解説「街のコウモリ」で身近に生息しているもののなかなか目を向ける機会のないコウモリを、夜の観察会「樹液に集まる虫」で夜の公園の知られざる昆虫たちの暮らしを紹介した。合計5回の夜開園において動員した来場者数は1,700人を超えた。



図5. 夜の観察会の様子

2. 混雑への対応

(1) 展示教材等の充実

観察舎では来園者数の増加傾向が続いており、感染症対策として三密をつくらない働きかけが運営スタッフには求められている。さらに、備え付けの望遠鏡が他の利用者によってふさがっていても、来園者が退屈しないよう観察舎内の展示教材を充実させるなどの工夫が続けている。なかでも観察舎の壁を飾る公募型写真展は、来園者自身が光が丘公園やその周辺で撮影した生き物の写真を展示している。作品のすばらしさもさることながら来

園者同士の交流のきっかけにもなっている。

さらに、今年度からは観察舎が閉園している日でも園内の生き物観察を楽しんでもらえるよう、配布用のセルフガイドリーフレットの作成を始めた。第一弾としてTwitterで配信して人気のあった「ヒキガエル」版が間もなく完成し、配布予定である。



図6. 光が丘公園名物ヒキガエルの大移動（公園公式 twitter 引用）

（2）夜開園の回数増加

夜開園に訪れる来園者は、通りすがりではなく夜開園を目当てに来園している方が多く、短い期間に複数回来園したり、友人に誘われて複数人で来園したりしている人が多いことが生態工房の調査で分かっている。来年度以降は今年度5回（前年度比1回）に増やした夜開園をさらに9回（前年度比4回）に増やし、実施期間も7月下旬から8月中旬までの期間から7月中旬から8月末までの期間に拡大する計画である。

Ⅲ. 植生管理および外来生物防除

1. 水域の植生管理

バードサンクチュアリ池では、さまざまな生き物に住处を提供するため、作業区域、実施時期・回数を決めて、底泥の除去（かいぼり）を実施し、水域内にさまざまな遷移段階を成立させている。今年度もヒメガマの茂みでカイツブリの繁殖が確認されるなど、良好な水辺植生が保たれている。



図7. かいぼり中のバードサンクチュアリ池と底泥除去の様子（1月）

2. 陸域の植生管理

バードサンクチュアリ内の草原では、在来植物で構成される草地環境および林床を維持するため、草刈り（草地で年2回、樹林で年1回）を実施している。在来草本の保全をめざし、外来植物の抜き取りも年2回おこなっている。これにより、草地では外来植物が減少し、在来植物を中心とした植生が成立してきた。これに加えて、今後は株数の少ない種の生育範囲を拡大できるよう実生木の除去やササ刈り等による日照改善を進める計画である。

3. 外来生物防除

(1) バードサンクチュアリ

バードサンクチュアリ池では過去4回のかいぼりを中心とした外来生物防除により、オクチバスやブルーギルなどの外来水生生物の根絶を達成してきた。現在はアメリカザリガニを対象にワナによる捕獲を実施しており、5年以内の根絶を目指している。今年度は4月から9月の6か月間、池全域に捕獲用ワナ100基を設置し、週一回の回収と再設置を繰り返した。捕獲した生物は種類ごとに個体数を記録し、在来種は池に放流し、外来種は駆除した。今年度のアメリカザリガニ捕獲数は7,154匹で、前年の9,617匹より微減した。来年度以降も引き続き駆除圧を高めて、アメリカザリガニの根絶を目指す。なお、外来カメについては例年並みの捕獲数となった。一方で、増加傾向にあるのが観賞魚の水槽掃除（藻取り）や釣り餌用として流通しているカワリヌマエビ属の外来エビ類である。小型生物の駆除には池の干し上げのほかには有効な駆除方法がないため、今後の動向に苦慮している。

また、ここ数年アライグマの出現を確認しており、今年度からセンサカメラによるモニタリングを開始した。その結果、4月から11月までの間に7回の出現を確認した。なお、センサカメラで確認した後、箱ワナを稼働状態にしたが、捕獲には至っていない。今のところ確認された個体の身体的特徴から、特定の個体1匹だけが繰り返し出現しているものとみられるが、来年度以降も状況を注視していく必要がある。



図8. 外来種捕獲数の推移



図9. 増加傾向にある外来エビ

（２）観賞池

開園日以外は閉鎖しているバードサンクチュアリと異なり、24時間だれでも水面に接近できる観賞池ではペット由来とみられる生き物が継続的に捕獲されている。人工的な造形の観賞池は在来生物の生育場所として認知されにくいため、飼えなくなったペットの住処と考えた来園者が捨てていくものとみられる。いうまでもなくペットを捨てる行為は動物愛護法で禁止された違法行為にあたるうえに、環境を攪乱する危険行為である。観賞池ではペットを捨てることの危険性を来園者に伝えるイベント「1日水族館」を定期的を実施している。このイベントでは、捕獲された外来カメなどを展示し、それらが在来生物に及ぼす影響などを説明する。令和4年度も実施し、多くの来園者が水槽の前に足を止めた。

さらに、令和4年度は観賞池清掃を7年ぶりに実施した。作業には公園サービスセンターの職員を中心に、光が丘公園に出入りする業者にも声をかけ有志20名ほどが参加した。池の水位を通常よりも20cmほど下げ、池底に堆積した泥や枝葉をすくい上げ陸地に還元したり、プラスチックや釣り糸などのゴミを拾い集めたりするなどをして水質の改善を図った。同時に周辺に植えられている高木の切り戻しや低木の刈込、護岸の除草などを行い水辺の景観向上につなげた。



図10. 1日水族館



図11. 池掃除

IV. まとめ

都立公園の生物多様性に関する事業においては、生き物の生息地を守る「保全」と普及啓発・利用促進を含む資源の「活用」という目標がある。二つの目標は相反しているが、どちらも達成できてはじめて公園の魅力創出、利用者満足の向上につながる。光が丘公園バードサンクチュアリは、今日のように生物多様性の重要性が注目される以前から先駆的な取り組んできた好例といえる。

本稿を書くにあたり改めて観察舎に足を運んでみた。季節は冬、静かなバードサンクチュアリは空気が澄んで、見つめた先の笹藪や雑木が迫ってくるような緊張感がありバードウォッチングに熱中した。この魅力的な施設が今後も良好な環境で存続していくように公園管理者として関わっていきたいと思いを新たにした。

小金井公園の裏方を楽しむ

小金井公園 樹木の会 中島三晶

I. はじめに

2022 年 10 月、思いがけず「都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者」の感謝状をいただき“しょうじき”驚いている。われわれ樹木の会は、都立小金井公園で来園者が樹木を楽しめるようお手伝いするのが目的の集まりだ。主役は公園の樹木たち、われわれは、主役小金井公園の引き立て役の裏方仕事で楽しみで活動している。今までの樹木の会の裏方仕事を振り返りながら、小金井公園の樹木たちの素晴らしさが伝われば“さいわい”と鉛筆をなめてみた。

II. 主役 都立小金井公園について

1. 小金井公園のなりたち

1930 年東京府は「紀元 2600 年記念事業」の大緑地造成計画を決定。翌年、軍当局立ち合いのもとに 91ha の防空緑地の収用を終えた。荒っぽい交渉、後年にしこりを残すこととなった。戦時下であり、緑地の整地は学徒動員による勤労報告隊によって行われた。このとき、西側に光華殿（今の江戸東京たてもの園ビジターセンター）が移築され東側は国民錬成所として利用された。整地とは名ばかり、実際は雑草とりの毎日だったらしい。戦局厳しく食糧事情解消のため 1943 年大緑地増産協力臨時処置要綱が定められ、近在農家組合に農地に適した土地を貸し付け、代償として農産物受け取りの契約を結ぶなどして戦時をしのいでいる。

終戦後の大波は「農地改革」、従来の地主・不在地主を解体、小作農すべてを自作農に切替えの号令、地方自治体が管理している農地は、地主不在として農地買い上げの対象となった。農民にしてみれば戦前収用時のしこりが残っており、改革には大賛成、はげしい解放促進の運動が起きたのである。1948 年東京都は光華殿周辺以外の農地の解放にふみきり、翌年終了した。農地に適さない土地は戦災復興用の苗木育成のための苗圃として利用され、いまでも名残の樹木が園内にそびえている。光華殿を武蔵野郷土館と衣替えし、緑地の名を外し 1954 年「小金井公園」が誕生した。戦後の日本経済の回復は東京都の財政事情も好転させ、都は用地特別会計制度にもとづく公園の計画地内の農地の買収を再開、農家の理解を得ながら買収し、名実ともに「小金井大公園」となり、いまでも公園整備は続いている。

2. 楽しむには歩くのが一番

小金井公園はとても広くて大きく、東京ドーム 17 個がすっぽり収まってしまうほどだ。園内は、武蔵野そのままのケヤキ・コナラの林、西洋風ユリノキ、真っ白い花のコブシ・ハクウンボク、萌えるクスノキ、燃えるモミジ、武蔵野には珍しいユーカリノキ・シマサルスベリ…、200 種類 15,000 本ほどの樹木がわれわれを楽しませてくれる。

公園は散策路が縦横に走り、大人も子どももジョギング・ウォーキング・サイクリング等、自分のスタイルで楽しんでいる。でも、なんと言っても楽しみ方の一番は、目の前のこの木は何という木なのか、知りたい＝「この木なんの木？」に出遭うことである。それには歩きまわるのが一番。散策路だけでなく小路を、林の中に気ままに踏みこんでみることだ。いつ来ても「この木なんの木？」の面白さ・楽しさ、小金井公園ならではの魅力といえる。

Ⅲ. 裏方 裏方仕事

1. “樹木ウォーキングマップ”をつくる

小金井公園の魅力にとりつかれた人たちが自然発生的に集まり、みんなで「この木なんの木？」を楽しもうと始めたのが、今から 20 年近く前の 2003 年の夏。そして自分達だけでなく公園に来られた方々にもこの魅力を知ってもらおうと“樹木ウォーキングマップ”を作り、小金井公園管理所に持ち込み申請したのがその年の秋。それが「小金井公園・樹木の会」の始まりであり、今日の活動につながっている。

最初のマップ作りは大変な苦労だったらしい。公園全体の広場・施設・散策路・トイレの位置を手書きで描いて一枚の地図を作り、それに季節の見ごろの樹木名タイプ打ちの紙札を樹木の位置に切り貼りして完成させた。出来たマップはいかにも“手作り”を感じさせる素朴なもの、却ってこれが来園者に喜ばれているから面白いものだ。この作成手法はつい最近まで受け継がれてきたが、2012 年の春からは電子化され、図 1 のマップになっている。

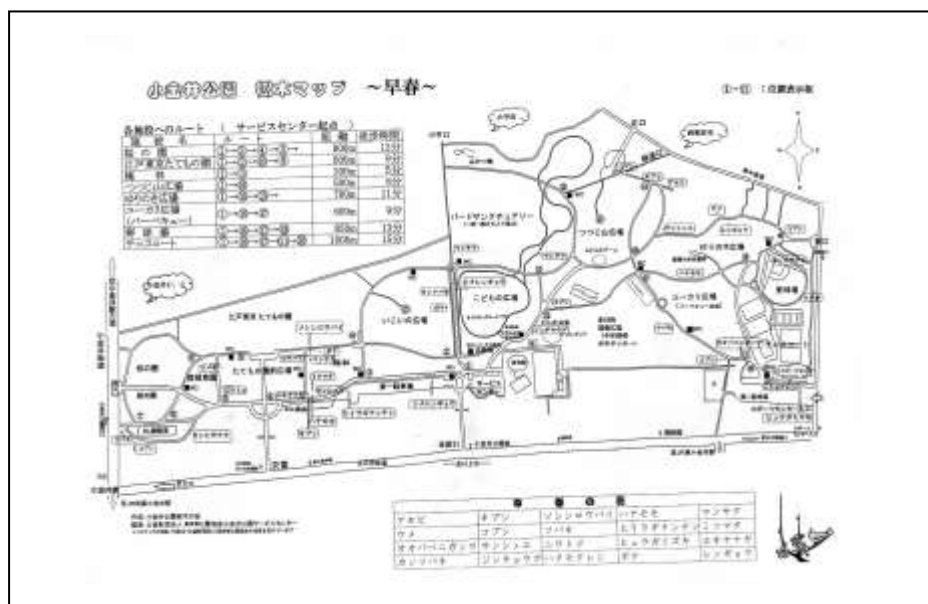


図 1 樹木ウォーキングマップ 2021 年「早春」バージョン

この“樹木ウォーキングマップ”がもとになり、公園に提案ができ、採用されたのは嬉しい成果である。そのひとつは、園内の位置表示看板の設置だ。広大な小金井公園、見たい樹木に辿りつくのは来園者にはなかなかやっかいなこと。そこで園内の要所・要所に位置表示

看板を設置し、番号をたよりに進めば最短路で目的地に到着できるというもの、それを分かりやすく明記した。さらに目的地までの距離を実際に歩測し書き入れてある。マップは少しずつ進化しているのである。

2. 裏方 樹木の会について

“歩くマップ”を作ろうと集まった仲間は林洋右さん（初代会長・今は引退されている）をはじめわずか4人、2002年8月のことであった。その年の秋には“樹木ウォーキングマップ秋バージョン”を作成、公園入口の案内板に取り付けたのが最初の活動、翌年2月に第一回うめまつりが開催、梅林の名札取り付けに参加している。この夏8月7日「樹木の会」は正式に発足、会員8名であったそうだ。この頃は忙しで、“見どころ樹木30選”“情報ボックス8ヶ所設置とマップ配布”“樹名板の取り付け開始”“樹木探索開始”等、今の樹木会の基本活動が始められている。

2004年4月に第一回総会が開かれ、規約も決められた。規約第2条「樹木に興味を持ち、会員相互楽しく学習し、公園の樹木に関する情報を来園者へ提供する…」の基本理念はわれわれの誇りになっている。2007年「公園友の会」に登録した。もともと自然発生的な集まりで、会員がそれぞれの持ち味を出しながらの樹木の会、「われわれの主体性が失わなければOK…」と総会で承認された経緯がある。こうして趣味活動からボランティア活動へと会の体質を変えてきたのである。現在、会員数は25名を出たり引込んだり、自分のできる範囲で無理なくワイワイガヤガヤとやっている。2011年、2021年の2度、東京都公園協会賞奨励賞をいただいたことも活動の励みになっている。

3. 裏方仕事

われわれ裏方の仕事は、(1) 樹木ウォーキングマップ・樹名板の作成・管理 (2) 樹木の講習会・研修会 (3) 公園ガイド・園内イベントへの参加 (4) 他・目標達成のためなら何でも、の4項目、われわれも楽しい・来園者も楽しんでいることが大前提、このことを目標に活動に取り組んでいる。

(1) 樹木ウォーキングマップ・樹名板の作成・管理

「この木なんの木？」を楽しむには“樹木ウォーキングマップ”があつてこそ、しかも正確なことが絶対条件。それに季節はずれではなんの意味もない。今は「早春」バージョンだが春の足音を気にしながら「春」バージョンに移り、梅雨空を眺めながら「夏」、虫の音を気にしながら「秋」へと情報ボックスのマップを差し替えている。

公園に来られた方は「今はなんの木の花が見ごろ？」「その木はどこにあるの？」が最大に関心事。このマップで「一目瞭然！」のはずだが、それがなかなか難しい。とにかくまずは樹木マップを手にとってもらうのがわれわれの願い。樹木マップを一所懸命に眺めている来園者に“つい”声をかけてしまうのが、樹木の会会員のサガなのだ。

小金井の桜はつとに有名、樹木の会に「桜はどうなの？」の質問がよく来る。たしかにサクラは樹木なのだが、小金井公園にはきちんと教育を受けた「桜守の会」の方々が小金井の桜を守っている。桜はすべて桜守の会におまかせということで、小金井の桜は来園者に喜ばれているのである。

（２）樹木の講習会・研修会

われわれは「この木なんの木？」を楽しむのを目的としているが、そのアプローチは一人ひとり違っている。樹木の分類学的差異に興味を持つ人、とにかく園内にどんな樹木があるのか知りたい人、樹木と人間との関わり合いに興味を持つ人等々、楽しみの向きは会員の間でも様々だ。だから面白いのだが、ではお互いに勉強しようじゃないかと会員相互の研修会を月例で持っている。この面白さを来園者にもということで、春と秋に、来園者向け観察会を開いている。樹木案内人の個性が観察会のガイドに表れ毎回好評。参加者が年々増えているのが嬉しい。

【トピックス 樹木観察会 2022 年 秋】

2022 年 11 月 22 日、一般来園者向け樹木観察会は、コロナ禍で 3 年ぶりの開催だ。いつもの年より美しい紅葉・黄葉の樹木たち、絶好の天気にも恵まれ、過去最高の参加者数。「やってよかった」のアンケートの声がうれしい。樹木の会に集まってきた諸先輩たちがはじめた樹木観察会、参加者と小金井公園サービスセンターと樹木の会がつくりあげてきた。公園の樹木はかわっていく、われわれ人間もかわっていく。が、この樹木観察会は「かわらず やり続けていく」がわれわれの支えなのだ。

（３）公園ガイド・園内イベントへの参加

樹木の会が気持ちよくやっていけるのは東京都公園協会と小金井公園サービスセンターの実務者のおかげと心から感謝している。20 年前の第一回のうめまつりから、コスモスまつり等のイベントには協調の精神で参加している。樹木の会中心のクラフト教室・葉脈しおり作りは好評、参加者はいつも満員御礼状態だ。子どもたちの輝く顔と熱中する親御さんの姿がわれわれに力を与えてくれる。

Ⅳ. 「この木なんの木？」東西コースの新設

小金井公園 グリーンアドベンチャー「この木なんの木？」は、2005 年のコース設定以来多くの来園者を楽しまれている。今まで、樹木の老朽化や台風・大風に因る立ち枯れ・倒木等の変化に、コース・観察樹木を最小限に変更して対応してきたが、既設コースだけでは来園者の満足をえられるのは限界と感じていた。また小金井公園の拡張・整備が進み、新しい樹木も植栽され、小金井公園の魅力がどんどん増していて、この魅力を来園者に伝える「この木なんの木？」新コースを設定しようとの声が、樹木の会内外であがった。これを受け 8

年前に準備活動を始め、コロナ禍のなか 2020 年 東西 2 コース（後掲 図 3 参照）の設定が完成、来園者に案内できたことは樹木の会全員の喜びである。

1. 基礎資料「小金井公園区画別樹木マップ」の作成

- ①樹木観察会（春・秋 年 2 回一般に呼びかけて行う）参加者アンケートの分析
- ②「この木なんの木？」マップ（年間 6000 枚配布）消費状況を分析
- ③小金井公園内の全樹木の配置を調べる「毎木調査」

＊この作業は探索部会を中心にまとめ、調査は園内の樹木の確認から始めた。

基本台帳は古いので、台帳と樹木の位置をつきあわせる地道な作業、マップ（図 2 参照）ができるまで 3 年有余を要した。探索部会はメンバーが変わりながらも辛抱強く活動した。



図 2 小金井公園区画別樹木マップ台帳 2021 年度版

2. 「この木なんの木？」新コースの決定・告知・開始

- ①基礎資料を基に新コース具体化の検討（ふさわしい樹木の選定、コースの検討）
- ②新コース「東西 2 コース案」全会員による検討 「東西 2 コース案」承認 於定例会
- ③新コース、新樹木の勉強会 「コロナ禍」の中の開設準備
- ④樹木にナンバープレート付け作業完了 東西コース案内プリント 完成 3000 枚
- ⑤小金井公園サービスセンターの協力 絶大・感謝
情報ボックスの整備 ホームページへの掲載
- ⑥2020 年 12 月 「この木なんの木？」新コース スタート（図 3）



樹木ナンバープレート付け作業

情報ボックス



図3 グリーンアドベンチャー「この木なんの木？」コース

西コース 35 樹木 一周 1.8 km 東コース 32 樹木 一周 2.5km

*5年間の裏方仕事がこの図に集約されている。

3. “魅力的な樹木たち”

裏方仕事の中で出会った魅力的な樹木のエピソードを紹介したい。

【摩訶不思議なハンカチノキ】

東コース 27 番のハンカチノキ、開園 50 周年記念に植えられた。何が合わなかったか、数年で枯れてしまった。すぐ次が植えられたが、2 代目も弱々しく、ひこばえばかり。これも駄目かな…それが 6 年前の秋に 1 輪だけ咲き、みんな大喜び、が それっきり。心優しき我ら「いつかは、きっと」と待っている。

【おれは生きるぞ ミズキ】

西コース 27 番のミズキ、初夏にたくさんの白い蝶が舞った。木は葉脈だけが残る無惨な姿となった。蝶と見えたのはキアシドクガという蛾。その幼虫がミズキの葉だけを食い散らす。白い悪魔が去って ほどなく新芽が吹き、ミズキは優雅な立ち姿にもどり復活した。

【番外地 ウメ「武蔵野」】

西コース内の梅林にはウメが 90 本ほど。12 年前、武蔵野の地にふさわしいウメ「武蔵野」が植えられた。が、開いた花はナント「鴛鴦(えんおう)」。いつかは「武蔵野」を、が会員の夢となっていた。昨年、東京都の公園協会賞頂戴記念に「武蔵野」をと衆議一決、いま植木屋さんに育成をお願いしている。梅林に「武蔵野」の花を…樹木の会の夢が続いている。

【番外地 ユーカリノキ】

公園の東側のユーカリ広場、なぜ ユーカリ広場か？ 広場の東端にユーカリノキの巨木が周りを睥睨（へいげい）しているからの由縁らしい。なぜここにユーカリノキが立っているのか不思議だが、実は地主だった造園家が農地を売却するとき、記念に苗木を 2 本植えたのである。10 年前にはもう 1 本あったがいつのころか根元からバツサリ。Only One のこのユーカリノキ、樹齢は不明。見守りつづけることが裏方の大切な仕事となっている。

V. おわりに 裏方のおもい

小金井公園はなんといっても「多様性」の楽しみである。なぜ、ここにこんな樹木が立っているのか、なぜこんなにたくさんの種類の樹木があるのか。もちろん大むかしからの自生樹木も多いが、先人が生活を営むための農地として、全国の公園の苗木育成のために植えた樹々が、3/4 世紀経たいま、堂々と亭々と立っていて、それが小金井公園らしさのもとになっている。その多様性を観察し楽しみに来園する方々がとても多いのである。

樹木は生き物だ。いま新芽を出し空にむかって伸びようとする若い樹木、役割を果たし枯れて静かに命を終えようとしている樹木もある。樹木は生命をまっとうしようとするとき、次の世代の若い息吹を残そうとするのが、自然の摂理。が、自然はきびしく次世代の成長はままならない。やはり人間の手助けが必要、そこにわれわれ樹木の会の存在価値と意義があると自負している。小金井公園の全体の樹々のバランスを考え、いままでの植生の歴史を考え、次世代の来園者たちの楽しみを想像し、小金井公園サービスセンターのお手伝いをするのが、樹木の会の役割と考え行動している。

気をつけていることがある。それは、樹名板もナンバープレートも来園者の目にウザくならないようにさりげなく設置すること、これ見よがしの案内はご法度だ。来園者が「この木何の木？」と知りたくなったとき、さりげなく表示されている、が最高の案内と心がけている。小金井公園に集まる人々が、公園の多様さに素晴らしさを感じていただけるのが、樹木の会全員の真の目的であり、活動が 20 年間も続いた原動力となっている。

*参考文献 北村信正他 小金井公園 東京都公園協会 1995 年

皆伐更新による雑木林管理

桜ヶ丘公園雑木林ボランティア 長久 豊

I はじめに

私たちは構成人数約 60 名のボランティア団体で、都立桜ヶ丘公園のこならの丘と呼ばれている場所で 32 年にわたり皆伐更新による雑木林管理を続けており、2021 年度から皆伐更新の第 3 サイクルに入っている。

活動を始めた当初、長い間放置されてきた雑木林を昔農家が管理してきた頃の景観に復元したという事例もなかったことから、第 1 サイクル（1991～2005 年度）では試行錯誤の連続で多くの失敗を重ねた。しかし、その教訓を踏まえた第 2 サイクル（2006～2019 年度）はおおむね順調に進み、その状況を具体的に把握するために各種調査に重点を置いて活動した。

ここでは、現在の管理計画とその裏付けとした調査内容、長期間にわたってボランティア活動を継続してきた工夫について、その概要を紹介する。



写真 1 早春のこならの丘

II 現在の管理計画

1 管理区域

こならの丘は桜ヶ丘公園の南側に位置しており、私たちの管理区域は標高 130m の頂上部から北側にかけて緩やかに 30m ほど下っている約 10,000 m² の範囲で、その内側の約 4,000 m² を

皆伐更新地区（図 1、黄色部分）、これを取り囲む外周の約 6,000 m²を緩衝帯（図 1、青色部分）としている。緩衝帯は皆伐更新地区へのアズマネザサの侵入を緩和させる目的で設けているもので、定期的にササ刈りを実施している区域である。

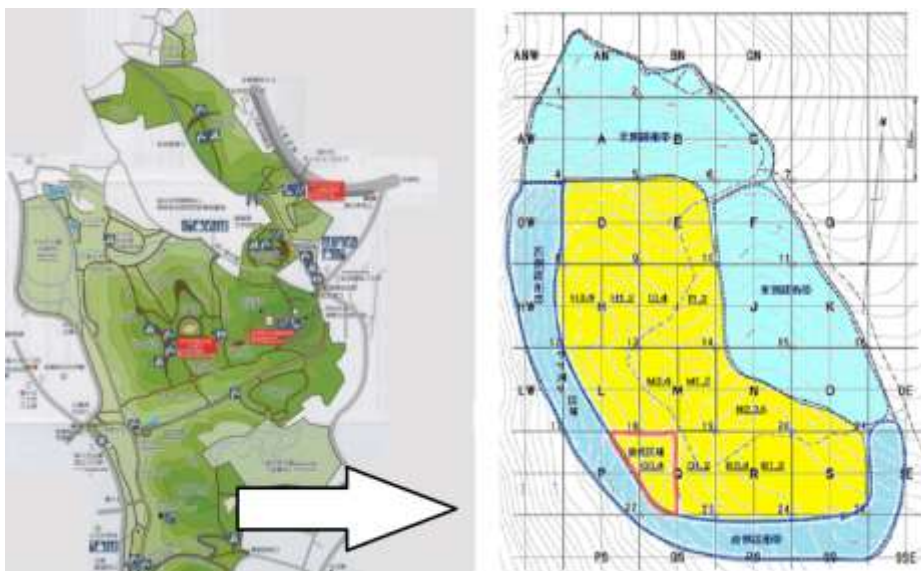


図 1 管理区域

2 皆伐更新

(1) 更新期間

伐採サイクルは 15 年で一巡する計画としている。更新期間をこのように決めた理由は以下のとおりである。

- ① この程度の期間でコナラ・クヌギが直径 20 cm 前後に成長しており、ノコギリによる作業が可能な太さで、玉切りして人力により搬出できる重量であること。
- ② 発生材活用のためにキノコ栽培を行っているが、そのホダギに適当な太さであること。
- ③ 郷土史によれば、昔の農家の作業でも概ね同様の更新期間であったこと。

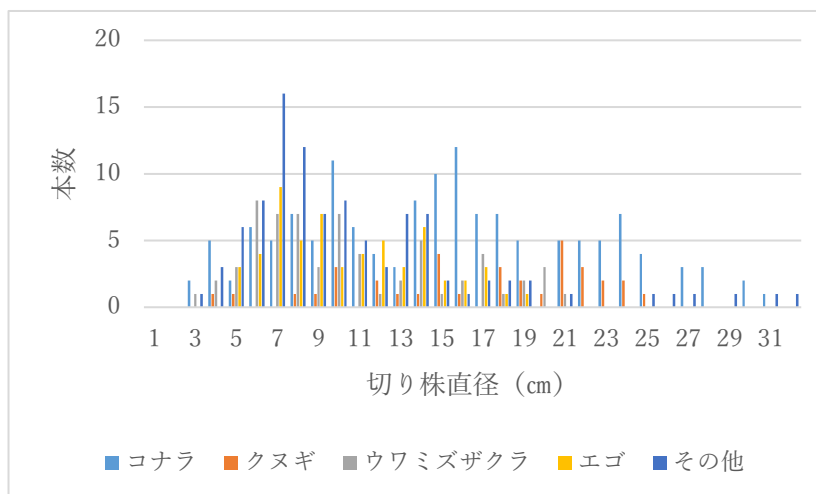


図 2 伐採時樹種別切り株直径

樹種	本数	平均直径 (cm)	平均樹高 (m)
コナラ	146	15.3	10.4
クヌギ	36	17.2	12.2
ウワミズザクラ	65	10.8	9.1
エゴ	59	10.6	9.3
その他	101	10.9	9.5

表 1 伐採時樹種別平均切り株直径・樹高

(注) 第 2 サイクルは 14 年で一巡したが、伐採した樹木には樹齢の少ないものが混在している。それは第 1 サイクル前半では伐採計画そのものが未成熟であり年毎の伐採面積のバラツキが大きかったこと、また、実生木や途中から植えた補植木についても調査対象としたことによる。そのため、平均値は樹齢 14 年の樹木に比べるとかなり小さい数値となっている。

(2) 皆伐面積

一度に皆伐する面積は 300 m²前後、日照を確保するため南側の区画から実施することとしている。皆伐面積をこのように決めた理由は以下のとおりである。

- ① マンパワーとの関係で、これ以上広くできなかったこと。
- ② 伐採面積が狭すぎると、萌芽しても日照不足によって枯れてしまう。そのため、こならの丘ではこれまでの失敗経験や周りの樹木の高さから、最小面積を 200 m²程度と判断している。

【失敗例】

約 50 m²の範囲で間伐を実施したことがあったが、萌芽はしたものの翌年までにすべてが枯死してしまった。周囲の樹木による日照不足のためと推定した。

(3) 樹木密度

樹木密度は、100 m²あたりコナラ・クヌギが 10 本程度になるようにしている。郷土史を調査したところ 15 本程度まで増やしていた例も紹介されていたものの、これまでの経験からその密度では互いの樹木が干渉しあって日照が得られないと判断して決めた数値である。

こならの丘での萌芽率は、老齢木を伐採した第 1 サイクルでは極めて低かったものの、若い木に更新されてからの第 2 サイクルでは 8 割を超えており、最終的な生存率も約 7 割になっている。皆伐時には、生存率を見越して樹木密度が不足する場所にドングリから育てたコナラ・クヌギの苗木を補植している。

樹種	伐採本数	生存本数	生存率
コナラ	194 本	123 本	63%
クヌギ	52 本	44 本	85%

表 2 生存率

(注) 南側にある樹木により日照が遮られている場所、外周の高木により日陰になる場所での生存率が低い傾向にある。

【失敗例】

当初、樹木密度の管理という考えがなかったため、皆伐更新を続けるにしたがって樹木数が減少し、その結果、林床の照度が上がりアズマネザサの成長を助長したと推定された。その反省から、他の萌芽枝による日陰にならない場所を選んで苗木の補植を実施することにした。補植した苗木は萌芽枝に比べて成長が大変遅いので、保護枠を設けて周囲のアズマネザサを刈ることにより、日照を確保するようにしている。



写真2 補植した苗木



写真3 萌芽状況

(注) 写真2は播種してから3年目の苗木、写真3は伐採後1年の萌芽状況。生育状況に著しい差があることが分かる。

(4) 第3サイクル伐採計画図

前記の内容を踏まえて、伐採計画年度と具体的な場所を示す図面を作成している。年度により伐採面積が異なっているものがあるが樹木密度の違いによるものであり、毎年の伐採本数が概ね同じ程度になるように調整している。(図3)

3 アズマネザサの抑制

第2サイクルでは毎年ササ刈りを実施したが、それに費やす労力が多大であった。そのためササ調査を継続し、その結果をもとに第3サイクルでは皆伐後4年目までは毎年ササ刈りをし、林冠が覆われてアズマネザサの成長が抑制されてくる5年目からは隔年でササ刈りを実施することとしている。

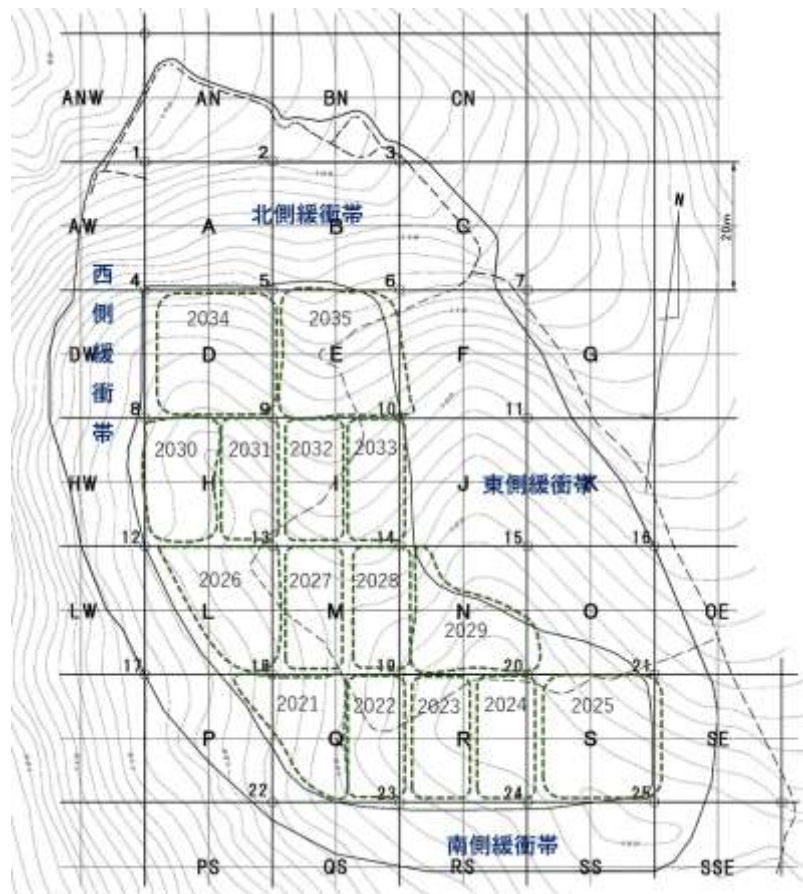


図3 第3サイクル伐採計画図（西暦は年度）

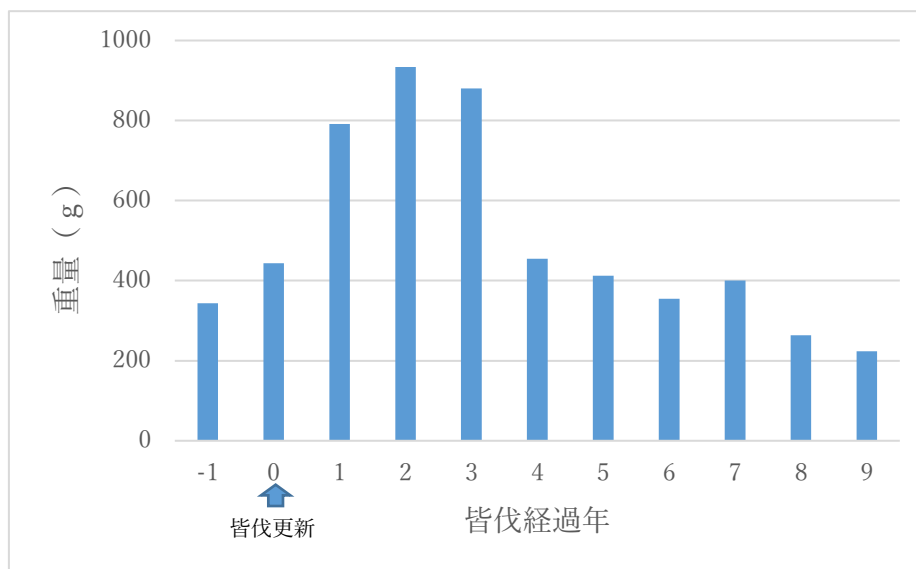


図4 アズマネザサの成長具合

（注）ササ刈り前に平均的な繁茂状況を示していると思われる1 m²の範囲を選び、根元から刈ったササの重量を計測したもの。皆伐後3年目までの成長が著しいことが分かる。

【失敗例】

農家の方から「萌芽枝が雪や風で折れないように、伐採後は下草刈りをしないで3～5年放置しておいた。」という話を伺い、その方法を採用したところ皆伐更新する以前よりも激しい密度でアズマネザサが茂ってしまうという失敗をしてしまった。

これは、昔農家が管理していたころの自然の質とは大きく異なっていることに気づけなかったことが理由である。長い間放置された雑木林では、その間に土壌は肥え、それによりササの潜在力が増加して1～2度ササ刈りを行ったくらいでは圧倒的な回復力で再生するというような状況に変わっていたのだ。

郷土史によれば炭やマキはもとよりソダと呼ばれる小枝までが売り物として扱われ、中流以下の農家ではマツやスギの落ち葉やアズマネザサを乾燥させたものを燃料にしていたとのことで、当時の雑木林は今とは大きく異なり、ほとんどササがない状態だったと推測される。

Ⅲ 調査等

1 場所の表示

雑木林の中で自分のいる場所を特定することは容易ではない。そのため、こならの丘では平板測量により活動区域を20mのグリッドに区画し、その交点に杭を打って番号を表示している。これを実施したことにより、詳細な管理計画の作成が可能となった。場所の表示なくして計画的な管理はできないと言っても過言ではない。また、我々は番号が表示された地図を縮小して持ち歩くようにしている。

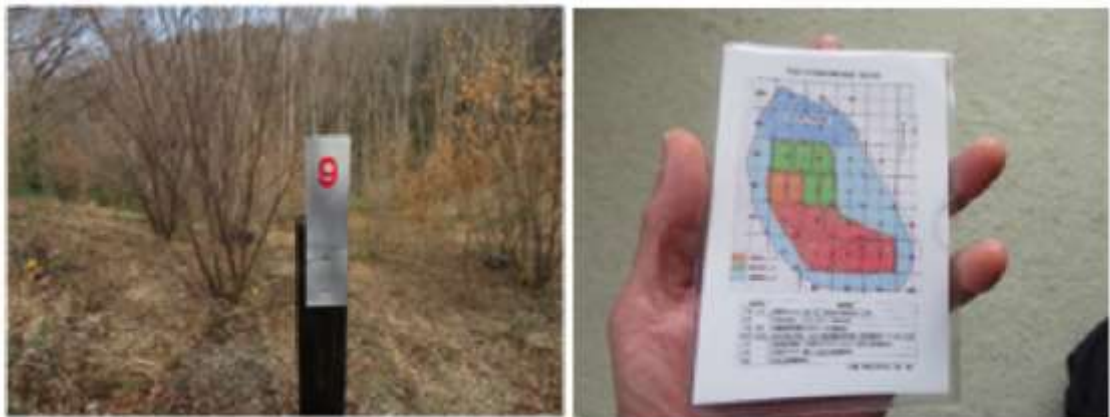


写真4 表示杭と縮小地図

2 調査

雑木林の管理を始めたら、雑木林の反応を観察しながら、そこに合う順応的な植生管理を行うことが必須になる。そのための調査として、こならの丘では伐採調査（樹種、樹高、切り株直径、年輪数）、毎木調査（萌芽状況、モヤワケ結果、成長具合）、野草調査（調査対象

の野草約 60 種の数と分布)、ササ調査 (1 m²の範囲のササを刈り、その重量と大きいものの高さの平均を計測) などに多くの時間を充ててきた。

さらに、調査の記録を整理して、それにより次の方針を検討することが重要で、この作業も実作業以上の雑務的な労力が必要になるが、欠かすことはできない。



写真 5 1 m²ササ調査

IV ボランティア継続のための仕組み

私たちが管理を始めた時には、長い間放置されてきた雑木林を再生したテキストもなく試行錯誤の連続であったが、やっと最近になって安定した管理ができるようになってきた。管理技術を学び習得することにも期間を費やしたが、それ以上にボランティア活動を継続していける環境づくりが重要であった。そのために私たちがとっているのは、次のような仕組みである。

1 リーダーを置かない

ボランティアはメンバー全員が対等であるという理念を具現化するために、リーダーを置かないという方法により組織を管理している。しかし、経験や知識に勝る古くからのメンバーと新しいメンバーでは対等という意識を持っていないのも現実であり、そのため新しいメンバーには約 3 カ月をかけて研修を実施し、その溝を少しでも埋めるようにしている。

2 担当者制度

活動日の進行は、前月にあらかじめ決めておいた活動日ごとの担当者が行うこととしている。担当者は年間活動計画や前回の担当者から残った作業を確認するなどにより、当日の作業を決定する。また、最後に活動内容を記録するのも担当者の役割である。

3 運営会議での活動方針の決定

ボランティアの活動内容のすべては毎月実施している運営会議で決定し、1 カ月間の活

動について作業の進捗具合や反省点の確認などが行われる。また、翌月の作業の確認と担当者の割り振りも実施している。

4 参加動機の尊重

ボランティアへの参加動機は、「自然に親しみたい」、「環境保全、社会貢献をしたい」、「汗を流したい」、「他人との交流を図りたい」など様々であり、また体力や価値観の違いも大きい。しかし、これらの違いをすべて尊重するようにするため、活動日の作業内容は決めるもののその作業への参加は自由であり、体調や興味に合わせ自分にできることをするようにしている。その様々な作業が集まってボランティア活動が成立しているのではないだろうか。

5 ボランティアニュースの作成と配信

毎月、一カ月間の活動の記録、翌月の担当者と作業の予定、運営会議の記録などを取りまとめたボランティアニュースを作成して配信している。これは記録を残すという本来の目的以外に、しばらく活動に参加していなくても現場の状況が分かることから、ためらうことなく活動に復帰することができるという機能をも期待しているものである。

V おわりに

一昨年、東京都公園協会からナラ枯れの状況を調査したいとの申し入れがあり、私たちも調査の協力にあたった。そして 500 本を超える樹木を調査した結果は、「若い木で構成されている区域ではカシノナガキクイムシによる被害がほとんど見られなかったのに対し、その外周部の樹齢 70 年前後の木々には、8 割以上の穿孔があった。」というもので、皆伐更新によって雑木林を若返らせることがナラ枯れ被害を少なくすることに効果があることが確認された。

そうはいつでも、ナラ枯れ被害を防止することのみを目的に皆伐更新を始めることは、その作業量から考えても現実的とはいえず、もっと様々な付加価値を認めたうえで取り組む必要があるだろう。では、私たちが「ナラ枯れ」という言葉さえ知らないときから長い間この作業を続けてこられているのはなぜだろうか。それは、雑木林が私たちの思う理想形に近づいているのを実感できていること、若い木で構成された爽やかな雑木林の景観や美しい野草たちに癒されていること、様々な環境ができることにより結果的に生物多様性の確保に貢献できていると思えることなどに加え、自然への取り組みについて似たような考えを持つメンバーとのふれ合いに充実感を得ているからだと思う。

これから新たに皆伐更新を実施しようとする方々に、私たちの経験が少しでも参考になればありがたい。

参考文献

- 1) 阿部好淳・松元信乃（2022）緑化に関する調査報告（その 46）
都市公園の小面積皆伐によるナラ枯れ被害の回避
～桜ヶ丘公園こならの丘～
- 2) 多摩市 多摩市史

コミュニティガーデンのすすめ

西武・狭山丘陵パートナーズ

西武・武蔵野パートナーズ

西武・多摩部の公園パートナーズ

磯脇 桃子（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

矢口 直生（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

I. はじめに

「コミュニティガーデン」とは、一言でいうと地域の庭である。まちに花とみどり、人々の笑顔をもたらしてくれる。そして、地域交流の場や都市緑化の向上、環境教育の場など様々な効果が期待できる。私たちは、平成 18 年に指定管理を開始した狭山丘陵グループにはじまり、都立公園におけるコミュニティガーデンの普及に取り組んできた。今回は、東京都西部にある 3 グループの都立公園（狭山丘陵グループ※ 1、武蔵野の公園グループ※ 2、多摩部の公園グループ※ 3）で行っている「コミュニティガーデン」の取組について報告する。

II. コミュニティガーデンのイロハ

「コミュニティガーデン」は、まちかどの花壇や公園、マンションの中庭など、場所も、大きさや形も多様である。共通しているのは「みんなでつくり、みんなで楽しむ街なかの花壇」であること。仲間と一緒に愛着をもって手入れをし、つくる人や見て楽しむ人の笑顔があれば、そこはコミュニティガーデンとなる。

コミュニティガーデンは、1970 年代に米国フィラデルフィア、サンフランシスコ、ニューヨークを中心に始まったとされている。ニューヨークにおけるコミュニティガーデン活動は、一人の女性の働きかけが地域を蘇らせる運動への発展していった。当時、不景気からまち全体が荒廃し、空き地は不法投棄のゴミであふれ、犯罪の温床になっていました。それを見かねたリズ・クリスティーという女性が立ち上がり、周囲に働きかけ、ゴミを取り除き、木や花を植えて、空き地を公園のような空間に再生したのが始まりだといわれている。

このようにコミュニティガーデンは、地域課題の解決手段として始まった。現代社会には、都市環境の悪化や地域の人々のつながりが希薄になっているなど、さまざまな課題が山積している。コミュニティガーデンは、こうした社会課題を解決できる手法として社会の注目を浴びている。



写真-1 ニューヨークのコミュニティガーデン(Creative Little Garden)

ではコミュニティガーデンづくりは、どのように進めていけば良いのか。これからコミュニティガーデンづくりを進めるための4つのステップ「みんなで考える」「みんなで作る」「みんなが楽しめる」「コミュニティガーデンからはじまるまちづくり」を紹介する。

1. 「みんなで考える」

コミュニティガーデンづくりのスタートは、仲間を集め、想いを出し合うことから始まる。そして、対象となるガーデンがどんな場所なのかを確認する。日当たりがどうか？どんな人が訪れるのか？ガーデンの条件を確認・共有することが、このあとのガーデンづくりに非常に大事なポイントとなる。条件を踏まえて、ガーデン全体のコンセプトや方向性が決まったら、季節のテーマカラーや植え付ける植物の種類、株数などを決めるデザインワークを行う。

2. 「みんなで作る」

ガーデンデザインが決まったら、いよいよガーデンワーク。道具や材料の調達などを考え、土づくりや苗の準備を行う。準備が整えば、あとはデザインに沿って苗を植えていく作業。子供からお年寄りまで参加できる楽しい作業になるため、地域の人々が参加できる機会にして活動メンバーを増やすきっかけにできると良い。

3. 「みんなが楽しめる」

コミュニティガーデンは、つくっておしまいではない。花壇のお手入れや植物の利用、ガーデンパーティーの開催など、楽しいガーデンライフも醍醐味のひとつ。花壇の特徴にあわせた植物の活用や環境教育の場としての活用など楽しみ方は様々。

また、花の蜜をもとめてチョウやハチなどの昆虫があつまり、また隠れ家をもとめて鳥や動物もあつまってくる。生物多様性の向上にも一役買っている。ガーデンの手入れを通じて、生き物たちの息づかいに触れるのも大きな喜びとなる。

4. 「コミュニティガーデンからはじまるまちづくり」

仲間との楽しい会話、通りすがりの人とのふれあいなど、コミュニティガーデンづくりは、人との出会いにあふれている。人と人が出会い、生き物たちの住処が生まれ、人と自然がともに生きていける空間づくりができる。コミュニティガーデナーのもう一つの楽しみは、コミュニティガーデンがみどりのまちづくりにつながっていく事である。

都立公園にコミュニティガーデンがあることで、活動を通して花壇づくりに関する知識を得られるだけでなく、市民の健康増進や地域の活性化が期待でき、公園緑地を軸としたまちづくりにつながる。

Ⅲ. 様々なコミュニティガーデンの事例

1. トトロの里に花を添える里山公園のコミュニティガーデン(狭山公園)

都立狭山公園は、アクセスのしやすさなどから「狭山丘陵の玄関口」として位置づけて

いる公園である。東京都の水がめである多摩湖の下にあり、古くからサクラの名所として知られている。近隣には「西武園ゆうえんち」もあり、都民の身近な行楽地として親しまれている。

狭山公園では、指定管理を開始した平成 18 年より 17 年間に渡って「コミュニティガーデン講座※4」を実施し、最もコミュニティガーデンの普及に力を入れてきた公園である。この講座は、年間を通してコミュニティガーデンづくりの手法が学べる講座であり、講座を通して都立公園や地域で活動するコミュニティガーデナーを育てることを目的としている。

(※途中で「コミュニティガーデナー養成講座」より名称変更)



写真-2 コミュニティガーデナー養成講座 チラシ



写真-3 コミュニティガーデナー養成講座の様子

講座の実習地として利用している花壇は、講座開始時に再整備し、17 年間講座の参加者やボランティア等、関係する皆さんと育ててきた重要なコミュニティガーデンとなっている。狭山公園の正門に位置しているため、公園の印象を華やかにし、四季折々の花で来園者を楽しませている。



写真-4 17年前の花壇(狭山公園)



写真-5 コミュニティガーデンとして
生まれ変わった花壇(狭山公園)

また、長年の講座開催で培ったノウハウをまとめた「コミュニティガーデン講座テキスト」は、参加者から非常に好評を得ている。



写真-6 コミュニティガーデン講座テキスト

コミュニティガーデン講座は、コロナ禍で縮小を余儀なくされたものの、現在も継続的に実施している。17年間、継続して講座を実施することで、これまでに500名近いガーデナーを輩出。狭山公園が、コミュニティガーデンの素晴らしさを伝え、みどりのまちづくりで活躍する人を育てる拠点として機能している。

2. 地域社会と共に育む緑道のコミュニティガーデン(狭山・境緑道)

多摩湖から境浄水場までの水道管を布設した道路を緑化したのが、狭山・境緑道である。現在は、西東京市から東大和市までの10.5kmにわたって開園している。緑道沿いには、サツキ、ヤマブキ、アジサイ、サルスベリなど花の咲く樹木が多く、花の季節には彩りも鮮やかに装っている。緑道と並行して自転車・歩行者専用道が通っており、都立小金井公園、狭山公園とあわせて散策やサイクリングを楽しむことができる。狭山・境緑道は、花と緑の回廊として、散歩道や通学路など、地域の人々の癒しの空間として親しまれている。



写真-7 馬の背(狭山・境緑道)

狭山・境緑道では、公園ボランティアである「西東京・狭山境緑道花の会」が中心となって花壇づくりが行われている。「馬の背」と呼ばれる土手の東側にあるガーデンでは、宿根草をベースに植栽されており、年間を通じてメンバーがお手入れをしている。四季を通じて200種近い花々が咲き、緑道を利用する人々の目を楽しませてくれている。



写真-8 狭山境緑道花の会 活動の様子

また、10.5kmという長い距離の沿線には、多くの住宅が隣接している。その地域住民の力を活かすため、平成28年より「緑道ガーデンパートナー制度」を開始。緑道を綺麗にしたいという地域住民や団体と協定を結び、ガーデンパートナーとして、公園ルールの中で、緑道内で花壇活動を行っている。オリジナルのロゴマークや看板を作成し、制度の普及啓発を行っている。登録したガーデンパートナーの口コミなどもあり、現在は、57箇所(個人、グループ含む)にまで増加し広がりを見せている。この制度により、地域住民と顔の見える関係を築くと共に、長い沿線を花で彩り、愛着を持ってもらうことができている。



写真-9 緑道ガーデンパートナーの花壇と看板

3. 多世代間の交流を生み出す総合公園のコミュニティガーデン(陵南公園)

都立陵南公園は、八王子市に位置し、多摩御陵の南、南浅川のほとりにある総合公園である。近隣には戸建て住宅や大型の集合住宅があり、地域住民の憩いの場として親しまれている。

陵南公園では、地域と共に花壇づくりを行うため「ガーデンパークプロジェクト」を実施。「はじめてプラン(ビギナー向け)」「もっとプラン(連続講座)」「みんなでプラン(活動の場づくり)」を設定し、段階的に関われる機会を提供。その結果、ガーデンサポーターの立ち上げに成功し、地域の皆さんと共に花壇づくりが進んでいる。



図-1 陵南公園におけるガーデンプロジェクト図

(1) はじめてプラン (ビギナー向け)

はじめてプランでは、誰でも気軽に参加できる「ちょいボラ(体験ボランティア)」や、気軽に始められる「はじめてのコンテナガーデン」、公園の花壇づくり関わるきっかけづくりとなる「地域団体・学校等との活動」などを行っている。公園での花壇づくりに関わる人を増やし、より主体的な活動へとつなげるきっかけづくりとして機能している。



写真-10 ちょいボラのチラシと活動の様子



写真-11 はじめてのコンテナガーデン講座のチラシと活動の様子

(2) もっとプラン（連続講座）

もっとプランでは、はじめてプランで、「もっとやりたい」「もっと知りたい!」と思った方が、知識や技術を身に付けられる講座実施し、学べる機会を提供。コミュニティガーデンの考え方や手法を学ぶことで、公共の場での活動や合意形成の方法などの考え方も身に付けていただく機会となっている。



写真-12 コミュニティガーデン講座のチラシと活動の様子

(3) みんなでプラン（活動の場づくり）

みんなでプランでは、もっとプランで知識や技術を身に着けた方々が実際に活かす場、として活動の場を提供。ガーデンサポーターとして、継続的に公園での花壇づくりに関わっていただく場づくりを行っている。



写真-13 ガーデンサポーター活躍の様子

IV. コミュニティガーデンのすすめ

コミュニティガーデンは、人と人の絆を育みながら、地域を豊かで、居心地の良い空間に変えていく「地域の庭」である。都立公園におけるコミュニティガーデンの取組みは、公園の魅力や価値の向上だけでなく、地域の交流や生物多様性向上、公園を核としたまちづくりにつながる効果がある。ぜひ、皆さまもコミュニティガーデンづくりを推進し、まちに花とみどり、笑顔を広めていただきたい。

※参考(引用)文献

- 1)特定非営利活動法人 Green Works、特定非営利活動法人 NPO birth（2012）：
コミュニティガーデン講座テキスト

※1 狭山丘陵グループ：狭山公園、野山北・六道山公園、八国山緑地、東大和公園、中藤公園の5公園からなる。指定管理者は西武・狭山丘陵パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、特定非営利活動法人地域自然情報ネットワーク、一般社団法人防災普及協会。（いずれも令和4年度時点）

※2 武蔵野の公園グループ：武蔵野公園、浅間山公園、野川公園、狭山・境緑道、玉川上水緑道、武蔵国分寺公園、東伏見公園、六仙公園の6公園・2緑道からなる。指定管理者は西武・武蔵野パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、ミズノスポーツサービス株式会社、一般社団法人防災普及協会。（いずれも令和4年度時点）

※3 多摩部の公園グループ：陵南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地の4公園からなる。指定管理者は、西武・多摩部の公園パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、一般社団法人防災普及協会。（いずれも令和4年度時点）

※4 コミュニティガーデン講座：途中で「コミュニティガーデナー養成講座」より名称変更。

令和4年度 都立東綾瀬公園における花壇づくり等の取組

アメニス東部地区グループ

利用促進担当 齋藤桃子

I. はじめに

都立東綾瀬公園は昭和41年7月11日に開園した足立区北東部に位置する総合公園である。区画整理事業で生み出された公園であり、地域の住区基幹公園としての役割を担っている。各住区に点在する広場が全長約2kmの園路で繋がれてU字型をなし、かつての農業用水を活かしたせせらぎやスポーツ施設、じゃぶじゃぶ池、広場、花壇が配置されるなどエリアごとに多彩な景観を有している。

W地区と呼ばれるエリアでは都民協働によるハーブガーデンの維持管理作業及びハーブの普及啓発が行われている。本稿ではその取り組みを報告する。

II. 東綾瀬公園ハーブボランティア「かおりの小径」

1 基本情報

東綾瀬公園ハーブボランティア「かおりの小径」(以下「かおりの小径」)は、平成31年4月より活動を開始し、令和5年3月現在は約20名が会員として活動している。花壇管理を通じてボランティア相互の親睦を深め、地域にハーブの魅力を還元することを目的として、面積約900㎡のハーブガーデンで約150種類のハーブ類を育てている。

2 設立経緯

元々、W地区花壇の管理は花壇ボランティア「碧空」という10年以上活動していた団体によって行われていた。しかしながら、各地のボランティア団体が課題として抱えている高齢化の波には逆らえず会員数が減少の一途をたどり、ボランティアとしての活動の停止を公園側に申し出てきた。この「碧空」は最終的には会員数が2名となったこともあり、公園側も団体としての活動は難しいと判断し、活動停止を受け入れた。

「碧空」からの活動停止の申し出を受け、「碧空」が抜けた後の花壇をどのようにすればよいか検討を始めた。10年以上も花壇としてボランティアが管理していた場所であり、地域の住民の憩いの場所として定着していたため花壇として残していくこととした。しかしながら「碧空」の後を引き継いで管理してもらえるボランティア団体もおらず、公園スタッフでの管理も視野に入れて検討を続けた。

周辺住民の方々の憩いの場であったため、いろいろな方々の意見をいただきながら、またその方々が主体となって公園の花壇づくりに参画してもらえる花壇が良いということになり、公園でボランティアを募集し活動してもらうことにした。

これまでも花壇のボランティア募集を何回も行ってきたが反応は薄く、普通の花壇ではボランティア活動として魅力が乏しいのではというこれまでの経験から、また、一番の課題である「高齢化」の対策を図るために、若い女性の方々が興味を持ち、またボ

ランティアとして参加したいと思える花壇にするため、「ハーブ」に特化した花壇づくりを進めることとした。

過去にアメニス東部地区グループでは、都立汐入公園（現指定管理者：東京都公園協会）と都立宇喜田公園で公園主導によるハーブボランティアの立ち上げを行っており、どちらも若い年齢層の方々がボランティアに登録するという高齢化対策の成果や、また、花を見るだけの花壇でなく、香りやハーブという素材を活用したイベント展開を行い公園の利用促進にも大きく寄与する成果を上げてきた。

ここ都立東綾瀬公園でも上記 2 公園と同様の成果を達成する為に、「ハーブ」に特化したハーブガーデン作りと、そのガーデンで活動するハーブボランティアを設立するに至った。

Ⅲ. 運営体制

1 概要

「かおりの小径」の活動ではボランティア、ガーデナー、公園担当者の三者が協働した運営体制を取っている。継続的な維持管理作業をボランティアが担い、ガーデナーによる技術的なアドバイスやハーブの活用法の普及、公園担当者による安全管理や事務的なサポートによって運営されている。

三者の情報共有は日ごと、週ごとに作業等を記録する連絡ノートのほか、毎月第 3 月曜日に定例会を開き連絡調整を行っている。また、ボランティアの代表者、ガーデナー、公園担当者の間で適宜メールにて連絡を取り円滑な運営を目指している。年度末には総会を開き、1 年の反省や来年度の計画について話し合いの機会を設けている。

2 会員募集

毎年春と秋には新規会員の募集をかけ、説明会と管理作業体験会を開催している。約 4 年の歳月を経て、立ち上げ時の会員数 6 名から約 20 名の団体へと成長した。入会の動機は、誰かの役に立ちたい、自分のスキルアップをしたい、ただ没頭できることをしたい、共通の趣味を持った仲間が欲しいなど多様である。「かおりの小径」の立ち上げ当初は、自身のスキルアップや共通の趣味といった事でボランティアに参加してみようという傾向が強かった。専門性があり民間団体が認定する資格制度などもある「ハーブ」を自分でも勉強しながら育ててみたいといった方の参加が多い傾向が見られた。新規ボランティア参加者の増加から、実際に活動しているボランティアが楽しそうに活動しているのを見て、私も一緒になってやってみたいという動機が増えてきたことがうかがえる。ボランティアが満足できる活動ができるように公園担当者が活動をコーディネートしていくことや、ボランティアと公園利用者がコミュニケーションを取る機会を設け、公園利用者の皆さんに活動を理解してもらうことがボランティアを増やす上で必要だと思われる。「ハーブ」という素材は、見て楽しむだけでなく、触れたり香りを楽しんだりすることができ、またイベントでも活用できる素材であるため、公園

利用者との話のネタとしても十分である。

前述のように、「かおりの小径」は定期的に募集を行い、参加希望の方を対象に必ず説明会を行い、公園側の趣旨に納得いただいた方のみボランティアとして参加していただくようにしている。特定の年齢層が固まってしまうことや、一部の仲の良い人だけの活動になると高齢化を含めた課題に対応できなくなってしまうため、常に新しい方々を入れボランティアの活性化を図っている。

IV. 維持管理

1 概要

管理作業は、毎週月曜日午前中のボランティアとガーデナーの集合作業に加え、他の平日にボランティアが当番制で灌水や除草等を行っている。

ガーデンは 5 つにゾーン分けされており、メディカルキッチンガーデン（写真 1，2）、イングリッシュガーデン（写真 3）、コミュニティガーデン（写真 4）、ラベンダーガーデン（写真 5）、フルーツガーデンとして管理されている。メディカルキッチンガーデンではコモンセージやレモンバームなど、料理にも使いやすいハーブを育てている。イングリッシュガーデンではハーブ以外の植栽も行っている。イングリッシュガーデンに隣接したコミュニティガーデンでは年 2 回ほどハーブを活用したイベントを開催し、地域の人々とのふれあいの場、コミュニティづくりの場として活用を試みている。ラベンダーガーデンは毎年初夏にはランドマークとして機能し、道行く人々への花束の配布等も行うなど公園利用者とボランティアの交流の機会を作っている。



写真 1， 2：メディカルキッチンガーデン（画像提供：かおりの小径）



写真3：イングリッシュガーデン（左）、写真4：コミュニティガーデンイベントの様子（右）（画像提供：かおりの小径）



写真5，6：ラベンダーガーデン（画像提供：かおりの小径）

2 維持管理上の経過報告

一般的な花壇と同様に、ハーブガーデン作りにおいてもハーブが育つ環境（土、日照、気温、雨量、寒暖差、風の強弱、霜の強さなど）の把握が大事であり、2～3年間の経過を見る必要がある。そのうえで育てるハーブの選択や育て方の工夫など、場所に合った管理の仕方を見つけていく必要がある。ただし、ハーブは主に地中海沿岸を原産地とし、弱アルカリ性の土壌で良好に生育するため、土壌については維持管理が比較的容易である。

都立東綾瀬公園では、環境特性や用途などに合わせて5つのゾーンを設けている。例えば、日当たりと風通しに恵まれ、高低差があるため水はけの良いゾーンはラベンダーガーデンとした。コミュニティガーデンにはオリーブを2本植え、将来的には木陰でイベントを楽しめるようにと意図している。また、クローバーやミントなど踏圧に強い種類を植え、子どもたちが気兼ねなく遊べるようにしている。加えて、ミントなどは踏むことで香りが立つため、嗅覚でもハーブガーデンを楽しんでもらえるよう計画している。

このようなゾーニングに基づいて、約4年間かけて環境特性を把握しながら試行錯誤を重ねている。イングリッシュガーデンは、冬場に冷たい風が通り抜け、寒さや乾燥

への対応が課題となっている。メディカルキッチンガーデンでは霜の影響が大きく、種まきの時期がずれると根付かなくなってしまう。これらの課題に対しては、移植や各自の家で種をまき芽が出たものを持ち寄るなどの対策を講じている。

都立東綾瀬公園は都心のハーブガーデンとしては広い面積を持ち、ガーデン案内等による活用に適した条件を備えている。引き続きハーブ類を充実させるとともに、デザイン性をより考慮した植栽を行い、地域の方々にもハーブを身近に感じていただき、喜ばれるガーデンを目標としている。

V. ハーブガーデンの活用

1 ボランティアによる日常利用

採取したハーブは集合作業日の実習や、ボランティア個々人によって活用されている。集合作業日には藍染（写真 7～12）やフルーツポマンダーづくり、チンキづくり（写真 13～15）をはじめとして、ガーデナーの指導の下、人々が長い時間をかけて編み出したハーブの活用方法を実践している。さらに、ボランティア各人が、料理（写真 16, 17）、リースなどのクラフト（写真 18～21）等に利用し、集合作業日にはボランティアが持参したハーブを使った食品を皆で楽しむなど、ボランティアの日常にもハーブが溶け込んでいる。通常の花壇作りと異なり、収穫から利用までの楽しみがあることもハーブガーデン作りの特徴であり、ボランティア活動継続のモチベーションとなっている。

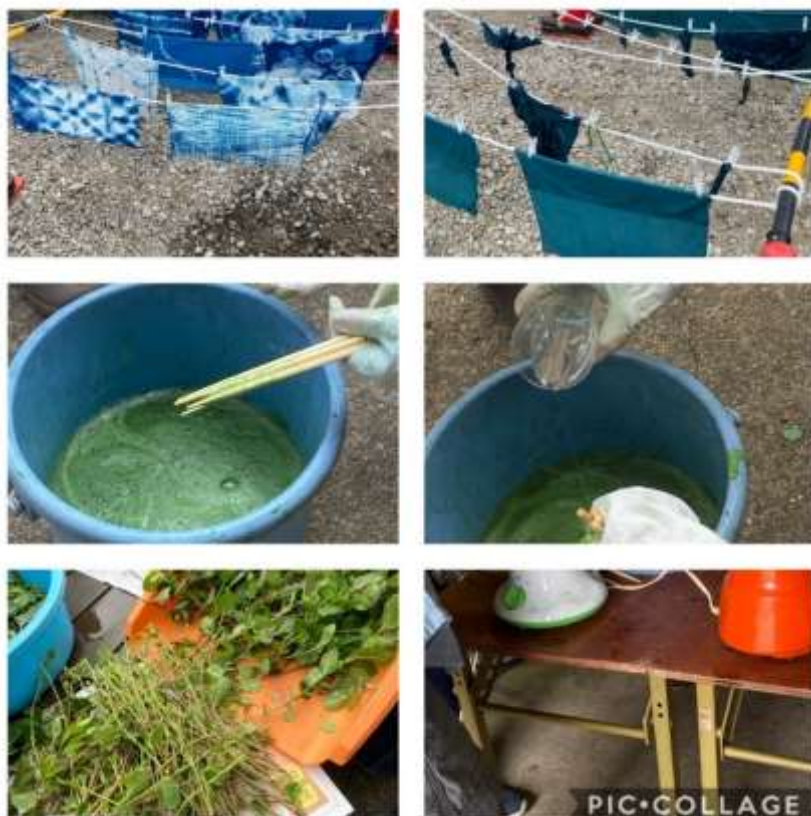


写真 7～12：藍染実習の様子（画像提供：かおりの小径）



写真 13～15：チンキづくり実習の様子（画像提供：かおりの小径）



写真 16：タイムを載せたクッキー（左）、写真 17：ルバーブジャムを挟んだクッキー（右）



写真 18～21：ボランティアの自宅に飾られたスワッグやリース（画像提供：かおりの小径）

2 イベント

集合実習や個人的なハーブの活用によって得た経験を活かして、ハーブを使ったクラフト教室（写真 22, 23）やハーブガーデン案内（写真 24）を組み合わせたイベントを年 2 回ほど開催している。直近ではラベンダーの挿し芽体験やミニバスケットづくり、サシェづくりに取り組んだ。クラフト教室の講師やガーデンの案内役をボランティアが務め、イベント参加者からはボランティアの親切な対応に対する感謝や、マヌカハニーの「マヌカ」など名前を知っているが見たことが無いハーブを見て、触れて、楽しめたことに対して好評をいただいている。参加者は 20 代から 60 代まで幅広い年齢層の女性が集まりやすい傾向にある。東綾瀬公園を散策しハーブガーデンのファンとなっていた方々の参加が多く、普段は入れない柵内に入ってハーブと触れ合うことができる点も満足度向上に寄与している。ボランティアと公園利用者の交流を深めると同時

に、ハーブの魅力を地域に還元し、利用促進の大きな一助となっている。



写真 22：ラベンダーのミニバスケット作り、写真 23：フレッシュハーブティー作り体験、写真 24：ハーブガーデン案内

Ⅵ. おわりに

活動開始直後はガーデナーや公園担当者による指導の下で活動を行い、着実にハーブに関する知識や技能を身に付けていく段階であった。活動開始から 4 年ほど経過し、ボランティアからも運営や維持管理に対する意見が活発に出るようになった。

今後のガーデナーの役割は技術指導に加え、ボランティアのチームワークづくりとやる気を引き出す手伝い、つまり彼らのモチベーションを上げるための手助けをすることである。公園管理者は安全で楽しく気持ちよく作業が出来るような配慮を行うとともに、ガーデナーとともにボランティアの「やりたい」を引き出し、実現させるようなサポート役を目指している。

ボランティアも公園も地域環境も win-win の関係であるように、協働の形を模索し続ける所存である。

原稿協力

「工房之」 ガーデナー 杉村捷子

株式会社日比谷アメニス コミュニティビジネス運営部 小谷野広明

1 東京の道路緑化状況

(1) 東京都の道路緑化状況

(令和4年4月1日現在)

ア. 東京の街路樹規模 (管理者別) 単位：本

種類	管理者	管理本数合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	24,573	2.4%	18,710	3.0%	5,863	1.6%
都道	東京都知事	647,655	64.3%	402,615	63.8%	245,040	65.1%
区道	特別区長	210,027	20.8%	210,027	33.3%	0	0.0%
市町村道	市町村長	125,366	12.4%	0	0.0%	125,366	33.3%
合 計		1,007,621	100.0%	631,352	100.0%	376,269	100.0%

イ. 東京の道路緑化延長 (管理者別) 単位：km

種類	管理者	緑化延長合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	197	5.3%	157	6.8%	40	2.9%
都道	東京都知事	1,371	37.2%	842	36.7%	529	38.0%
区道	特別区長	1,296	35.2%	1,296	56.5%	0	0.0%
市町村道	市町村長	822	22.3%	0	0.0%	822	59.1%
合 計		3,685	100.0%	2,295	100.0%	1,391	100.0%

*小数第1位を四捨五入した整数値で表記

ウ. 都内の道路緑地規模 (管理者別) 単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	340,783	7.1%	263,096	9.5%	77,687	3.9%
都道	東京都知事	2,312,653	48.2%	1,238,158	44.5%	1,074,495	53.4%
区道	特別区長	1,281,356	26.7%	1,281,356	46.0%	0	0.0%
市町村道	市町村長	859,049	17.9%	0	0.0%	859,049	42.7%
合 計		4,793,841	100.0%	2,782,610	100.0%	2,011,231	100.0%

エ. 東京の道路緑地規模 (緑地区別) 単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	歩道植樹帯	%	その他道路緑地	%
一般国道	国土交通大臣	340,783	7.1%	202,550	6.7%	138,233	7.8%
都道	東京都知事	2,312,653	48.2%	1,157,435	38.4%	1,155,218	64.8%
区道	特別区長	1,281,356	26.7%	919,098	30.5%	362,258	20.3%
市町村道	市町村長	859,049	17.9%	732,074	24.3%	126,975	7.1%
合 計		4,793,841	100.0%	3,011,157	100.0%	1,782,684	100.0%

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地 (中央分離帯・交通島など)

オ. 参考表

東京の道路延長及び面積規模 (管理者別) 令和4年4月1日現在

区 分	道路延長 m	%	道路面積 ㎡	%
一般国道	248,745	1.0%	7,504,117	3.9%
都道	2,242,953	9.1%	41,844,010	22.0%
区道	10,715,094	43.3%	70,873,527	37.3%
市町村道	11,243,048	45.5%	60,290,053	31.7%
自動車専用道	280,192	1.1%	9,480,744	5.0%
合 計	24,730,032	100.0%	189,992,451	100.0%

※道路率：都内全域8.6% 区部16.5% 多摩部10.5% 島しょ部1.8%

カ. 東京の街路樹等(高木)規模内訳

3-(1) 東京の街路樹 総括表

令和4年4月1日現在

樹種名		合 計 規 模			地 区 別 規 模 計				都 道				国 道				区 道		市 町 村 道															
		順位	本 数	%	順位	区 部	順位	多摩部他	区 部	多摩部他	順位	合 計	%	区 部	多摩部	順位	合 計	順位	合 計	順位	合 計													
アオギリ		20	4,816	0.48	16	4,314	22	502	2,818	331	13	3,149	0.49	31	0	17	31	20	1,465	24	171													
アキニレ		22	4,480	0.44	20	3,915	20	565	1,038	24	21	1,062	0.16	9	0	19	9	16	2,868	20	541													
イチョウ		2	59,733	5.93	1	38,097	2	21,636	18,953	8,592	1	27,545	4.25	4,839	2,398	1	7,237	3	14,305	3	10,646													
ウバメガシ		21	4,537	0.45	19	4,027	21	510	1,202	419	18	1,621	0.25	6	0	20	6	18	2,819	27	91													
エンジュ類		13	9,743	0.97	14	5,411	11	4,332	3,457	615	10	4,072	0.63	166	90	11	256	19	1,788	8	3,627													
クスノキ		7	18,684	1.85	6	13,114	6	5,570	3,311	2,920	7	6,231	0.96	71	37	14	108	4	9,732	13	2,613													
ケヤキ		5	28,952	2.87	7	12,798	5	16,154	3,765	6,676	5	10,441	1.61	919	478	4	1,397	5	8,114	5	9,000													
サクラ類		3	43,100	4.28	3	26,276	4	16,824	3,583	4,106	6	7,689	1.19	368	80	8	448	1	22,325	2	12,638													
シンジュ		28	124	0.01	29	15	27	109	14	0	29	14	0.002	0	0	24	0	29	1	26	109													
プラタナス類		6	22,285	2.21	4	20,572	18	1,713	13,448	739	4	14,187	2.19	1,718	9	3	1,727	10	5,406	17	965													
トウカエデ		4	35,540	3.53	5	14,549	3	20,991	6,329	10,762	3	17,091	2.64	652	643	5	1,295	6	7,568	4	9,586													
トチノキ		18	5,375	0.53	23	1,649	13	3,726	355	700	22	1,055	0.16	94	0	15	94	21	1,200	11	3,026													
トネリコ		27	342	0.03	26	327	29	15	61	0	27	61	0.01	2	0	21	2	26	264	29	15													
ニセアカシヤ		25	968	0.10	25	480	23	488	36	83	26	119	0.02	0	0	24	0	25	444	22	405													
ハナミズキ		1	62,007	6.15	2	27,336	1	34,671	6,777	13,247	2	20,024	3.09	947	306	6	1,253	2	19,612	1	21,118													
フウ		24	2,291	0.23	22	1,835	24	456	1,385	0	19	1,385	0.21	0	0	24	0	24	450	21	456													
外来ポプラ類		29	107	0.01	27	102	30	5	29	0	28	29	0.004	0	0	24	0	27	73	30	5													
マテバシイ		8	16,526	1.64	8	11,997	9	4,529	2,893	1,688	8	4,581	0.71	1,552	207	2	1,759	7	7,552	12	2,634													
モミジバフウ		15	8,262	0.82	11	6,395	17	1,867	3,526	795	9	4,321	0.67	2	76	16	78	17	2,867	16	996													
シダレヤナギ		23	2,363	0.23	21	2,161	26	202	812	10	23	822	0.13	175	0	12	175	22	1,174	23	192													
ヤマモモ		9	13,145	1.30	9	10,604	15	2,541	2,960	940	11	3,900	0.60	422	6	9	428	9	7,222	15	1,595													
ユリノキ		14	9,558	0.95	15	5,034	10	4,524	1,400	790	14	2,190	0.34	454	0	7	454	15	3,180	7	3,734													
ウメ類		26	902	0.09	24	574	25	328	41	174	24	215	0.03	0	0	24	0	23	533	25	154													
クワ		30	102	0.01	28	64	28	38	0	0	30	0	0.000	0	2	21	2	28	64	28	36													
コブシ		10	11,533	1.14	13	6,004	7	5,529	2,288	903	12	3,191	0.49	208	56	10	264	13	3,508	6	4,570													
サルスベリ類		11	10,461	1.04	12	6,314	12	4,147	897	988	16	1,885	0.29	16	0	18	16	11	5,401	10	3,159													
サザンカ類		19	4,906	0.49	17	4,307	19	599	116	6	25	122	0.02	0	0	24	0	12	4,191	18	593													
ツバキ類		12	9,822	0.97	10	7,531	16	2,291	31	1,722	17	1,753	0.27	0	2	21	2	8	7,500	19	567													
シラカシ		16	7,177	0.71	18	4,300	14	2,877	895	457	20	1,352	0.21	114	44	13	158	14	3,291	14	2,376													
ビロウ		17	5,418	0.54	30	0	8	5,418	0	1,961	15	1,961	0.30	0	0	24	0	30	0	9	3,457													
そ の 他			604,362	59.98		391,250		213,112	320,195	185,392		505,587	78.06	5,945	1,429		7,374		65,110		26,291													
街 路 樹	街路樹本数 合計	1,007,621 (本)			631,352			376,269			402,615			245,040			647,655			18,710			5,863			24,573			210,027			125,366		
	(百 分 率)	100.0 (%)			62.7			37.3			40.0			24.3			64.3			1.9			0.6			2.4			20.8			12.4		
	街路樹植栽延長	3,685.5 (km)			2,294.9			1,390.6			842.3			528.6			1,370.9			156.5			39.9			196.4			1,296.0			822.2		
道 路	面積 合計(①+②)	4,793,842 (㎡)			2,782,610			2,011,232			1,238,158			1,074,495			2,312,653			263,096			77,687			340,783			1,281,356			859,049		
	(百 分 率)	100.0 (%)			58.0			42.0			25.8			22.4			48.2			5.5			1.6			7.1			26.7			17.9		
緑 地	①歩道植樹帯	3,011,158 (㎡)			1,714,639			1,296,519			645,202			512,233			1,157,435			150,339			52,211			202,550			919,098			732,074		
	②その他道路緑地	1,782,684 (㎡)			1,067,971			714,713			592,956			562,262			1,155,218			112,757			25,476			138,233			362,258			126,975		

(港湾局含む) (島しょ含む)

* 道路緑地の「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

(2) 都道（東京都（知事）管理道路）道路の状況

2022/4/1

ア．総括表

街路樹【本】		647,655
道路緑地【m ² 】		2,312,653
	歩道植樹帯	1,157,435
	その他道路緑地	1,155,218
道路延長【km】	道路緑化延長	
	延長【km】	緑化率%
2,243	1,371	61.1%

イ．街路樹の主要樹種状況

順位	樹 種	本 数	割 合
1	イチョウ	27,545	4.3%
2	ハナミズキ	20,024	3.1%
3	トウカエデ	17,091	2.6%
4	プラタナス類	14,187	2.2%
5	ケヤキ	10,441	1.6%
6	サクラ類	7,689	1.2%
7	クスノキ	6,231	1.0%
8	マテバシイ	4,581	0.7%
9	モミジバフウ	4,321	0.7%
10	エンジュ類	4,105	0.6%
	上記以外	531,440	82.1%
合 計		647,655	100.0%

ウ．都道の街路樹・道路内緑地管理規模の推移

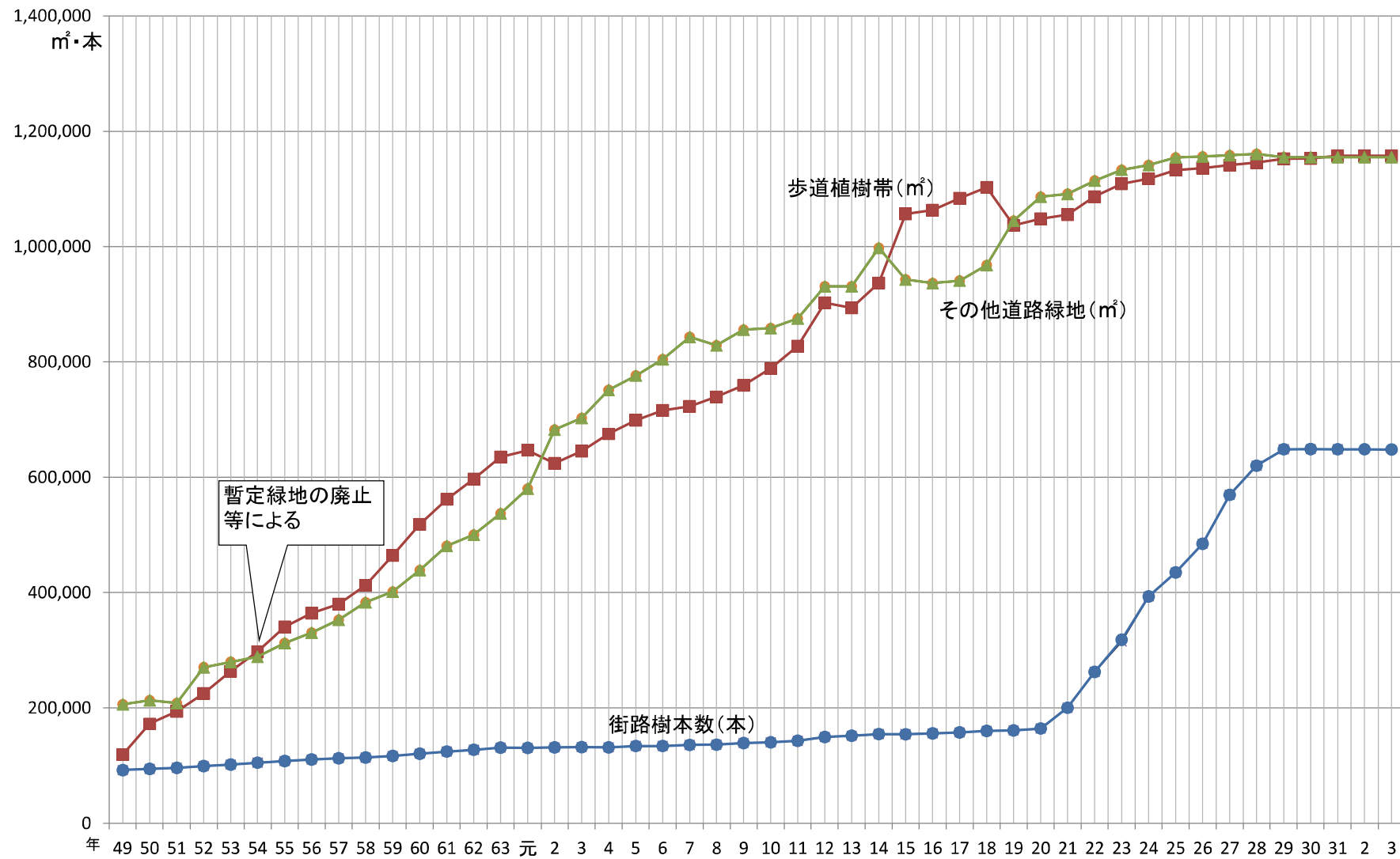
年度	街路街路樹 【本】	道 路 緑 地			
		面積合計(①+②) (㎡)	①歩道植樹帯 面積(㎡)	延長 (km)	②その他道路緑地 面積(㎡)
S49	92,283	325,568	119,308	113.7	206,260
50	94,275	386,141	172,536	164.0	213,605
51	96,135	402,436	194,194	180.9	208,242
52	98,969	495,605	225,267	199.0	270,338
53	101,678	543,466	263,638	231.1	279,828
54	105,039	586,440	297,552	258.8	288,888
55	108,063	653,338	340,840	291.2	312,498
56	110,795	694,915	364,200	319.6	330,715
57	112,864	732,864	380,023	336.2	352,841
58	114,004	795,383	412,449	350.1	382,934
59	116,681	865,720	464,347	375.3	401,373
60	120,799	957,292	518,287	405.2	439,005
61	124,349	1,042,711	561,944	433.7	480,767
62	127,560	1,096,909	596,903	461.0	500,007
63	131,235	1,172,279	635,007	490.9	537,272
H元	130,571	1,227,288	646,685	510.2	580,603
2	131,376	1,306,592	624,160	539.5	682,432
3	132,093	1,347,423	645,052	546.8	702,371
4	131,546	1,426,584	675,057	591.0	751,527
5	133,833	1,475,118	698,736	652.5	776,382
6	133,827	1,521,260	716,228	608.1	805,032
7	135,851	1,556,399	723,034	599.0	843,365
8	136,204	1,567,916	739,476	621.8	828,440
9	139,028	1,615,434	759,699	677.1	855,735
10	140,359	1,646,935	788,707	967.0	858,228
11	142,758	1,702,514	827,358	991.0	875,156
12	149,700	1,833,637	902,451	927.0	931,186
13	151,590	1,824,537	893,702	1132.0	930,835
14	155,013	1,935,183	937,125	1166.0	998,058
15	154,574	1,999,735	1,056,620	1176.0	943,115
16	156,095	1,999,711	1,063,299	1225.0	936,412
17	157,610	2,024,649	1,083,811	1206.0	940,838
18	159,953	2,070,549	1,102,681	1167.0	967,868
19	160,748	2,082,054	1,037,106	1191.0	1,044,948
20	164,460	2,134,525	1,048,157	1201.0	1,086,368
21	200,243	2,146,938	1,055,481	1211.0	1,091,457
22	262,648	2,201,077	1,086,744	1212.0	1,114,333
23	314,978	2,242,262	1,108,912	1228.0	1,133,350
24	393,492	2,259,174	1,117,631	1232.0	1,141,543
25	435,214	2,287,963	1,133,149	1351.0	1,154,814
26	484,906	2,292,453	1,136,111	1355.6	1,156,342
27	569,451	2,299,419	1,141,322	1359.2	1,158,097
28	620,374	2,306,784	1,145,826	1363.6	1,160,958
29	648,551	2,307,848	1,152,797	1368.6	1,155,051
30	649,078	2,308,013	1,152,962	1368.8	1,155,051
31	648,808	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
R 2	648,576	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
3	648,277	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218
4	647,655	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218

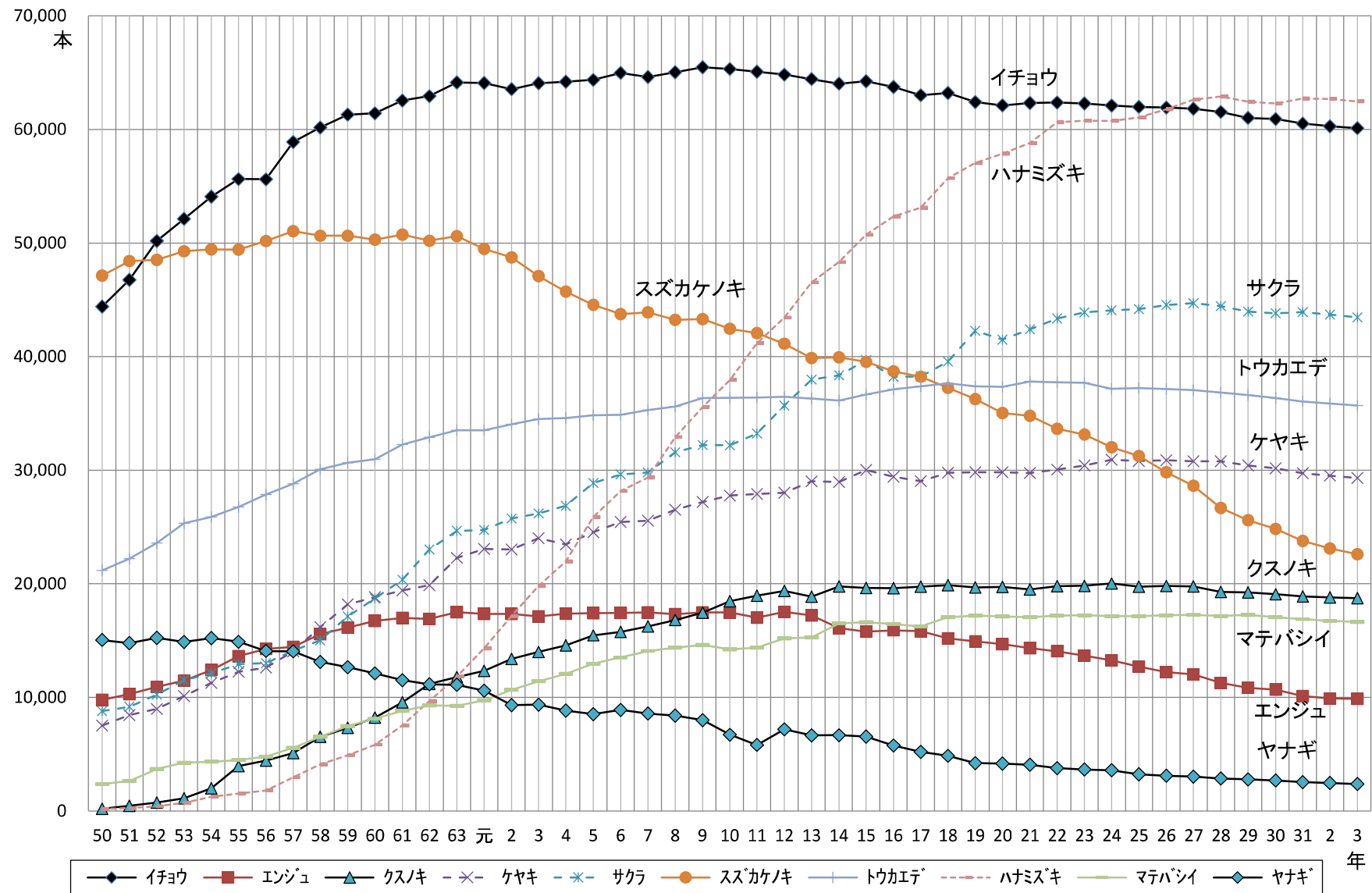
*数字は各年度4月1日現在 *港湾局分含む

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

エ. 都道の街路樹本数・緑地面積等の推移

(各年度4月1日現在)





2. 令和4年度 都立公園等植栽本数一覧表

(1) 総括表

項目 樹種		購 入 材										支 給 材												総 計	支給材 使用率 (%)	都内産 合計	都内産 使用率 (%)
		公 園 庭 園			霊 園			動物園			小 計	公 庭 園			霊 園			動 物 園			小 計						
		総数	都外	都内産	総数	都外	都内産	総数	都外	都内産		支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労				
樹木	針葉樹（本）	2,551	2,551	0	2	2	0	0	0	0	2,553	(2)	0	65	0	0	(5)	0	0	(0)	2	0	(70)	2,625	2.7	72	2.7%
	常緑樹（本）	283	283	0	138	90	48	0	0	0	421	(0)	35	95	3	0	(0)	0	0	(0)	3	35	(95)	554	24.0	181	32.7%
	落葉樹（本）	153	153	0	126	126	0	0	0	0	279	(20)	4	99	1	0	(20)	0	0	(0)	21	4	(119)	423	34.0	144	34.0%
	小 計（本）	2,987	2,987	0	266	218	48	0	0	0	3,253	(22)	39	259	4	0	(25)	0	0	(0)	26	39	(284)	3,602	9.7	397	11.0%
都内産使用率		0%			18%			0%																			
株物	常 緑（株）	9,358	9,358	0	1,294	1,294	15	0	0	0	10,652	(1)	79	968	6	0	(50)	0	0	(0)	7	79	(1,018)	11,756	9.4	1119	9.5%
	落 葉（株）	4,863	4,833	30	908	908	0	0	0	0	5,771	(0)	99	345	0	0	(110)	0	0	(0)	0	99	(455)	6,325	8.8	584	9.2%
	小 計（株）	14,221	14,191	30	2,202	2,202	15	0	0	0	16,423	(1)	178	1,313	6	0	(160)	0	0	(0)	7	178	(1,473)	18,081	9.2	1703	9.4%
都内産使用率		0%			0%			0%																			
計		17,208	17,178	30	2,468	2,420	63	0	0	0	19,676	(23)	217	1,572	10	0	(185)	0	0	(0)	33	217	(1,757)	21,683	9.3	2100	9.7%
特殊樹	樹 木（本）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0%
	株 物（株）	1,474	1,474	0	88	88	0	0	0	0	1,562	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1,562	0	0	0.0%
	小 計（本株）	1,474	1,474	0	88	88	0	0	0	0	1,562	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1,562	0	0	0.0%
	株 物（㎡）	63	63	0	0	0	0	0	0	0	63	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	63	0	0	0.0%
地被類	芝 生（㎡）	35,101	32,244	2,857	1,292	1,292	0	0	0	0	36,393	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	36,393	0	2857	7.9%
	芝生以外の 草本地被（株）	4,548	4,548	0	3,259	3,259	0	0	0	0	7,807	(0)	0	2,196	0	0	(733)	0	0	(0)	0	0	(2,929)	10,736	27	2929	27.3%
	〃 （㎡）	0	0	0	226	226	0	0	0	0	226	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	226	0	0	0.0%
	木本地被（株）	856	856	0	6	6	0	0	0	0	862	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	862	0	0	0.0%

[注意]・産業労働局支給材は、支給材の欄に()外書きする。

(2) 内 訳 表（令和3年度）

所 管 樹 種 種 別		公 園 ・ 庭 園																											
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						小笠原支庁						指定管理者						小 計			
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給				
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産	
樹 木	針葉樹(本)	2,550	2,550	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	65	2,551	2	0	(65)	
	常緑樹(本)	274	274	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	0	35	(95)	283	0	35	(95)		
	落葉樹(本)	124	124	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	24	0	20	4	(99)	153	20	4	(99)		
	計(本)	2,948	2,948	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	33	0	22	39	259	2,987	22	39	(259)		
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0						90.7						9.7			
株 物	常緑(株)	8,078	8,078	0	0	0	1,006	1,006	0	0	0	0	0	0	0	0	0	274	274	0	1	79	(968)	9,358	1	79	(968)		
	落葉(株)	4,360	4,360	0	0	0	120	90	30	0	0	0	0	0	0	0	0	383	383	0	0	99	(345)	4,863	0	99	(345)		
	計(本)	12,438	12,438	0	0	0	1,126	1,096	30	0	0	0	0	0	0	0	0	657	657	0	1	178	1,313	14,221	1	178	(1,313)		
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0						69.4						9.5			
合 計	小計(本)	15,386	15,386	0	0	0	1,132	1,102	30	0	0	0	0	0	0	0	0	690	690	0	23	217	1,572	17,208	23	217	(1,572)		
	合計(本)	15,386						1,132						0	0	0	0	0	2,502						19,020				
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0						72.4						9.5			
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)		
	株物(株)	1,474	1,474	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,474	0	0	(0)		
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	63	0	0	0	0	63	0	0	(0)		
地被類	芝生(㎡)	29,400	29,400	0	0	0	5,156	2,299	2,857	0	0	0	0	0	0	0	0	545	545	0	0	0	0	35,101	0	0	(0)		
	草本地被(株)	4,108	4,108	0	0	0	150	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	290	290	0	0	0	2,196	4,548	0	0	(2,196)		
	草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)		
	木本地被(株)	850	850	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	856	0	0	(0)		

所 管 樹 種 種 別		霊 園 ・ 葬 儀 所																					
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						指定管理者						小 計			
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給				
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産							
樹 木	針葉樹(本)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	5	2	0	0	(5)	
	常緑樹(本)	35	35	0	0	0	103	55	48	0	0	0	0	0	0	3	0	0	138	3	0	(0)	
	落葉樹(本)	121	121	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	5	0	0	0	20	126	1	0	(20)	
	計(本)	157	157	0	0	0	103	55	48	1	0	0	6	6	0	3	0	25	266	4	0	(25)	
	支給材使用率	0.0						1.0						82.4						9.8			
株 物	常緑株物(本)	1,165	1,165	0	0	0	75	60	15	0	0	0	54	54	0	6	0	50	1,294	6	0	(50)	
	落葉株物(本)	890	890	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	18	0	0	0	110	908	0	0	(110)	
	計(本)	2,055	2,055	0	0	0	75	60	15	0	0	0	72	72	0	6	0	160	2,202	6	0	(160)	
	支給材使用率	0.0						0.0						69.7						7.0			
合 計	小計(本)	2,212	2,212	0	0	0	178	115	63	1	0	0	78	78	0	9	0	185	2,468	10	0	(185)	
	合計(本)	2,212						179						272						2,663			
	支給材使用率	0.0						0.6						71.3						7.3			
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	88	0	0	0	0	88	0	0	(0)	
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
地被類	芝生(㎡)	551	551	0	0	0	135	135	0	0	0	0	606	606	0	0	0	0	1,292	0	0	(0)	
	草本地被(株)	1,165	1,165	0	0	0	864	864	0	0	0	0	1,230	1,230	0	0	0	733	3,259	0	0	(733)	
	草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	226	226	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	226	0	0	(0)	
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	6	0	0	(0)	

所 管 樹 種 種 別		動物園														合 計						
		東部公園緑地事務所						指定管理者						小 計								
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給									
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産												
樹 木	針葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,553	2	0	(70)	2.7	
	常緑樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	421	3	35	(95)	24.0	
	落葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	279	21	4	(119)	34.0	
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,253	26	39	(284)	9.7	
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0				9.7				
株 物	常緑株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,652	7	79	(1,018)	9.4	
	落葉株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,771	0	99	(455)	8.8	
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,423	7	178	(1,473)	9.2	
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0				9.2				
合 計	小計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,676	33	217	(1,757)	9.3	
	合計(本)	0						0						0				21,683				
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0				9.3				
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,562	0	0	(0)	0	
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0	(0)	0	
地被類	芝生(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36,393	0	0	(0)	0	
	草本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,807	0	0	(2,929)	27	
	草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	226	0	0	(0)	0	
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	862	0	0	(0)	0	

(3) 過去40年間における都立公園等の植栽実績（昭和57年度から令和3年度）

年度	種別	針葉樹	常緑樹	落葉樹	合計	支給材率％
昭和57年度	高中木(本)	1,410	4,128	3,425	8,963	67
昭和58年度	高中木(本)	1,063	9,538	5,369	15,970	61
昭和59年度	高中木(本)	445	4,425	3,977	8,847	32
昭和60年度	高中木(本)	602	9,448	5,753	15,803	14
昭和61年度	高中木(本)	692	10,864	5,325	16,881	17
昭和62年度	高中木(本)	762	14,589	4,946	20,297	13
昭和63年度	高中木(本)	447	10,052	5,159	15,658	11
	低 木(株)	0	158,951	74,436	233,387	7
平成元年度	高中木(本)	187	4,765	2,245	7,197	10
	低 木(株)	0	91,836	27,355	119,191	8
平成2年度	高中木(本)	212	7,428	6,172	13,812	24
	低 木(株)	0	84,338	28,092	112,430	33
平成3年度	高中木(本)	508	16,127	5,513	22,148	8
	低 木(株)	0	166,926	62,093	229,019	11
平成4年度	高中木(本)	331	5,240	1,751	7,322	12
	低 木(株)	0	48,632	11,894	60,526	21
平成5年度	高中木(本)	291	3,034	1,405	4,730	16
	低 木(株)	0	32,027	14,062	46,089	17
平成6年度	高中木(本)	891	2,120	2,327	5,338	18
	低 木(株)	0	57,765	28,383	86,148	42
平成7年度	高中木(本)	379	4,556	2,123	7,058	16
	低 木(株)	0	68,235	35,956	104,191	14
平成8年度	高中木(本)	96	2,827	1,904	4,827	14.6
	低 木(株)	0	49,234	15,683	64,917	15.1
平成9年度	高中木(本)	230	5,551	1,789	7,570	10.3
	低 木(株)	0	22,970	17,861	40,831	9.1
平成10年度	高中木(本)	301	3,453	1,974	5,728	13.2
	低 木(株)	0	21,132	11,947	33,079	9.9
平成11年度	高中木(本)	74	3,504	1,661	5,239	10.8
	低 木(株)	0	28,749	8,752	37,501	9.6
平成12年度	高中木(本)	72	3,776	1,568	5,416	6.8
	低 木(株)	0	11,452	14,642	26,094	1.9
平成13年度	高中木(本)	9	1,062	658	1,729	6.2
	低 木(株)	0	16,489	10,094	26,583	1.9
平成14年度	高中木(本)	447	1,064	1,942	3,453	3.8
	低 木(株)	0	27,043	16,214	43,257	0.2
平成15年度	高中木(本)	58	1,934	1,660	3,652	7.7
	低 木(株)	240	23,665	10,870	34,775	0.1
平成16年度	高中木(本)	101	1,088	1,267	2,456	3.9
	低 木(株)	0	21,951	11,518	33,469	0.0
平成17年度	高中木(本)	324	2,284	1,716	4,324	4.6
	低 木(株)	0	17,159	13,144	30,303	5.0
平成18年度	高中木(本)	13	1,062	1,203	2,278	5.7
	低 木(株)	0	20,470	7,223	27,693	0.5
平成19年度	高中木(本)	2	600	849	1,451	4.1
	低 木(株)	0	12,989	4,502	17,491	0.1
平成20年度	高中木(本)	228	2,199	1,189	3,616	32.7
	低 木(株)	0	31,815	11,228	43,043	11.1
平成21年度	高中木(本)	165	1,885	1,460	3,510	5.2
	低 木(株)	0	37,864	11,075	48,939	6.7
平成22年度	高中木(本)	69	11,625	8,468	20,162	5.4
	低 木(株)	50	21,492	5,559	27,101	0.6
平成23年度	高中木(本)	234	15,805	7,070	23,109	13.1
	低 木(株)	0	11,028	3,915	14,943	35.8
平成24年度	高中木(本)	273	3,372	5,982	9,627	24.8
	低 木(株)	0	21,626	4,085	25,711	21.6
平成25年度	高中木(本)	353	3,319	1,065	4,737	26.9
	低 木(株)	0	11,689	6,067	17,756	18.6
平成26年度	高中木(本)	307	4,296	1,983	6,586	23.4
	低 木(株)	0	9,105	3,107	12,212	23.6
平成27年度	高中木(本)	36	4,150	1,420	5,606	30.6
	低 木(株)	0	13,673	2,890	16,563	7.2
平成28年度	高中木(本)	345	1,547	1,697	3,589	30.0
	低 木(株)	0	13,183	4,566	17,749	24.2
平成29年度	高中木(本)	1,490	2,483	1,656	5,629	33.6
	低 木(株)	0	9,985	6,473	16,458	29.5
平成30年度	高中木(本)	4	1,658	1,530	3,192	28.1
	低 木(株)	0	25,144	17,118	42,262	7.6
令和元年度	高中木(本)	818	1,848	958	3,624	22.8
	低 木(株)	0	9,557	6,596	16,153	26.1
令和2年度	高中木(本)	406	2,410	1,001	3,817	5.4
	低 木(株)	0	13,569	6,608	20,177	5.1
令和3年度	高中木(本)	2,625	554	423	3,602	11.0
	低 木(株)	0	11,756	6,325	18,081	9.4

※平成23年度からの「支給材率」には「産労支給材」も含む。

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種(高・中・低木別)

高木

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	サ ク ラ 類 (212)	サ ク ラ 類 (238)	カ エ デ 類 (170)	サ ク ラ 類 (100)	サ ク ラ 類 (225)
2	タ コ ノ キ (82)	カ エ デ 類 (84)	サ ク ラ 類 (157)	ソ ヨ ゴ (86)	シ ラ カ シ (96)
3	シ ラ カ シ (67)	シ ラ カ シ (82)	シ ラ カ シ (67)	カ ク レ ミ ノ (81)	カ エ デ 類 (44)
4	カ エ デ 類 (54)	エ ゴ ノ キ (19)	ニ オ イ ヒ バ (50)	シ ラ カ シ (64)	ア カ テ ツ (19)
5	モ モ タ マ ナ (29)	コ ナ ラ (17)	アメリカデイゴ (40)	イ ス ノ キ (41)	コ ブ ガ シ (18)
6	モ ッ コ ク (27)	ク ス ギ (12)	ナンキンハゼ (40)	ナンキンハゼ (40)	モ チ ノ キ (16)
7	コ ナ ラ (21)	ソ ヨ ゴ (12)	テ リ ハ ボ ク (32)	ネ ム ノ キ (36)	サル ス ベ リ (14)
8	ヤ マ ボ ウ シ (19)	イ ヌ シ デ (11)	ソ ヨ ゴ (29)	ア ラ カ シ (35)	ス ダ ジ イ (10)
9	モ チ ノ キ (16)	常緑ヤマボウシ (11)	ネ ム ノ キ (28)	モ チ ノ キ (28)	クロガネモチ (10)
10	ヤ ブ ツ バ キ (11)	モ チ ノ キ (10)	ハナカイドウ (20)	カ エ デ 類 (27)	タ コ ノ キ (10)
	ク ス ギ (11)	ヤ マ ボ ウ シ (10)	マ テ バ シ イ (20)		

中木

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	イ ヌ ツ ゲ (431)	トキワマンサク (112)	マ サ キ (182)	ヒ サ カ キ (775)	イ ヌ ツ ゲ (144)
2	カ ナ メ モ チ (189)	キョウチクトウ (85)	トキワマンサク (140)	ブ ラ シ ノ キ (545)	ヒ イ ラ ギ イ モ ク セ イ (113)
3	サ カ キ (142)	イ ヌ ツ ゲ (65)	カ ナ メ モ チ (136)	ア オ キ (299)	カ ナ メ モ チ (110)
4	トキワマンサク (80)	マ ュ ミ (62)	イ ヌ ツ ゲ (56)	マ サ キ (164)	ギンモクセイ (22)
5	キンモクセイ (57)	シマシャリン バ イ (46)	サ ザ ン カ (49)	ヒ モ イ ラ ギ イ モ ク セ イ (127)	オ リ ー ブ (16)
6	ヒ イ ラ ギ モ ク セ イ (44)	ギンモクセイ (27)	オ リ ー ブ (48)	マ ン サ ク (121)	シ モ ク レ ン (15)
7	ギンモクセイ (27)	セ イ ヨ ウ カ ナ メ モ チ (26)	シャクナゲ (47)	カ ナ メ モ チ (109)	ア オ キ (5)
8	ロ ウ バ イ (18)	ハナカイドウ (18)	スモークツリー (40)	イ ヌ ツ ゲ (86)	レ イ ラ ン ド ヒ ノ キ (5)
9	ウ バ メ ガ シ (17)	ライラック (17)	キョウチクトウ (24)	ニ シ キ ギ (50)	リ ン ゴ (4)
10	マ サ キ (17)	ヤ ブ ツ バ キ (16)	セイヨウヒイラギ (23)	シャクナゲ (43)	キンモクセイ (3)

低木

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	サツキツツジ (3, 119)	サツキツツジ (5, 449)	サツキツツジ (2, 866)	ア ジ サ イ (1, 790)	サツキツツジ (2, 501)
2	ドウダンツツジ (1, 534)	ヒペリカム カリシナム (4, 165)	オオムラサキ ツ ツ (1, 159)	シャリンバイ (1, 742)	ドウダンツツジ (2, 059)
3	ア ベ リ ア (1, 514)	ア ジ サ イ (3, 890)	ヤ マ ブ キ (1, 058)	サツキツツジ (1, 645)	ハクチョウゲ (2, 040)
4	ナ ン テ ン (1, 236)	ラベンダー (2, 580)	ユキヤナギ (946)	ドウダンツツジ (1, 545)	クルメツツジ (1, 917)
5	ア ジ サ イ (1, 196)	ユキヤナギ (2, 409)	クルメツツジ (940)	オオムラサキ ツ ツ (1, 224)	ア ジ サ イ (1, 025)
6	レンギョウ (1, 115)	ヒペリカム ヒデコート (2, 225)	ク チ ナ シ (896)	ア ベ リ ア (939)	レンギョウ (845)
7	ハクビャクシン (1, 080)	ドウダンツツジ (1, 350)	シャリンバイ (892)	レンギョウ (925)	ジンチョウゲ (703)
8	クリシマツツジ (1, 063)	ヤ マ ブ キ (1, 311)	ア ジ サ イ (779)	ハクチョウゲ (910)	ヒラドツツジ (690)
9	キンシバイ (965)	クルメツツジ (1, 113)	ハイビャクシン (734)	ヒラドツツジ (745)	ア ベ リ ア (658)
10	ユキヤナギ (850)	クリシマツツジ (1, 075)	ドドナセア (580)	キンシバイ (725)	ユキヤナギ (610)

4. 委託調査一覧（R3年度）

R3年度に実施された主な調査委託

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
蘆花恒春園水質調査委託	R3.11.29～ R4.2.28	蘆花恒春園	東部公園緑地事務所	「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」及び「土壌汚染対策法」における指示措置に基づく地下水水質の測定及び測定結果を環境局に届け出る資料を作成した。
尾久の原公園環境調査委託	R3.7.12～ R4.3.31	尾久の原公園	東部公園緑地事務所	「荒川区東尾久七丁目地域ダイオキシン類土壌汚染対策計画」に基づく対策工事後の環境調査を実施した。 環境大気 一式、河川水 一式、覆土土壌 一式
水元公園苗圃保護管理委託	R3.4.1～ R3.12.14	水元公園	東部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
都立公園池水質調査委託	R3.4.1～ R4.2.25	上野恩賜公園、浜離宮恩賜庭園、葛西臨海公園、浮間公園、石神井公園、和田堀公園、舎人公園	東部公園緑地事務所	都立公園の池について、特に水質監視の必要な池を対象に水質調査を行った。15項目(葛西・石神井・和田堀は16項目) 各池4回/年
石神井公園三宝寺池水生植物保護委託	R3.4.1～ R4.3.31	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の保護及び増殖を図るとともに、本来の景観を回復させることを目的に、水生生物の保護管理を行った。
石神井公園三宝寺池植物群落復元追跡調査委託	R3.4.1～ R4.2.28	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の復元のために実施している保護管理作業の効果について追跡調査を行い、今後の維持管理方法を検討した。
石神井公園石神井池モニタリング等業務委託	R3.4.1～ R4.3.31	石神井公園	東部公園緑地事務所	生物多様性保全整備工事後のモニタリング調査を行った。
上野恩賜公園不忍池水質改善検討調査委託	R3.11.19～ R4.3.15	上野恩賜公園	東部公園緑地事務所	不忍池の水質改善を実施する上で必要となる各種情報について調査・整理を行うとともに、調査結果に基づく具体的な水質改善方法の検討を行った。(水位変動調査、水量調査、流入出量調査 など)
上野恩賜公園不忍池水質改善検討調査委託(その2)	R3.12.24～ R4.3.25	上野恩賜公園	東部公園緑地事務所	不忍池の水質改善を実施する上で必要となる各種情報について調査・整理を行うとともに、調査結果に基づく具体的な水質改善方法の検討を行った。(水質調査、底質調査、水質形成機構の検討、事例調査、工法比較 など)
野山北・六道山公園希少生物調査委託(3)	R3.4.1～ R3.9.30	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(3-4)	R3.10.6～ R4.9.30	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少生物調査委託(3-4)	R3.10.13～ R4.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少生物の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少猛禽類調査委託(3-4)	R3.10.13～ R4.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
井の頭恩賜公園水質環境調査委託(3)	R3.4.1～ R4.3.25	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の状況を把握するため、水質調査、底質調査、プランクトン調査を実施した。
井の頭恩賜公園水草再生調査委託(3)	R3.4.1～ R4.3.25	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた資料として、水草調査等を実施した。
井の頭恩賜公園水生生物都民協働運営業務委託(3)	R3.4.1～ R4.3.31	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた水生生物のモニタリング調査、普及啓発、外来生物駆除を実施した。

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
武蔵野苗圃ほか1苗圃 保護管理委託(単価契 約)	R3.4.1～ R4.3.31	武蔵野公園、小宮公園	西部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行っ た。
井の頭恩賜公園水生 植物管理育成委託(3)	R3.4.1～ R4.3.31	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の土壌シードバンクから発芽した水草の育成管理を実施した。

5. 令和4年度 花の見ごろ情報 年間リスト

月	3・4月	5・6月	7・8月	9・10月	11・12月	1・2月
表紙／今月の花	サンシュユ ミツマタ ソメイヨシノ	エゴノキ ブラシノキ	タマアジサイ ミソハギ	リンドウ バラ	ツワブキ ハゼノキ	スイセン 維管束
紹介公園	秋留台公園 陵南公園 小宮公園 滝山公園 桜ヶ丘公園 殿ヶ谷戸庭園 武蔵野公園 小金井公園 井の頭恩賜公園 神代植物公園 城北中央公園 善福寺川緑地 蘆花恒春園 砧公園 駒沢リビック公園 林試の森公園 小石川後楽園 六義園 染井霊園 旧古河庭園 上野恩賜公園 日比谷公園 芝公園 向島百花園 横網町公園 葛西臨海公園 清澄庭園 大嶋小松川公園 水元公園	小山田緑地 小山内裏公園 野山北・六道山公園 八国山緑地 狭山公園 長沼公園 桜ヶ丘公園 小宮公園 武蔵野の森公園 武蔵国分寺公園 小金井公園 武蔵野公園 神代植物公園 井の頭恩賜公園 光が丘公園 蘆花恒春園 砧公園 舎人公園 篠崎公園 旧古河庭園 潮風公園 夢の島熱帯商物館 木場公園	小山田緑地 小山内裏公園 小宮公園 桜ヶ丘公園 殿ヶ谷戸庭園 神代植物公園 野川公園 石神井公園 向島百花園 水元公園	滝山公園 小宮公園 秋留台公園 神代植物公園 代々木公園 日比谷公園 旧古河庭園	葛西臨海公園 桜ヶ丘公園 浜離宮恩賜庭園 旧芝離宮恩賜庭園 小石川後楽園 清澄庭園 旧古河庭園 殿ヶ谷戸庭園	台場公園 葛西臨海公園 清澄庭園 秋留台公園 井の頭恩賜公園 浜離宮恩賜庭園
花ごよみ （写真）	ナシ（日本梨） リンゴ					
花の実ごろ等 （写真）		ヤマモモ	ウグイスカグラ	ヤマボウシ	一両・十両・百両 ・千両・万両	ナンテン

花の実ごろ

今回は、5月下旬～6月上旬に実ごろを迎える
ヤマモモを紹介します。



ヤマモモ (山桃) ヤマモモ科ヤマモモ属 学名: Morella rubra

日本、朝鮮半島南部、中国、台湾、フィリピンに分布する常緑高木で、大きいものでは、20mほどに成長します。雌雄異株で4月頃に開花し、5月下旬～6月上旬頃に2cm程に成長し、紅色から暗赤色に熟します。

多くの野鳥が好んで実を食べるので、誘致を目的として植栽することもあります。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

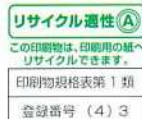
◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



The best time to see flowers.

花の見ごろ

情報

2022

5・6



エゴノキ

今月の花



ブラシノキ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

今月の花

エゴノキ (野茉莉) エゴノキ科エゴノキ属 学名: *Styrax japonica*

原産は、日本、朝鮮半島、中国、落葉の高木で10m程に成長します。

日本では、雑木林に多く自生しており、5月頃に、釣鐘状の白い小さな花がたわわに咲いていることを目にすることができます。

花が終わると、1~1.5cmの丸い乳白色の実に成長し、熟すと皮が縦に裂けて落ち、硬い種子が現れます。この実を好んで餌にする野鳥がヤマガラです。嘴を器用に使いコツコツという音を立てて殻を割り中の実を食べます。

また、エゴノキの未熟の種子の皮にはサポニンが含まれ、とてもえぐいのでエゴという名前がつけられたと言われています。

エゴノキは、小山田緑地、小山内裏公園、野山北・六道山公園、八国山緑地、狭山公園、長沼公園、桜ヶ丘公園、小宮公園、武蔵国分寺公園、小金井公園、武蔵野公園、神代植物公園、井の頭恩賜公園、光が丘公園、蘆花恒春園、砧公園、舎人公園などでご覧いただけます。

ブラシノキ フトモモ科ブラシノキ属 学名: *Callistemon speciosus*

原産はオーストラリア、ニューカレドニア。常緑小高木で樹高は1~3mに成長します。

花に特徴があり、ピンを洗うブラシ似ていることから、ブラシノキと名付けられたと言われ、英語ではボトルブラッシュと呼ばれることもあります。

花の形がユニークであるため、庭木のほか切り花やとしても利用されます。

花が終わると実が付きますが、虫こぶやカイガラムシの様な丸い形の物がたくさん並び中に粉状の種子が入っています。山火事や干ばつ等になると虫こぶの実が割れて、粉状の種子が放出されます。この様な災害が無ければ何十年も種子は果実から放出されないそうです。

ブラシノキは、篠崎公園、旧古河庭園、武蔵野の森公園、蘆花恒春園、潮風公園、夢の島熱帯植物館、木場公園などでご覧いただけます。

お問合せ先

● 小山田緑地：町田市下小山田町 361-10	☎ 042-797-8968
● 小山内裏公園：町田市小山ヶ丘 4-4	☎ 042-676-8865
● 野山北・六道山公園：武蔵村山市三ツ木 4-2	☎ 042-531-2325
● 八国山緑地：東村山市多摩湖町 4-31 (西武園入口)	☎ 042-393-0154
● 狭山公園：東村山市多摩湖町 3-17-19	☎ 042-393-0154
● 長沼公園：八王子市長沼町 517 (駐車場)	☎ 042-375-1240
● 桜ヶ丘公園：多摩市連光寺 5-15	☎ 042-375-1240
● 小宮公園：八王子市暁町 2-41-6	☎ 042-623-1615
● 武蔵国分寺公園：国分寺市泉町 2-1-1	☎ 042-323-8123
● 小金井公園：小金井市関野町 1-13-1	☎ 042-385-5611
● 武蔵野公園：府中市多磨町 2-24-1	☎ 042-361-6861
● 神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10	☎ 042-483-2300
● 井の頭恩賜公園：武蔵野市御殿山 1-18-31	☎ 0422-47-6900
● 光が丘公園：練馬区光が丘 4-1-1	☎ 03-3977-7638
● 蘆花恒春園：世田谷区粕谷 1-20-1	☎ 03-3302-5016
● 砧公園：世田谷区砧公園 1-1	☎ 03-3700-0414
● 舎人公園：足立区舎人公園 1-1	☎ 03-3857-2308
● 篠崎公園：江戸川区上篠崎 1-25-1	☎ 03-3670-4080
● 旧古河庭園：北区西ヶ原 1-27-39	☎ 03-3910-0394
● 潮風公園：品川区東八潮 1-2	☎ 03-5500-0385
● 夢の島熱帯植物館：江東区夢の島 2-1-2	☎ 03-3522-0281
● 木場公園：江東区平野 4-6-1	☎ 03-5245-1770
● 武蔵野の森公園：府中市朝日町 3-5-12	☎ 042-365-8435

花の実ごろ

今回は、初夏に実ごろを迎える
ウグイスカグラを紹介します。



ウグイスカグラ (鶯神楽) スイカズラ科スイカズラ属
学名: *Lonicera gracilipes* var. *glabra*

日本原産の落葉低木で、高さは3mほどになります。4月から5月に、赤い小さなラッパ型の花が下向きに咲き、初夏に真っ赤に熟した実は食べられます。

名前の由来は、「ウグイスガクレ (鶯隠れ)」が、「ウグイスがこの木を飛び歩く様子が神楽を舞っている」ように見えたことから転訛したなどといわれています。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

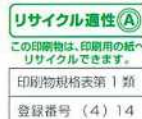
◇花の見ごろ情報は、年6回 (2ヵ月ごと) の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2022
7・8



タマアジサイ

今月の花



ミソハギ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版



タマアジサイ(玉紫陽花) ユキノシタ科アジサイ属 学名: Hydrangea involucrata

本州の山地の谷間や沢沿いに広く分布する日本固有の落葉低木で、花期は7~9月です。

和名は、蕾が球形であることによりま

す。
シーボルト (Siebold, Philipp Franz Balthasar von, 1796-1866) が日本において収集した植物標本や、川原慶賀などの日本人絵師が描いた下絵をもとに作成され、1835年から1870年にかけて30分冊として刊行された「フローラ・ヤポニカ(日本植物誌)」にも掲載されています。

タマアジサイは、向島百花園、小宮公園、神代植物公園、小山田緑地、小山内裏公園、殿ヶ谷戸公園、桜ヶ丘公園などでご覧いただけます



フローラ・ヤポニカに掲載されているタマアジサイの絵
京都大学貴重資料デジタルアーカイブより

ミソハギ(禊萩) ミソハギ科ミソハギ属 学名: Lythrum anceps

本州以南の山野の日当たりのよい水湿地に生える多年草で、花期は7~8月です。

和名は「みそぎはぎ(禊萩)」から来たとの説があり、盂蘭盆会(うらぼんえ)の供花として代表的なもののひとつです。

『みそ萩や分限に見ゆる髑(されこうべ) 其角』

また、早花は、食用、薬用に用いられるそうです。

ミソハギは、向島百花園、石神井公園、水元公園、神代植物公園、野川公園、小山田緑地、桜ヶ丘公園などでご覧いただけます。

お問合せ先

● 向島百花園	墨田区東向島 3-18-3	☎03-3611-8705
● 石神井公園	練馬区石神井台 1-26-1	☎03-3996-3950
● 水元公園	葛飾区水元公園 3-2	☎03-3607-8321
● 小宮公園	八王子市暁町 2-41-6	☎042-623-1615
● 神代植物公園	調布市深大寺元町 5-31-10	☎042-483-2300
● 野川公園	三鷹市大沢 6-4-1	☎0422-31-6457
● 小山田緑地	町田市下小山田町 361-10	☎042-797-8968
● 小山内裏公園	町田市小山ヶ丘 4-4	☎042-676-8865
● 殿ヶ谷戸公園	国分寺市南町 2-16	☎042-324-7991
● 桜ヶ丘公園	多摩市連光寺 5-15	☎042-375-1240

花の実ごろ

今回は、10月に実ごろを迎える
ヤマボウシを紹介します。



ヤマボウシ (山法師) ミズキ科ミズキ属
学名: *Cornus kousa* subsp. *Kousa*

高さ 5～10mになる落葉高木。6～7月に目立つ花弁に見える 4 枚の白い部分は総苞片という花の付け根の葉に相当し、中心の淡黄緑色で小さく目立たない花は20個から40個ほどが球状に密集している。

10月頃に赤く熟す実は食べられ、果実酒にも適する。果実が食用になるためクワの実に見立て、別名でヤマグワと呼ぶ地域も多い。

公園樹や街路樹として好まれるハナミズキ（ミズキ属）は、近縁種である。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

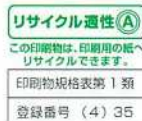
◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2022

9・10



リンドウ

今月の花



バラ
(初恋)

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版



リンドウ (竜胆) リンドウ科リンドウ属 *Gentiana scabra* var. *buergeri*

本州から四国・九州の明るい野山に自生する多年草で、秋の山野草の代表的なものです。

かつて水田のあぜなどに数輪ずつ多数自生していましたが、都市化とともに見る機会が減ってきています。

根を乾燥したものを漢方薬の「竜胆（りゅうたん）」といい、和名のリンドウはこの竜胆（りゅうたん）の音読みに由来します。敬老の日にリンドウを贈る習慣は、この薬効効果から「健康を祈る」説と高貴な色を表す紫色の「尊敬の念を表す」説とがあります。

リンドウは日光が当たると花を開かせるという性質があり、雨や曇りの日は萎んでしまいます。自宅で栽培しやすい園芸品種も多数あり、日当たりのよいところに植えるとより楽しめるでしょう。

都立公園では小宮公園や滝山公園、神代植物公園内植物多様性センターでご覧いただけます。

バラ (薔薇) バラ科バラ属 *Rosaceae Rosa*

バラは当初薬用や香料として利用され、やがて観賞用として栽培されるようになりました。19世紀にはいと、バラ育種が盛んになります。その歴史の長さを反映して、花の形や様々な香り、つるバラなど種類はバラエティ豊かです。

秋バラは、気温差によって花色が濃くなるため、本来の色が美しく発色します。花弁数の多い春バラほどのボリューム感はありませんが、その分1輪1輪に艶があり、奥深い色合いが生まれます。

10月初旬から徐々に開花を始め、中旬から下旬にかけて長く見ごろとなります。気温の低いこの時期はゆっくり花が開き、香りも長く放出されます。香り高い午前中に公園散策を楽しませてはいかがでしょうか。

都立公園では、秋留台公園、神代植物公園、旧古河庭園、代々木公園、日比谷公園などでお楽しみいただけます。



神代植物公園 秋のバラ園

お問合せ先

- 滝 山 公 園：八王子市高月町、舟木町 2,3丁目 ☎042-623-1615
- 小 宮 公 園：八王子市暁町 2-41-6 ☎042-623-1615
- 秋 留 台 公 園：あきる野市二宮 673-1 ☎042-559-6910
- 神 代 植 物 公 園：調布市深大寺元町 5-31-10 ☎042-483-2300
- 代 々 木 公 園：渋谷区代々木神園町 2-1 ☎03-3469-6081
- 日 比 谷 公 園：千代田区日比谷公園 1-6 ☎03-3501-6428
- 旧 古 河 庭 園：北区西ヶ原 1-27-39 ☎03-3910-0394

花の実ごろ

今回は、お金にまつわる実のなる木をご紹介します。
「万両、千両、ありどうし」(大金がずっと手元にある)



秋から冬に小球形の赤い果実をつけ、長い期間楽しめることから、縁起の良いものとして庭などに植えられるようです。

- イチリョウ (一両) アカネ科アリドオシ属 *Damnacanthus indicus*
[10～12月] 別名をアリドオシ (蟻通し) ともいう
- ジュウリョウ (十両) ヤブコウジ科ヤブコウジ属 *Ardisia japonica*
[10～11月] 別名をヤブコウジ (藪柑子) ともいう
- ヒャクリョウ (百両) ヤブコウジ科ヤブコウジ属 *Ardisia crispa*
[11～2月] 別名をカラタチバナ (唐橘) ともいう
- センリョウ (千両) センリョウ科センリョウ属 *Chlorathus glaber* [10月～2月]
- マンリョウ (万両) ヤブコウジ科ヤブコウジ属 *Ardisia crenata* [11月～1月]

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

◇花の見ごろ情報は、年6回 (2ヵ月ごと) の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372, 5365



The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2022

11・12

今月の花



ツワブキ

紅葉



ハゼノキ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

今月の花

ツワブキ(石路) キク科ツワブキ属 Farfugim japonicum

主に海岸沿いや低地、山地の林縁の日陰で良くみられる常緑の多年草です。秋に咲く花だけでなく、斑入りなど、葉も変化に富んで一年中楽しめることから、鑑賞用に庭などに植えられることも多い植物です。

「落」という文字が使われていますが、フキ(キク科フキ属)の仲間ではありません。

葉柄や葉は、食用や薬用として用いられることもあります。

葉の表面に美しい艶があることから、「艶落(つやふき)」、「艶葉落(つやばふき)」が転訛して「つわぶき」となったと言われています。

ツワブキは、葛西臨海公園、桜ヶ丘公園、浜離宮恩賜庭園、小石川後楽園、清登庭園、旧古川庭園、殿ヶ谷戸庭園などでご覧いただけます。

紅葉

ハゼノキ(黄櫨) ウルシ科ウルシ属 Rhus succedanea

果皮から木蠟(もくろう)を採る目的で栽培され、ロウノキとも呼ばれます。紅葉が埴輪の色に似ていることから、埴師(はにし)の木が転訛したものとされています。

11月中旬から12月上旬に、葉が緑色から赤色にグラデーション状に変わっていくさまがとても綺麗で、秋には燃えるような美しい姿を見せてくれます。

櫨紅葉(はぜもみじ)見てゐるうちに紅を増す 山口誓子

ハゼノキは、旧芝離宮恩賜庭園、清登庭園のほか丘陵地の公園などでご覧いただけます。



ハゼノキの紅葉グラデーション

お問合せ先

● 葛西臨海公園：江戸川区臨海町 6-2-1	☎ 03-5696-1331
● 桜ヶ丘公園：多摩市連光寺 5-15	☎ 042-375-1240
● 浜離宮恩賜庭園：中央区浜離宮庭園 1-1	☎ 03-3541-0200
● 旧芝離宮恩賜庭園：港区海岸 1-4-1	☎ 03-3434-4029
● 小石川後楽園：文京区後楽 1-6-6	☎ 03-3811-3015
● 清登庭園：江東区清澄 3-3-9	☎ 03-3641-5892
● 旧古河庭園：北区西ヶ原 1-27-39	☎ 03-3910-0394
● 殿ヶ谷戸庭園：国分寺市南町 2-16	☎ 042-324-7991



花の実ごろ

今回は、この時期に実ごろを迎える
ナンテンを紹介します。



ナンテン(南天) メギ科ナンテン属
学名: *Nandina domestica*

国内では暖地の山地に自生し、庭木にも良く植えられている一属一種の植物です。

日本で最初の植物図鑑と言われる江戸時代の本草図譜（右図：国立国会図書館デジタルコレクション）にも掲載され、「難を転ずる」の語呂から縁起のいいものとされています。

ナンテンの実は、咳や喉荒れに効く生薬として古くから利用されていました。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。

YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については [都立公園イベントカレンダー](#)

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

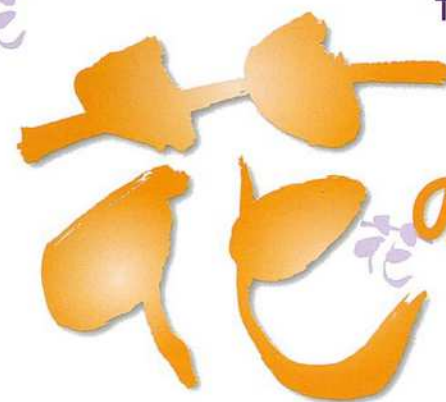
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372, 5365



The best time to see flowers.



花の見ごろ情報

2023

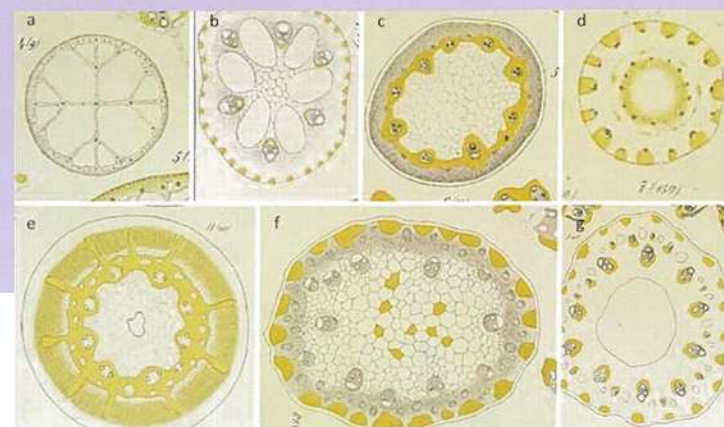
1・2

今月の花



スイセン

維管束



都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

スイセン（水仙） ヒガンバナ科スイセン属 Narcissus

スイセンは早春に花を咲かせ、春を告げる球根植物です。

スイセンの原種は25～30種類程度あり、RHS（英国王立園芸協会）には1万を超す品種が登録されて12系統に分類されています。

系統によって、早いものでは11月中下旬頃、遅いものは4月に開花し、夏には枯れて休眠します。

漢名の「水仙」は、仙人のように寿命が長く、水辺で育つ清楚な草で「水中の仙人」の意味に由来します。

また、学名の Narcissus は、泉にうつる自分の姿に見とれ、その姿に焦がれ水仙の花に化したというギリシャ神話に登場する美少年ナルキッソスに由来します。

スイセンは、台場公園、葛西臨海公園、清登庭園、秋留台公園、井の頭恩賜公園、浜離宮恩賜庭園などでご覧いただけます。

葉痕と冬芽

冬になって葉が落ちると、公園内のあちこちで小人たちの面白い顔が見られるようになります。

右頁の写真、人や動物の顔に見えませんか。冬芽の部分が頭、葉痕の部分が顔のようです。

葉痕は、枝に付いていた葉が落ちた後の維管束の痕跡です。

維管束は、水や養分を運ぶ管や植物の骨格を構成する重要な組織です。中学校の理科の時間に顕微鏡で表紙下の図のような維管束を観察した方も沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。

虫眼鏡を持って、冬の植物の観察に出かけてみてください。どこかで見た顔が見つかるかもしれません。

※表紙（維管束図）：スイスの植物学者Simon Schwendener の図を転載

お問合せ先

● 台 場 公 園：港区台場1	☎03-5500-0385
● 葛西臨海公園：江戸川区臨海町6-2-1	☎03-5696-1331
● 清 登 庭 園：江東区清澄3-3-9	☎03-3641-5892
● 秋 留 台 公 園：あきる野市二宮673-1	☎042-559-6910
● 井の頭恩賜公園：武蔵野市御殿山1-18-31	☎0422-47-6900
● 浜離宮恩賜庭園：中央区浜離宮庭園1-1	☎03-3541-0200



都立公園の桜

今回は、神代植物公園で見られる
色々なサクラの中からご紹介します。



写真左から、

オカメ（無料区域内）

：イギリスの桜研究家 Ingram がカンヒザクラとマメザクラを交配して作出した品種。

アメリカ（有料区域内）

：ワシントンで栽培されているソメイヨシノの実生から、選抜されたと言われている。

トウカイザクラ（有料区域内）

：シナミザクラとコヒガンザクラの雑種と考えられている。

神代植物公園のサクラに関するお問い合わせは、神代植物公園サービスセンターまで
(Tel.042-483-2300)。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTube サイトで検索 Q マークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST
PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

◇花の見ごろ情報は、年6回（2ヵ月ごと）の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372, 5365



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号(4)73

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2023
3・4



カタクリ

今月の花



ナノハナ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

今月の花

カタクリ (片栗) ユリ科カタクリ属 *Erythronium japonicum*

カタクリは、早春、平地から山地の比較的日の差す落葉樹林に群生する植物です。カタクリが地上に姿を現す期間は4～5週間程度で、開花期間は2週間程と短く、「スプリング・エフェメラル」(春の妖精)と呼ばれています。

葉は開花株では2枚、まだ花が咲かない株では1枚付き、地下には細長い薄皮に包まれた球根(鱗茎 [りんけい])があります。

カタクリは種子で繁殖しますが、発芽から開花まで8～9年ほどかかります。また、種子には蟻を誘引するエライオソームという付属体があり、種子を蟻が運ぶことで分布が広がります。

かつては、片栗粉を得るために、デンプンに富んだ1枚の葉の時期の球根を採っていたことがあり、このことから、カタクリ(片栗)の名称は、片栗栗(カタハクリ)から転訛したものという説があります。

カタクリは、長沼公園、大戸緑地、小山内裏公園、殿ヶ谷戸庭園、東大和公園、野山北・六道山公園などでご覧いただけます。



(写真左) カタクリの群生

明るい樹林地とするため上木を間引いたり落ち葉掃きなど林床の管理をすることで、写真のような群落が見られるようになります。

(写真右) 蟻によるカタクリの種子の運搬です。

ナノハナ アブラナ科アブラナ属

「ナノハナ」は、アブラナ科アブラナ属の総称です。

春に咲くアブラナ科の黄色い花は、かたちもほとんど変わらず見分けが困難です。表紙の写真も同定が出来ていないため総称でご紹介しています。

遺伝的には、かつてヨーロッパから中近東にあったカラシナやアブラナなど3種のアブラナ属が交雑して、今の仲間が生まれたという説があります。

ナノハナは我々の食生活にも欠かせない植物で、例えば、アブラナは種子から菜種油を生産しますが、葉や花芽は主に野菜として食されています。またセイヨウアブラナは、種子から菜種油やキャノーラ油、サラダ油を生産し、菜種粕は高タンパクの動物飼料となっています。

ナノハナは、日比谷公園、葛西臨海公園、浜離宮恩賜庭園などでご覧いただけます。

お問合せ先

- | | |
|------------------------------|----------------|
| ● 日比谷公園：千代田区日比谷公園 1-6 | ☎ 03-3501-6428 |
| ● 浜離宮恩賜庭園：中央区浜離宮庭園 1-1 | ☎ 03-3541-0200 |
| ● 葛西臨海公園：江戸川区臨海町 6-2-1 | ☎ 03-5696-1331 |
| ● 長沼公園：八王子市長沼町、下柚木、堀之内 | ☎ 042-375-1240 |
| ● 大戸緑地：町田市相原町 | ☎ 042-661-0042 |
| ● 小山内裏公園：町田市小山ヶ丘 4-4 | ☎ 042-676-8865 |
| ● 殿ヶ谷戸庭園：国分寺市南町 2-16 | ☎ 042-324-7991 |
| ● 東大和公園：東大和市湖畔3、高木1、狭山3、奈良橋2 | ☎ 042-393-0154 |
| ● 野山北・六道山公園：武蔵村山市三ツ木 4-2 | ☎ 042-531-2325 |

令和3年度 都立公園における都民協働団体一覧表

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	青山公園	青山サクラの会	花壇づくり、清掃	2
2	2	赤塚公園	赤塚公園ニリンソウを守る会	大門地区自生地等のニリンソウを中心とした野草の保護・管理活動、秋から冬にかけて月2回程度の林の手入れ活動、ニリンソウ開花時期における利用者へのガイド活動、植物観察活動	45
	3	赤塚公園	みどりの手	雑木林の復活プロジェクト ニリンソウ観察デイ クリーンアップデイ	20
	4	赤塚公園	いたばし水とみどりの会	バッタ広場の手入れ 自然観察会	33
	5	赤塚公園	NPO法人 いた・エコ・ネット	どんぐりまつり 花壇づくり	25
	6	赤塚公園	赤塚公園植物モニタリング活動	植物管理活動・保護活動	26
	7	赤塚公園	徳丸北野神社田遊び保存会	ニフトコ成育観察・保存活動	26
3	8	秋留台公園	野草愛好会	野草園の維持管理、公園内花壇の花苗植付け・除草、公園イベントの手伝い	13
4	9	井の頭恩賜公園	井の頭かんさつ会	自然観察会の開催・外来生物駆除・モニタリング	22
	10	井の頭恩賜公園	あか井の	ガイド、イベントへ参画、整備作業、講師派遣	18
5	11	上野恩賜公園	上野桜守の会	桜の調査、後継樹育成、マップ・HP作成、募金活動など	50
6	12	宇喜田公園	宇喜田ハーブボランティア	花壇維持管理	20
7	13	浮間公園	フィレールラビッツ浮間	園内美化活動、ガーデン活動	8
8	14	大泉中央公園	いずみの会	花の手入れ	4
9	15	大島小松川公園	たんぽぽ	花壇維持管理	4
	16	大島小松川公園	わんず・どリー夢	犬のマナー啓蒙、清掃活動	100
	17	大島小松川公園	大島小松川カーデンボランティア	花壇維持管理	9
10	18	大戸緑地	大戸源流森の会	公園内自然環境保護活動、体験学習等イベント活動	20
11	19	尾久の原公園	尾久の原愛好会	公園の自然観察、稀少植物保護	17
	20	尾久の原公園	尾久の原公園花の会	花壇作り、花の植込み、管理	9
	21	尾久の原公園	尾久の原公園カバグループ	花壇作り、花の植え込み、管理	2
	22	尾久の原公園	尾久の原公園わんにゃんパトロール	愛犬家へのマナー向上呼びかけと糞の清掃	15
12	23	小山内裏公園	小山内裏公園谷戸山の会	樹林保護・雑木林管理、自然教室・イベント支援他	17
	24	小山内裏公園	小山内裏公園 畑ボランティアグループ	農作物耕作管理、農業体験学習実施、イベント支援他	19
	25	小山内裏公園	小山内裏公園花壇グループ	花壇手入れ、イベント支援他	11
	26	小山内裏公園	子どもの居場所・どんぐり分校	子ども・地域住民の居場所づくり、イベント支援他	20
	27	小山内裏公園	小山内裏わんわんサポーターズ	ドッグラン運営・整備、園内清掃、イベント支援他	183
	28	小山内裏公園	巡回グループ(パークモニター)	園内防犯・防災パトロール、ゴミ拾い、イベント支援他	18
	29	小山内裏公園	ラ・ヴェルデ	音楽活動他	11
	30	小山内裏公園	小山内裏公園 ボランティア連絡会	公園とボランティアの連絡調整、イベント支援他	279
13	31	小山田緑地	小山田緑地田んぼ友の会	稲作・畑作活動	39
	32	小山田緑地	NPO法人鶴見川源流ネットワーク	公園自然環境保護活動(草刈り、生き物調査等)	7
	33	小山田緑地	鶴見川源流自然の会	みはらし広場のエコパッチ管理	9
	34	小山田緑地	梅木窪の会	梅木窪分園での野外談話室の開催やアサザ池管理	4
	35	小山田緑地	フローラクイーン	大久保分園での花壇づくり	6
	36	小山田緑地	小山田緑地里山倶楽部	園内の環境保全活動等	10
14	37	葛西臨海公園	葛西臨海公園 グリーンボランティア	花壇づくり	21
	38	葛西臨海公園	葛西臨海公園 ひがた・たんぽ倶楽部	鳥類園での環境学習・維持管理活動	15
	39	葛西臨海公園	葛西東渚・鳥類園友の会	鳥類園自然保護活動	15
15	40	亀戸中央公園	三地区亀戸学童少年野球連盟	多目的広場とその周辺の整備	160
	41	亀戸中央公園	かめいど花の会	B地区及びC地区の花壇	7
16	42	砧公園	砧公園友の会砧パークアカデミー(KPA)	花壇づくり、花木の剪定など	110
	43	砧公園	Kinuta Park Tokyo e-Dog club	犬連れ飼い主のマナーアップ活動	5
17	44	木場公園	木場公園友の会	都市緑化植園の維持管理、噴水前花壇等花壇の維持管理、SC主催イベントへの協力など	68
	45	木場公園	江東植物愛好会	帰化植物見本園の維持管理(友の会と連携)、イベント開催など	30
	46	木場公園	木場プレーパークぼうけん隊	子供たちの公園での遊びを通じて公園の魅力を発信	13
	47	木場公園	木場公園ドッグランサポーターズ	ドッグランの清掃・管理、しつけ教室開催によるマナーアップ活動	22
	48	木場公園	中地区愛好会(千石一丁目長寿会・江東ワイズメンズクラブ)	中地区大花壇維持管理(木場公園友の会と協働)	24
	49	木場公園	ガールスカウト ケナフの会	園内の専用花壇でケナフを栽培し、来園者の地球環境保全認識を啓発している	6
	50	木場公園	ふとんリサイクル推進協議会	江東区の環境問題ボランティア	4
	51	木場公園	蘭友会	会員が育てた蘭の展示会、蘭の育て方教室の開催	40
18	52	木場公園	緑の会	園内の植物を写生、作品をミドリアムに展示、スケッチ教室の開催	5
	53	小金井公園	小金井公園 樹木の会	樹木及び梅林マップ作成、ガイド、園内イベント協力	22
	54	小金井公園	小金井公園 桜守の会	桜の育成管理(清掃、除草、苗木育成)、ガイド、園内イベント協力	29
	55	小金井公園	小金井公園 花の会	花壇管理、清掃、植栽、除草、園内イベント協力	27
	56	小金井公園	小金井公園 ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの清掃、飼い主への啓発活動、園内イベント協力	16
19	57	小金井公園	小金井公園 野鳥の会	バードウォッチング、探鳥会、除草、清掃、園内イベント協力	1
	58	駒沢オリンピック公園	駒沢公園 ドッグランサポートクラブ	ドッグランの運営管理	100
	59	駒沢オリンピック公園	NPO法人 グリーンバード 駒沢チーム	清掃	30
	60	駒沢オリンピック公園	nohara GREEN MATE	花壇づくり・管理	10
20	61	小宮・滝山公園	どんぐり会	花壇のお手入れ、野草や野鳥の観察会の開催、野鳥や植物の調査、草地や希少種等の保全活動、外来種駆除作業、イベント支援、機関紙「どんぐり通信」の発行、展示作成ほか	38
21	62	桜ヶ丘公園	雑木林ボランティア	雑木林管理、谷戸田管理、農業文化継承活動、イベント開催、野草等保全調査活動 ほか	48
	63	桜ヶ丘公園・長沼公園・平山城址公園	丘陵地ボランティア	丘陵地レンジャーの活動支援、園内巡回清掃活動、雑木林管理、野草等保全調査活動、イベント開催 ほか	29
	64	桜ヶ丘公園	都立桜ヶ丘公園ドッグランサポーターズの会	ドッグランの管理運営 公園花壇整備	14
22	65	狭山公園	狭山公園友の会	花壇づくり、イベント協力、雑木林の手入れ	32
23	66	狭山・境緑道	西東京・狭山境緑道花の会	花壇づくり、手入れ、清掃	9
	67	狭山・境緑道	こだいら観光まちづくり協会	花壇づくり、手入れ	17
	68	狭山・境緑道	東村山市小彼岸桜の会	苗木管理や剪定など、コヒガンザクラの手入れ	15
24	69	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(花の会)	花壇づくり、植栽	4
	70	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(和ぎの会)	イベント開催、利用促進活動、公園紹介や自然解説等の印刷物作成・掲事等	5
25	71	汐入公園	汐入公園ハーブボランティア	花壇作り	15
26	72	篠崎公園	篠崎公園友の会	花壇管理	7
	73	篠崎公園	篠崎公園 花笑会	花壇管理	4
	74	篠崎公園	篠崎公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン広場の管理・運営	7
27	75	芝公園	森元みどりを楽しむ会	花壇づくり、清掃、自然観察	17
	76	芝公園	NPO法人 Green Works生物多様性グループ	花壇づくり、清掃、自然観察	8
28	77	石神井公園	石神井公園野鳥と自然の会	水辺観察園の維持管理(週1回)、自然観察会(月1回)、・「石神井公園 自然の見どころ」ポスター作成・掲示(月1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、池水質調査、他	100
	78	石神井公園	ねりま・みどりと花の会	わーくわく花壇の維持管理(週1回)、野草観察園の維持管理(週1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)	20
	79	石神井公園	練馬に自然を育む会	野草観察園の維持管理(月3回)	11
	80	石神井公園	石神井・冒険遊びの会	プレイパーク、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、管理所主催の防災訓練などに協力(年1〜2回)	20
	81	石神井公園	NPO法人PLAYTANK(プレイタンク)	おひさまびよびよ(幼児向けプレイパーク)	20

29	82	城北中央公園	桜翠会「公園と緑を楽しむ会」	園内美化活動	18
	83	城北中央公園	城北 DOG WAN	ドッグラン活動	190
	84	城北中央公園	城北公園 友の会 すみれ会	植物管理活動	13
	85	城北中央公園	城北公園・四季の会	自然普及活動・自然環境管理・イベント活動	9
30	86	浅間山公園	浅間山自然保護会	雑木林保全、イベントによる普及啓発など	51
	87	浅間山公園・武蔵野公園	府中野鳥クラブ	野鳥調査や保全の普及啓発など	65
	88	浅間山公園・府中の森公園	浅間山ウォーキングクラブ	雑木林保全、イベントによる普及啓発など	25
31	89	善福寺川緑地	善福寺川さくらの会	花壇づくり、株物・低木剪定、イベントの企画・実施	12
32	90	善福寺公園	善福寺白寿会	花壇づくり、清掃、自然観察	11
	91	善福寺公園	善福寺公園友の会・クリーン部会	ゴミ拾い	1
	92	善福寺公園	善福寺公園 友の会 剪定班	園内全域中低木の剪定と刈込み	14
	93	善福寺公園	自然愛護会杉並	杉並区内絶滅危惧種の保全と林緑環境の復元、観察会協力	17
	94	善福寺公園	トロールの森実行委員会	野外アート展、水辺の利用を考える。	10
	95	善福寺公園	ギャラリー・クアドロ	公園サービスセンター主催の展示やイベントの講師やサポート公園の自然情報や写真等の情報報収集・提供	0
	96	善福寺公園	善福寺プレーパークの会	遊び場づくり	11
	97	善福寺公園	井荻万寿美会	花壇づくり、清掃	11
33	98	祖師谷公園	ハーブ木曜友の会	花壇の管理	14
	99	祖師谷公園	友の会ボビークラブ	花壇の管理	30
34	100	滝山公園	NPO法人 滝山城址群・自然と歴史を守る会	下草刈・枯枝処理等の遺構景観回復のための維持管理作業、歴史ガイドや講演会の実施など	69
35	101	東京臨海広域防災公園	植物ボランティアガーデンクラブ	花壇作り、中低木の簡単な剪定等	18
36	102	舎人公園	ボランティア 花壇の会	ボランティア花壇、野草園及び周辺整備	24
	103	舎人公園	舎人公園ボランティア 鳥の会	定期野鳥調査、巣箱取付の実施、観察会等イベント協力	11
	104	舎人公園	舎人DOGRUNサポートクラブ	ドッグラン内の管理運営(清掃や簡単な補修、マナーアップ啓発)	23
	105	戸山公園	新宿・戸山プレイパークの会	幼児親子など遊び場を提供	26
37	106	戸山公園	戸山公園に心やすらぐ花壇をつくる会	花壇維持管理、バラの育成	11
	107	戸山公園	松村 竹之介 個人ボランティア	花壇維持管理、側溝清掃	1
	108	戸山公園	陽だまりぼかぽか	花壇維持管理、園内清掃	11
	109	戸山公園	戸山公園フラワークラブ	花壇維持管理、園内清掃	19
	110	戸山公園	戸山楽しい花壇部	花壇維持管理	11
	111	戸山公園	内藤とうがらしプロジェクト	花壇維持管理・イベント共催	15
	112	中川公園	大谷田花の会	花壇作り	3
39	113	野川公園	野川公園緑の愛護ボランティアの会	自然環境保全活動、イベント運営	112
40	114	野山北・六道山公園	野山北・六道山公園ボランティア	里山の自然と文化を守る。雑木林、田畑、自然観察、伝統食など	277
	115	野山北・六道山公園	岸田んぼ会	田んぼづくりの指導	4
	116	野山北・六道山公園	日本野鳥の会奥多摩支部	雑木林の保全活動、自然観察会、野鳥写真展の開催	576
	117	野山北・六道山公園	武蔵村山自然に学ぶ会	雑木林の保全活動、自然観察会	32
41	118	東綾瀬公園	さくら組	花壇作り	4
	119	東綾瀬公園	ハーブボランティア	花壇作り	19
	120	東綾瀬公園	MKN会	花壇作り	8
	121	東綾瀬公園	綾瀬わんわんサポーター	美化活動	15
42	122	東村山中央公園	東村山市小彼岸桜の会	小彼岸桜生育管理、イベント協力	17
	123	東村山中央公園	東村山卒後の居場所準備室	花壇手入れ、清掃活動、イベント協力	10
	124	東村山中央公園	東村山中央公園小菊の会	小菊盆栽の仕立て、花壇手入れ、イベント協力	26
43	125	東大和南公園	花葉心雑草の会	ボランティア花壇の維持管理(花苗植付け・除草等)と公園イベントへの協力	13
44	126	光が丘公園	屋敷森の会	剪定、刈込、生き物・植生調査、ガイド	8
	127	光が丘公園	NPO法人みどり環境ネットワーク！	自然環境教育事業、自然観察会・イベント企画	80
	128	光が丘公園	認定NPO法人 生態工房	植生の維持管理、環境学習、外来動植物の駆除	120
	129	光が丘公園	光が丘カントウタンポポのなかま	カントウタンポポ自生地の維持管理、自然観察会、植生調査	20
	130	光が丘公園	特定非営利活動法人PLAYTANK	プレーパーク活動	24
	131	光が丘公園	光が丘公園花壇ボランティアの会	花壇育成、維持管理、腐葉土づくり	15
	132	光が丘公園	ツリーマスター クライミング アカデミー・南関東ブロック	木登り体験イベント	13
45	133	日比谷公園	NPO法人日本トビアリー協会	花壇づくり	6
	134	日比谷公園	日比谷公園 花のボランティア	花壇づくり	8
	135	日比谷公園	日比谷花の会	花壇づくり	11
	136	日比谷公園	(公社)園芸文化協会・日比谷ローズ	バラ花壇の整備と普及啓発	22
	137	日比谷公園	デロイト トーマツ グループ	花壇づくり	40
	138	日比谷公園	日比谷公園 チームクリスマスローズ	コンテナ花壇づくり	9
	139	日比谷公園	株式会社メタルワン	花壇づくり	50
	140	日比谷公園	株式会社帝国ホテル サステナビリティ推進委員会	花壇づくり	2
	141	日比谷公園	清和綜合建物株式会社	花壇づくり	135
	142	日比谷公園	太陽石油株式会社	花壇づくり	5
	143	日比谷公園	ミモザ	花壇づくり	7
46	144	水元公園	みずもと自然観察クラブ	自然観察、環境保全	18
	145	水元公園	イネ科花粉症を学習するグループ	水辺環境の再生・創出・保全	5
	146	水元公園	NPO法人水元ネイチャープロジェクト	自然環境の保全・保護	18
	147	水元公園	水元グリーンプラザ友の会	花壇整備ほか	35
	148	水元公園	水元公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン施設の運営	48
	149	水元公園	NPO法人 葛飾動物愛護の会	猫愛護活動	13
	150	水元公園	水元かわせみ倶楽部	自然環境保全、清掃・美化	45
	151	水元公園	大自然塾クラブ	自然環境の保全・保護・整備	15
	152	水元公園	エコシステムアカデミー水元	自然普及活動やイベント開催	24

47	153	武蔵国分寺公園	ドッグラン武蔵国分寺	犬のうんち拾い運動、マナーアップキャンペーンへの協力	80
48	154	武蔵野公園	野川ほたる村	国分寺崖線の雑木林保全、イベントによる普及啓発など	41
49	155	武蔵野中央公園	武蔵野中央公園ガーデンサポーター	花壇整備	11
	156	武蔵野中央公園	グリーンパークフライヤーズ	イベント協力	70
	157	武蔵野中央公園	武蔵カイトクラブ	イベント協力、教室協力	10
	158	武蔵野中央公園	倶楽部原っぱ	園内整備、イベント協力	70
	159	武蔵野中央公園	紙飛行機教室の会	教室協力	25
50	160	武蔵野の森公園	ひまわりの会	花壇づくり、イベント参加	14
	161	武蔵野の森公園	府中野鳥クラブ	野鳥観察、野鳥観察会	65
	162	武蔵野の森公園	おはなしキャンプ	絵本の読み聞かせ、工作	6
	163	武蔵野の森公園	おはなし夢くらぶ	絵本の読み聞かせ、工作	12
	164	武蔵野の森公園	おはなしのたね	絵本の読み聞かせ	21
51	165	武蔵野の森公園	調布飛行場の掩体壕を保存する会	掩体壕ガイドツアーなど	5
	166	代々木公園	武蔵野バラ会	フラワーランドバラ花壇の管理	43
	167	代々木公園	代々木公園ボランティア	フラワーランドバラ花壇の管理、樹木観察会など	65
	168	代々木公園	NPO法人 日本コミュニティガーデニング協会	花壇管理およびハーブ講座	30
	169	代々木公園	代々木公園ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの管理運営等	7
52	170	代々木公園	代々木公園ガーデニングクラブ	花壇管理	11
	171	代々木公園	特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所	花壇管理、清掃活動	10
	172	陵南公園	IVUSA	イベントサポート、花壇づくり、園内清掃など	60
	173	陵南公園	ガーデンサポーター	花壇づくり	7
	174	林試の森公園	森のアトリエ	自然工作教室	5
53	175	林試の森公園	樹木観察会	季節の見どころを観察	20
	176	林試の森公園	ユーカーリガーデン	花壇管理	7
	177	林試の森公園	森ねこいる会	不幸な猫の擁護活動	36
54	178	蘆花恒春園	NPO法人蘆花会	イベント実施、蘆花記念館展示・資料調査協力等	14
	179	蘆花恒春園	NPO法人芦花公園花の丘友の会	花壇管理、イベント実施、とんぼ池及び自然観察資料館管理	52
	180	蘆花恒春園	蘆花恒春園ファンクラブ	ドッグラン管理運営、公園内イベント・パトロール協力	38
	181	蘆花恒春園	芦花公園しあわせの野音の会	音楽会（パークライブ）実施、かやぶきコンサート協力	12
55	182	六仙公園	六仙公園花ボランティア	花壇づくり、手入れ、清掃	12
56	183	和田堀公園	FIT 杉並会	済美山自然林、観察の森の整備及び植生調査	7
	184	和田堀公園	杉並ねっこワーク	子供達の遊び場をベースとした地域交流	10
	185	和田堀公園	済美山グリーンキープ	園内の清掃	15
	186	和田堀公園	ゆうゆう大宮堀ノ内館	花壇作り	8
56公園	186団体	開園公園			5,893人

1	1	観音寺森緑地	観音寺の森	樹林地の手入れ	10
1公園	1団体	未開園公園			10人

1	1	旧岩崎邸庭園	茅町コンドル会	ガイド	61
	2	旧岩崎邸庭園	金唐紙友の会	金唐革紙の普及啓発	18
	3	旧岩崎邸庭園	花ふじフラスクール	館内の花による装飾	40
2	4	旧芝離宮恩賜庭園	旧芝離宮恩賜庭園ガイドボランティアの会	庭園ガイド	23
3	5	旧古河庭園	旧古河庭園ボランティアガイドの会	庭園ガイド	43
	6	旧古河庭園	西ヶ原フラワーロード会	本郷通りの清掃、花苗植付・管理	13
	7	旧古河庭園	NPO法人 西ヶ原ローズページェント	春・秋 バラの苗木販売他	15
4	8	清澄庭園	清澄庭園ガイド倶楽部	庭園ガイド	41
5	9	小石川後楽園	文京区立 柳町小学校	田植え、案山子づくり、稲刈り	80
	10	小石川後楽園	NPO法人 小石川後楽園庭園保存会	イベント協力、調査活動	100
	11	小石川後楽園	小石川後楽園ガイドクラブ	庭園ガイド	44
6	12	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園ガイドボランティアの会	来園者への庭園ガイド活動	14
	13	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園花の会	施設内の花の生け込み活動	3
7	14	浜離宮恩賜庭園	浜離宮庭園ガイドクラブ	園内ガイド	33
	15	浜離宮恩賜庭園	NPO法人水辺と生物環境保全推進機構	園内大泉水環境調査・保護活動、環境学習	25
8	16	向島百花園	墨田朝顔愛好会	大輪朝顔展の開催	45
	17	向島百花園	百花園ガイドの会	庭園ガイド	35
	18	向島百花園	墨田区ラジオ体操連盟向島地区	清掃活動	40
9	19	六義園	六義園ガイド倶楽部	庭園ガイド	50
9庭園	19団体	庭園			723人

1	1	井の頭自然文化園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG438 SG 78
2	2	恩賜上野動物園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG 438 SG 125
	3	恩賜上野動物園	恩賜上野動物園樹木美化ボランティア	園内の樹木や花壇などの緑地管理の手伝い	19
3	4	葛西臨海水族園	東京シーライフボランティアーズ	園内の生物ガイド、イベント共催	135
4	5	神代植物公園	深大寺 人と緑と犬の会	清掃、しつけ教室、セラピー活動、会報発行など	60
	6	神代植物公園	22世紀の森づくり・神代	森林整備、イベントの開催	52
	7	神代植物公園	神代植物公園ガイドボランティアクラブ	公園のガイド活動	52
5	8	多摩動物公園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG 438 SG 83
	9	多摩動物公園	TAMAZO(たまぞう) 特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	雑木林の保全管理による里山の再生、来園者に親しまれる森づくりなど	68
6	10	夢の島公園 夢の島熱帯植物館	夢の島公園、夢の島熱帯植物館ボランティア会	公園花壇管理、植物館ガイド等	25
4動物園	6団体	動物園		*DGは3動物園の総数	1,016人
2植物園	4団体	植物公園			189人

1	1	雑司ヶ谷霊園	緑のこみちの会	園内、外周部の花壇づくり、外周部の清掃	20
2	2	染井霊園	染井花の会	花壇管理	5
3	3	八柱霊園	一般社団法人 恩送り	無縁塚の清掃活動及び弔い活動	8
3霊園	3団体	霊園			33人

全箇所	全団体	全人数	
56公園	186団体	5,893人	計画・開園公園
1公園	1団体	10人	未開園公園
9庭園	19団体	723人	庭 園
4動物園	6団体	1,016人	動物園
2公園	4団体	189人	植物公園
3霊園	3団体	33人	霊 園
75園	219団体	7,864人	

6. バックナンバー目次（その1～その49）

その1＜昭和47年度＞

1. 公園地樹木の生育状態	1
(1) 生育被害調査	1
(2) 生育状態調査一覧表	7
(3) これらに関係ある委託報告などの要約	15
2. 公園緑地の土壌関係	20
(1) 土壌状態調査	20
(2) これが対策などについての委託・文献の要約	26
3. 公園緑地植栽・樹木利用度調査	32
(1) 公園造成にともなう植栽・樹木・株物の 利用状況について	32
(2) 公園造成における苗木の需要数量調査	34
(3) 公園街路等の植栽・樹木・株物の需要状況 (区役所関係)	38
(4) 既設公園などに植栽されている樹種順位	40
4. 公園緑地植栽・樹木の活着状況調査	42
(1) 土壌条件別、樹種別	42
(2) 活着状況調査	44
5. 公共用樹木の需供関係について	50
(1) 公共緑化用樹木の需要と生産などについて	50
(2) 苗木育成の課題	61
6. 都立公園等植栽設計上配慮すべき問題点	65

その2＜昭和48年度＞

1. 都立主要公園内外に於けるSO ₂ ・NO ₂ ・NO調査についての報告	1
2. 東京都内都市公園などの樹木生育障害状況について	2
3. 緑化樹木の耐都市環境性について	15
4. 公園緑地樹木の生育実態調査	23
5. 昭和47年度都立公園樹木活着率調査	33
6. 都立公園植栽樹種利用度などの調査	40
7. 昭和47年度委託調査の要約	47
(1) 東京湾埋立地緑化対策報告	47
(2) 公害対策試験並に緑化資料の蒐集と解析	50
(3) 植物材料(造園樹木)市場に関する調査	53
(4) 公園緑地の生態調査(樹木と土壌)	60
(5) 街路樹生態調査(その1)	62
(6) 街路樹に関する道路構造調査	63
8. その他資料	66
(1) マツノザイセンチュウ調査	66
(2) 主な都市緑化樹などの特性一覧表	67

その3＜昭和49年度＞

1. 昭和48・49年度委託調査の要約	1
(1) 都市緑化樹木の選出と植栽管理技術調査	1
(2) 東京港湾埋立地緑化対策	25
(3) 街路樹生態調査(その2)	45
(4) 街路樹の水分代謝に関する調査	53
(5) 街路樹の光合成能力に関する調査	62
2. 都立公園けやきの生育障害状況について	71
3. 都立公園の植栽地面積率について	85
4. 都立公園の植栽状況について	90
△ 植栽密度	
△ 形状別樹木構成	
△ 公園別主要景観構成木	
△ 昭和48年度都立公園植栽実績	
5. 都立公園の土壌調査について	101

その4＜昭和50年度＞

1. 植栽に対する基本的な考え方	1
2. 東京23区の緑地・樹木の実態調査集計報告(中間報告)	82
3. 東京都農業試験場における緑化に関する研究について	91
4. 都立公園土壌調査結果要約	95
5. 都立公園分類別植栽地率調査(昭和50年6月現在)	97
6. 昭和49年度都立公園・動物園・霊園植栽本数一覧表	98
7. 昭和49年度植栽主要樹種名一覧表	98
8. 昭和49年度都営苗圃・委託育成払出調査	100
9. 昭和49年度植栽樹木一覧表	101
10. 都立公園・霊園・動物園植栽調査	104
11. 緑化に関する収集文献資料リスト	110

その5＜昭和51年度＞

1. 土壌改良の手引き	1
2. 幹線道路における植樹帯の遮音効果	56
3. 歩道植樹帯における浮遊ふんじんの軽減効果	69
4. 東京都内の公園におけるカイガラムシの寄生調査	71
5. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	73
6. 都市緑化対策推進要綱	80
7. 保存樹及び保存樹林の指定状況	83
8. 都立公園分類別植栽地率調査(昭和51年6月現在)	87
9. 昭和50年度都立公園・霊園・動物園・植栽本数一覧表	88
10. 昭和50年度都営苗圃・委託育成払出調査	88
11. 昭和50年度植栽樹木一覧表	90
12. 都立公園・霊園・動物園樹木現況調査(昭和51年4月現在)	92
13. 昭和45～50年度都立公園・霊園・動物園における 植栽樹種順位	98
14. 東京都内街路樹管理者別数量調査	101

その6＜昭和52年度＞

1. 保全緑地公園における植生の保護及び 保全管理技術に関する調査	1
2. 防災公園の緑のあり方について	33
3. 樹木の生長曲線に関する調査	51
4. 樹木の根系の発達と土壌の関係について	60
5. 有機質土壌改良剤の緑化木への適用試験	64
6. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	70
7. 八柱霊園のマツノザイセンチュウ病防除について	90
8. 昭和51年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	93~94
9. 昭和51年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	93~94
10. 昭和51年度植栽樹木一覧表	95
11. 東京都内街路樹管理者別数量調査	98

その7＜昭和53年度＞

1. 樹木の生長曲線に関する調査	1
2. 街路樹生長量追跡調査	11
3. 公園緑地樹木の生育実態調査	25
4. 海上公園の植栽について	34
5. 東京都農業試験場における緑化に関する研究	84
6. 区、市町別緑地現況調査	116
7. 都立公園分類別植栽地率調査	120
8. 昭和52年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	121
9. 昭和52年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	121
10. 昭和52年度植栽樹木樹種別一覧表	123
11. 東京都内街路樹管理者別数量調査	127

その8＜昭和54年度＞

1.	台風20号による樹木被害状況調査	1
2.	保存樹及び保存樹林の指定状況	16
3.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	39
	(1) 観賞用針葉樹の特性および利用	40
	(2) 街路樹等緑化樹に発生する害虫とその被害実態	56
4.	樹木苗木生長量調査	78
5.	街路樹生長量追跡調査	81
6.	区・市町別緑地現況調査	92
7.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	98
8.	北部公園緑地事務所管内樹種調書	106
9.	駒沢公園樹種調査	107
10.	東京の都市公園における植栽樹種調書	108
11.	昭和53年度都知事管理道路植栽樹種別一覧表	111
12.	昭和53年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	113
13.	昭和53年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	113
14.	昭和53年度植栽樹木一覧表	115
15.	東京都内街路樹管理者別数量調書	117
16.	都立公園分類別植栽地率調書	119
17.	東京都街路樹年表	120
18.	東京都内樹木天然記念物一覧表	123
19.	東京気象表(抜粋)	125

その9＜昭和55年度＞

1.	日比谷公園生態調査	1
2.	造園植物特性	37
3.	都立公園・霊園・動物園サクラ現況調査	66
4.	樹木苗木生長量調書	76
5.	樹木発芽および生長量調査	79
6.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	83
	(1) 東京都におけるマツノザイセンチュウの分布と その被害状況(森林環境保全試験)	84
	(2) 有機物施用効果試験	92
7.	東京都の道路緑化状況調査	99
	(1) 道路緑化の現況	99
	(2) 道路緑化の推移	100
	(3) 東京都内街路樹管理者別調書	102
	(4) 昭和54年度都知事管理道路における植栽	103
	(5) 街路樹カラーイメージアンケート	106
	(6) 東京都の道路緑化管理管轄表	119
8.	都立公園分類別植栽地率調書	121
9.	昭和54年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	123
10.	昭和54年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	123
11.	東京気象表(抜粋)	125

その10＜昭和56年度＞

1.	植栽樹木実績調査	1
2.	造園植物特性	51
3.	樹木苗木生長量調査	72
4.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	89
	(1) 東京都におけるトウカエデのうどん粉病	90
	(2) コナラ萌芽の初期成長に関する研究	93
5.	東京都の道路緑化状況調査	104
	(1) 道路緑化の現況	104
	(2) 道路緑化の推移	105
	(3) 東京都内街路樹管理者別調査	107
	(4) 昭和55年度都知事及び都管理道路における植栽	108
	(5) 街路樹生長量追跡調査	111
6.	都市計画区域外緑地現況調査	115

7.	都立公園分類別植栽地率調書	117
8.	昭和55年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	119
9.	昭和55年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	119
10.	東京気象表(抜粋)	121
11.	緑化に関する調査報告(その1～その10)索引	123
12.	保存資料及び図書目録	
	(公園緑地部計画課計画第二係保管)	134

その11＜昭和57年度＞

1.	公園緑地生態調査	1
	(1) 上野恩賜公園生態調査	5
	(2) 恩賜上野動物園生態調査	21
	(3) 武蔵野公園生態調査	50
2.	表土保全調査	85
3.	神代植物公園緑の相談所 緑化相談実績調査	138
4.	台風10号による街路樹(都道)被害実態調査	154
5.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	163
	(1) 植木の連作障害と対策	164
6.	東京都の道路緑化状況調査	170
	(1) 道路緑化の現況	170
	(2) 道路緑化の推移	171
	(3) 東京都内街路樹管理者別調書	172
	(4) 昭和56年度都知事及び都管理道路における 植栽樹種別一覧表	173
7.	都立公園分類別植栽地率調書	175
8.	昭和56年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	177
9.	昭和56年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	177
10.	東京気象表(抜粋)	179

その12＜昭和58年度＞

1.	浜離宮恩賜庭園生態調査	1
2.	公園土壌改善のための基礎事項と実践例	57
3.	世論調査、アンケート等による緑化意識の動向	99
4.	樹木苗木生長量調査	120
5.	都農業試験場における緑化に関する調査	141
	(1) トウカエデ首垂細菌病の発生状況	141
	(2) 植木に発生するコガネムシ類の生態と防除	149
6.	東京都の道路緑化状況	153
	(1) 道路緑化の現状	154
	(2) 道路緑化の推移	161
	(3) 街路樹生長量追跡調査	175
7.	公園緑地行政をとりまく情勢の推移 一年表形式で	179
8.	外国都市との交換種苗	191
□ 資 料		
1.	都内の花の見所	217
2.	花言葉一覧	219
3.	園芸愛好普及団体一覧	223
4.	造園関係団体・組織・出版物一覧	226
	(1) 団体・組織	226
	(2) 出版物	230
5.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	232
6.	都立公園分類別植栽地率調書	237
7.	昭和57年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	239
8.	昭和57年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	239
9.	東京気象表(抜粋)	241

その13＜昭和59年度＞

1.	松くい虫の生態とその防除	1
----	--------------	---

2.	水元公園はなしょうぶ調査報告	14
3.	街路樹定点観測報告	35
4.	植栽樹木枯損状況調査	50
5.	六義園生態調査	75
6.	井の頭恩賜公園生態調査	136
7.	都政モニターアンケート	215
	「身近な緑」より	
8.	東京都の花「そめいよしの」に正式決定	228
9.	東京・北京友好都市提携5周年記念植樹	232
10.	緑の倍增計画と公園整備事業	239
	□ 資 料	
1.	緑の相談所利用状況	245
2.	東京都の道路緑化状況	249
3.	都立公園分類別植栽地率調書	255
4.	昭和58年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	257
5.	昭和58年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	259
6.	東京気象表(抜粋)	260

その14＜昭和60年度＞

1.	バードサンクチュアリの造成にあたって —光が丘公園での経験より—	1
2.	雑草管理と除草剤の概要	36
3.	街路樹関係苦情陳情調査	50
4.	ピクエアレーションにより土壌改良について	60
5.	ユウカリ栽培の経緯(その1)	72
6.	東綾瀬公園生態調査	82
7.	陵南公園生態調査	106
8.	殿ヶ谷戸公園生態調査	125
9.	浅間山公園自然環境調査	144
10.	緑化の普及、啓発事業	175
	(1) 全国都市緑化フェア	175
	(2) 都民グリーンフェスティバル'85	177
	(3) ガーデンシティ多摩'85	177
	(4) 第5回ふるさと東京まつり	178
	(5) 都市緑化月間の緑化普及行事	178
	(6) 都立公園ガイドの作成	181
11.	国際交流事業	184
	(1) 北京市人民代表大会友好代表团による 記念植樹(第3回)	184
	(2) カウラ日本庭園造成	186
	□ 資 料	
1.	緑の相談所利用状況	193
2.	東京都の道路緑化状況	195
3.	都立公園分類別植栽地率調書	201
4.	昭和59年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	203
5.	昭和59年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	205
6.	東京気象表(抜粋)	207
7.	公園別・樹種別樹木現況	208
8.	過去10年間・植栽樹木上位4種一覧表	211

その15＜昭和61年度＞

1.	公園システム管理・維持管理資料整備編 —多摩ニュータウンの事例より—	1
2.	伊豆大島におけるオオシマツツジの保全	31
3.	緑の相談所の新しい動き	39
	(1) 映像による植物図鑑の導入	39
	(2) 戸山公園緑の相談室開室 —展示について—	42
4.	農薬の概要と病害虫防除	48

5.	緑化道路整備事業 植栽樹種調査	58
6.	街路樹剪定手法の一提案(リフト車使用)	64
7.	ユーカリ栽培の経緯(その2) —鉢植栽培—	68
8.	コンポストの施用効果と安全性調査	75
9.	芦花公園自然環境調査	90
10.	代々木公園生態調査	120
11.	緑化及び公園事業の普及啓発	164
(1)	グリーンマップ発行	164
(2)	街路樹マップ発行	166
(3)	緑の公園フェスティバル '86実施	167
(4)	海のふるさと村開村記念式	168
(5)	自然公園の普及事業	170
(6)	各種グリーンフェア参加	174
(7)	アンケート「好きな公園・樹・草花」の 実施結果について	180
12.	国際交流事業	183
(1)	ニューヨークへハス寄贈	183
(2)	パリへ石燈籠を寄贈	184
(3)	カウラ日本庭園完成	192
□	資 料	
1.	緑の相談所利用状況	197
2.	東京都の道路緑化状況	199
3.	都立公園分類別植栽地率調査	205
4.	昭和60年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	207
5.	昭和60年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	209
6.	昭和61年東京気象表(抜粋)	210

その16＜昭和62年度＞

1.	東京都におけるケヤキの活力度調査について	1
2.	海のふるさと村(太島公園)植物園整備について	7
3.	公園のリーフレットの作り方	17
4.	街路樹 緑視率調査報告	29
5.	野川公園自然観察会の記録	38
6.	水元公園緑の相談所開設	51
7.	緑の図書室解説	58
8.	絶滅に瀕する小笠原固有種の育成・ 増殖・植生復元について	66
9.	花壇施工の実例について	70
10.	ユーカリ栽培の経緯(その3)	78
11.	浜離宮庭園自然環境調査	96
12.	向島百花園自然環境調査	121
13.	猿江公園生態調査	153
14.	清澄庭園生態調査	165
15.	芦花垣春園生態調査	179
16.	洗足公園生態調査	193
17.	野川公園生態調査	205
18.	善福寺公園生態調査	222
19.	'87緑の倍増計画と公園整備事業	241
20.	緑化及び公園事業の普及啓発	249
(1)	グリーンマップの作成発行	249
(2)	小笠原ビジターセンター開設	251
(3)	各種グリーンフェアへの参加	252
□	資 料	
1.	緑の相談所利用状況	259
2.	東京都の道路緑化状況	265
3.	東京都内街路樹等管理者別数量調査	274
4.	都立公園・都道内の花木植栽状況一覧表	275
5.	昭和61年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	276

6. 昭和61年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	278
-----------------------------	-----

その17＜昭和63年度＞

第1部	技術調査編	
1.	目黒公園自然環境調査	1
2.	赤塚公園自然環境調査	32
3.	目黒公園生態調査	48
4.	芝公園生態調査	74
5.	台場公園生態調査	94
6.	井の頭自然文化園生態調査	109
7.	丘陵地公園の植生管理について	122
8.	樹木生長量調査	131
9.	ユーカリ栽培の経緯(その4)	150
10.	ユーカリの病虫害防除試験について	160
11.	親緑施設のデザインについて	169
12.	文化財庭園の保存・復原・並びに 管理等に関する調査	178
13.	光が丘のイチョウについて	194
14.	街路樹(エンジュ)病害調査報告	206
15.	まちかど庭園の整備	216
第2部	管理運営報告編	
1.	夢の島熱帯植物館の開館	220
2.	東京都緑の図書室活動報告	238
3.	海のふるさと村(大島公園)椿資料館の開館	245
4.	高尾ビジターセンターの自然教室	253
5.	東アフリカ、タンザニア国造園技術 研究員を受け入れて	263
6.	ミラ・トリエンレ(ミラ国際博覧会)への出展について	271
第3部	資料編	
1.	緑の相談所の利用状況	283
2.	東京都の道路緑化状況	283
3.	昭和62年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	285
4.	昭和63年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	287
5.	昭和63年度都立公園の設計使用樹種上位10種	289

その18＜平成2年度＞

第1部	技術調査編	
1.	絶滅に瀕する小笠原固有植物の育成・ 増殖研究について	5
2.	東大和公園自然環境調査	39
3.	砧公園自然環境調査	81
4.	砧公園生態調査	110
5.	篠崎公園生態調査	120
6.	向島百花園の植栽について	140
7.	樹木生長量調査	145
8.	「道路のみどり」からとらえた東京の地域特性	173
9.	都立公園の維持管理計画について	182
第2部	運営報告編	
1.	奥多摩自然公園管理センター (奥多摩ビジターセンター)の運営について	197
2.	水元公園緑の相談所の運営について	213
3.	国際花と緑の博覧会東京都出展について	224
第3部	資料編	
1.	平成元年度 東京都・緑の相談所 相談実績	237
2.	東京都の道路緑化状況	238
3.	平成元年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	251
4.	苗圃配置図と栽培実績	253

その19 <平成3年度>

□ 技術調査編	
公園管理と農薬	1
東京都の公園のあり方に関するアンケート調査について	26
樹木(街路樹)の土木からの検証例の紹介	68
平成2年度生態調査の概要	
—東白鬚公園、日比谷公園、城北中央公園—	81
□ 管理運営報告編	
日比谷グリーンサロン(日比谷公園緑の相談所)の運営から	172
街路樹維持管理のOA化について	190
公園管理受託5年を経過して	
—施設維持管理について—	200
□ 資料編	
1. 緑の相談所活動実績(平成2年度)	223
2. 東京都の道路緑化状況(平成2年度)	224
3. 平成2年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	238
4. 平成2年度都立公園の設計使用樹種上位10種	240
5. 過去5年間の委託調査一覧	241
6. 東京都の緑化行政組織一覧	251
7. 都市緑化施設年表	252
8. 都市公園利用実態調査実績一覧	254
9. 都市公園の巨木一覧	255
10. 造園緑化団体一覧	257
11. 都市公園別植栽地率	258
12. バックナンバーの目次	259

その20 <平成4年度>

1 技術調査編	
・公園緑地の都市の熱汚染抑制効果について	1
・水元公園水辺ゾーンにおける水質改善事例	21
・「姉妹・友好都市との街路樹交換に関する調査」について	33
・平成3年度生態調査の概要	
—石神井公園・狭山公園・蘆花垣春園・亀井戸中央公園—	47
・平成3年度自然環境調査の概要 —光が丘公園—	84
2 管理運営報告編	
・夢の島熱帯植物館 —大温室の植物管理—	114
・八丈ビクターセンターの開設について	130
・東京都緑の公園フェスティバル'92	145
3 資料編(グリーンファイル)	
1. 緑の相談所活動実績(平成3年度)	159
2. 東京都の道路緑化状況(平成3年度)	166
3. 平成3年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	179
4. 過去4年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10種	
および過去5年間に於ける都立公園植栽樹木の傾向	180
5. 過去6年間の委託調査一覧	184
6. 都市緑化施設年表	196
7. 都市公園利用実態調査実績一覧	198
8. 都市公園の巨木一覧	199
9. 東京都の天然記念物	201
10. 緑化地区位置図	204
11. 造園緑化関連団体一覧	205
12. 東京の樹木医リスト	207
13. 植物開花時期調査(神代植物公園記録)	208
14. バックナンバーの目次	217

その2 1 <平成5年度>

I. 技術調査編	
● 竹芝ふ頭公園の人工地盤上の植栽について	3
● 浮間公園のふみツク・トンボ作成(ふれあい拠点整備)	19
● 平成4年度 生態調査の概要 一和田堀公園、清澄庭園、旧芝離宮庭園、 水元公園、浮間公園—	38
● 平成4年度 自然環境調査の概要 一桜ヶ丘公園、井の頭恩賜公園、林試の森公園—	81
II. 管理運営編	
● 浅間山のマシノキスケの保護	125
● 丘陵地公園の市民参加型植生管理 一都立桜ヶ丘公園雑木林ボランティア活動—	133
● 緑のフェスティバル'93 ＜国際交流事業＞	146
● 「東京カヤ友好提携記念」日本庭園(東京庭園)の 造成と寄贈	155
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成4年度)	
(1) 相談件数等	171
(2) 講習会	172
2. 東京都の道路緑化状況(平成4年度)	174
3. 平成4年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	184
4. 過去5年間における都立公園の設計使用樹種上位10位 (低・中・高木別)	185
5. 都市公園利用実態調査実績一覧	187
6. 都立公園緑化施策年表	
(1) 国	188
(2) 東京都	189
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別)	190
8. 緑化に関する調査報告(その1～その20)に掲載された 報告等一覧(項目別)	196
9. 東京都の天然記念物	205
10. 都市公園の巨木一覧	208
11. 緑化地区位置図	209
12. 造園関連団体一覧	210
13. バックナンバーの目次	212

その2 2 <平成6年度>

I. 技術調査編	
● 都市における緑の効用機能の解明	1
● 都市公園における「水辺の再生」について	11
● 親緑施設のデザインについて	32
● 平成4年度 生態調査の概要 一戸山公園箱根山地区、戸山公園大久保地区、 上野恩賜公園—	42
II. 管理運営報告編	
一公園施設の夜間利用について—	
① 葛西臨海水族園「微塵子博覧会」の開催	77
② 「夜咲く花の鑑賞会」の実施について	82
● 公園で活動するボランティアについて	88
● 山のふるさと村クワフセンター建設について	97
● 東京都緑の公園フェスティバル'94	106
● 「日比谷公園とわたし展」の企画と実施について ＜都区交流事業＞	116
● 平成6年度都市緑化連絡会活動について	127
III. 資料編(グリーン・ファイル)	

1. 緑の相談所 活動実績(平成5年度)	137
2. 東京都の道路緑化状況(平成5年度)	138
3. 平成5年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	145
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (低・中・高木別)	146
5. 花の見ごろ情報リスト	147
6. 都立公園緑化施策年表	
(1) 国	149
(2) 東京都	150
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別)	151
9. 東京都の天然記念物	157
10. 都市公園の巨木一覧	160
11. 緑化地区位置図	161
12. 造園関連団体一覧	162
13. バックナンバーの目次	164

その23 <平成7年度>

I. 技術調査編	
1. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落の復元	1
2. 阪神・淡路大震災における公園・緑化の状況について	13
3. 長沼公園雑木林調査	24
4. 浜離宮庭園におけるカワウの生息状況	33
5. 平成6年度 生態調査の概要 ―浜離宮庭園、向島百花園―	48
6. 平成6年度 自然環境調査の概要 ―第六台場―	94
II. 管理運営報告編	
1. 石神井公園におけるヤマザクラの立曳きについて	113
2. 苗圃の変遷	122
3. 外国都市との交換種苗	129
4. 東京都緑の公園フェスティバル '95	138
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成6年度)	149
2. 東京都の道路緑化状況(平成6年度)	152
3. 平成6年度都立公園等植栽本数一覧表	160
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (高・中・低木別)	162
5. 花の見ごろ情報リスト	163
6. 緑化施策年表	164
7. 東京都の天然記念物	166
8. 都市公園の巨木一覧	169
9. 緑化地区位置図	171
10. ボランティア一覧	172
11. 造園関連団体一覧	173
12. バックナンバーの目次	175

その24 <平成8年度>

I. 技術調査編	
特集:東京の里山	
1. 東京の里山	1
2. 桜ヶ丘公園萌芽更新区域植物調査の概要	8
3. 平成7年度 小宮公園雑木林調査委託の概要	18
4. 保全地域における雑木林萌芽更新調査	28
5. 新たな谷戸管理手法の確立	50
6. 本紙掲載の里山関連文献	63
調査報告文	
1. 都市公園の水辺環境調査について	64
2. 平成7年度 街路樹樹勢調査の概要	89
3. 街路樹(ケヤキ)の育成管理調査について	104

4. 平成7年度 自然環境調査の概要 ―長沼公園―	114
II. 管理運営報告編	
1. 街の植樹祭の歩み	141
2. 東京都緑の公園フェスティバル'96	149
3. 平成7年度 都市緑化連絡会活動について	160
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成7年度)	177
2. 緑の相談所 相談内容の調査について	181
3. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	190
4. 平成7年度都立公園等植栽本数一覧表	198
5. 過去5年間における都立公園の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	200
6. 平成8年度花の見ごろ情報年間リスト	201
7. 緑化施策年表	202
8. 東京都の天然記念物	204
9. 都市公園の巨木一覧	207
10. 緑化地区位置図	209
11. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	210
12. 造園関連団体一覧	211
13. バックナンバーの目次	213

その25＜平成9年度＞

I. 25周年記念特集	
1. 都市緑化の変遷25年	1
2. 発刊から25周年を迎えて	7
II. 技術調査編	
1. 平成8年度 緑の基礎調査の概要 ―芝公園、水元公園―	27
2. 環境緑地帯調査	86
3. 新しい都市型緑化植物の選定と低コスト生産技術の開発	138
III. 管理運営報告編	
1. 「花の名所づくり」事業について	169
2. 東京都緑の公園フェスティバル'97	180
3. 平成8年度都市緑化連絡会活動について	194
4. 都営苗圃の再編計画について	208
5. 「緑の相談所ネットワーク」の改正について	216
6. 5年目を迎えた花の見ごろ情報について	220
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成8年度)	225
2. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	229
3. 平成8年度都立公園等植栽本数一覧表	237
4. 過去5年間における都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	239
5. 平成9年度花の見ごろ情報年間リスト	240
6. 緑化施策年表	241
7. 東京都の天然記念物	243
8. 都立公園の巨木一覧	246
9. 緑化地区位置図	248
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	249
11. 造園関連団体一覧	250
12. バックナンバーの目次	252

その26＜平成10年度＞

I. 緑化行政の変遷25年をふまえての実例	
1. 地域の声を活かした多自然型川づくり	1
2. 「花の名所づくり」 ―亀戸中央公園・代々木公園―	9
II. 技術調査編	

1. 平成9年度 緑の基礎調査の概要 —善福寺川緑地、東大和公園、 浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮恩賜庭園・清澄庭園—	23
2. 街路樹診断マニュアル	81
3. 神代植物公園水生植物園の管理と生物	123
4. 公園管理と『環境ホルモン』問題	147
5. 浄水場発生土加工土が緑化植物の生育に及ぼす影響	169
6. 土木技術研究所ニュース	175
Ⅲ. 管理運営報告編	
1. 東京都緑の情報センターの開設について	177
2. 東京都緑の公園フェスティバル'98	188
3. 平成9年度都市緑化連絡会活動について	199
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成9年度)	215
2. 東京都の道路緑化状況(平成9年度)	219
3. 平成9年度都立公園等植栽本数一覧表	227
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	230
5. 平成10年度花の見ごろ情報年間リスト	231
6. 緑化施策年表	232
7. 東京都の天然記念物	234
8. 都立公園の巨木一覧	237
9. 緑化地区位置図	239
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	240
11. 造園関連団体一覧	241
12. バックナンバーの目次	243

その27<平成11年度>

I. 技術調査編	
1. 平成10年度 緑の基礎調査の概要 —葛西臨海公園、夢の島公園、浅間山公園、 井の頭恩賜公園—	1
2. 屋上等人口地盤緑化について	69
3. 都立公園の外国産樹木(交換樹木等)について	82
4. 土木技術研究所ニュース(その2)	112
5. 植栽実績調査の長期間集計の結果から	126
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況(平成10年度)	131
2. 平成10年度都立公園等植栽本数一覧表	138
3. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	141
4. 平成11年度花の見ごろ情報年間リスト	142
5. 東京都の天然記念物	143
6. 都立公園の巨木一覧	146
7. 緑化地区位置図	148
8. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	149
9. 造園関連団体一覧	150
10. バックナンバーの目次	152

その28<平成12年度>

I. 特集『都民参加の緑づくりの実践』	
1. 「22世紀の都市の森づくり」について	1
2. ボランティア団体「22世紀の森づくり・神代」報告	19
3. 都民による公園づくり —芦花公園花の丘友の会と木場公園友の 会の活動について—	23
4. 「東京構想2000」と「緑の東京計画」について —都民、NPO等との協働に注目して—	44

II. 技術調査編

1. 平成11年度 緑の基礎調査の概要
—六義園、小石川後楽園、旧古河庭園— …… 57
2. 平成11年度 緑の基礎調査の概要
—秋留台公園— …… 80
3. 平成11年度 緑の保全回復調査の概要
—殿ヶ谷戸庭園— …… 94
4. 都立自然公園に生息するオオタカの保護の取り組み
～羽村草花自然公園大澄山園地に生息する
オオタカの保護計画～… 108
5. 水元公園権八池水生植物回復調査委託 ……123
6. 農場試験場報告 ……142
7. 土木技術研究所ニュース ……148

III. 管理運営報告編

1. 緑の情報センター及び緑の相談所の事業終了について ……153
2. 「緑と水」の市民カレッジ開校 ……158
3. 平成10年度・11年度都市緑化連絡会について ……161

資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績… 165
2. 東京の道路緑化状況 ……172
3. 平成11年度 都立公園等植栽本数一覧表 ……179
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10種 ……182
5. 平成12年度 花の見ごろ情報年間リスト ……183

その29<平成13年度>

I. 技術調査編

1. 平成12年度 緑の基礎調査の概要
—日比谷公園— …… 1
2. 平成12年度 緑の基礎調査の概要
—井の頭恩賜公園— …… 15
3. 平成12年度 緑の保全回復調査の概要
—東大和公園— …… 26
4. 三宅島における緑の回復に関わる基礎調査 …… 38
5. 野山北・六道山公園における樹林地更新について …… 55
6. 屋上緑化植栽と維持管理技術について …… 67
7. 土木技術研究所ニュース …… 79
8. 三宅島2000年噴火火山灰の植生回復への影響 …… 91

II. 管理運営報告編

1. 平成12年度 都市緑化連絡会活動について …… 99

資料編(グリーン・ファイル)

1. 平成12年度 委託調査一覧表 ……103
2. 東京都の道路緑化状況 ……105
3. 平成12年度 都立公園等植栽本数一覧表 ……111
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10種 ……114
5. 平成13年度 花の見ごろ情報年間リスト ……115
6. 公園別樹木本数 ……116
7. 公園別主要樹木一覧 ……118

その30<平成14年度>

I. 技術調査編

1. 平成13年度 緑の基礎調査の概要
—代々木公園、旧岩崎邸庭園— …… 1
2. 平成13年度 緑の保全回復調査の概要
—六義園ほか2庭園緑の回復工事— …… 20
3. 自然環境調査の概要
—平成12年度・平成13年度 代々木公園— …… 32
4. 水元公園権八池水生植物調査 …… 46
5. 壁面緑化について …… 61

6. 土木技術研究所ニュース —ヒートアイランド対策と三宅島緑化—	72
II. 管理運営報告編	
1. 平成13年度 緑の情報連絡会 (旧都市緑化連絡会) 活動について	89
2. 東京都民緑地について —祖師谷公園成城九丁目市民緑地、 小山田緑地梅木窪市民緑地—	92
3. 「小金井公園桜守ボランティア」について	100
4. 公園ボランティア登録「小金井公園桜守の会」報告	105
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 平成13年度 委託調査一覧	109
2. 東京の道路緑化状況	111
3. 平成13年度 都立公園等植栽本数一覧表	117
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	120
5. 平成14年度 花の見ごろ情報年間リスト	121
6. 公園別樹木本数一覧	122
7. 公園別主要樹木一覧	124

その31＜平成15年度＞

I. 特集「みどりの活性化」	
1. 都立庭園でのライトアップの実施	1
2. 水元公園「大自然塾」の取り組み	6
II. 技術調査編	
1. 平成14年度 緑の基礎調査の概要 —光が丘公園—	17
2. 石神井公園 三宝寺池植物群落復元追跡調査 —水辺の再生事業—	32
3. 上野恩賜公園 不忍池における水浄化実験	43
4. 野山北・六道山公園 自然環境調査報告	55
5. 道路緑化「新樹種プロジェクト」の取り組みについて	65
6. 壁面緑化の普及に向けて	74
7. 土木技術研究所ニュース —三宅島の緑化に関する調査及び報告—	85
III. 管理運営報告編	
1. 平成14年度 緑の情報連絡会活動について	97
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京の道路緑化状況	101
2. 平成14年度 都立公園等植栽本数一覧表	107
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	110
4. 公園別樹木本数一覧	111
5. 公園別主要樹木一覧	113
6. 平成15年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
7. 緑の基礎調査関連 実績表	116

その32＜平成16年度＞

I. 技術調査編	
1. 平成15年度 緑の基礎調査の概要 —谷中霊園ほか2霊園樹木等調査の概要—	1
2. 街路樹の樹種選定について —樹種選定樹木リスト【主要45種】の策定—	20
3. 街路樹樹種選定樹木リスト【主要45種】の各樹種について	37
4. 行幸通りイチョウ並木の樹勢回復	48
5. 小山内裏公園動植物調査	64
6. 街路樹の緑陰効果の検証(中間報告)	78
7. 無灌水を指向した屋上緑化システムの熱特性と降雨貯留特性	90
8. マット植物の開発について	104
II. 管理運営報告編	

1. 平成15年度 緑の情報連絡会活動について	111
2. コアラ飼育20年、ユーカリ栽培21年	116

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京の道路緑化状況	121
2. 平成15年度 都立公園等植栽本数一覧表	127
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	130
4. 委託調査一覧(平成14・15年度)	131
5. 平成16年度 花の見ごろ情報年間リスト	135

その33<平成17年度>

I. 技術調査編	
1. 平成16年度 井の頭恩賜公園湧水調査報告(概要)	1
2. 街路樹の路線別目標樹形「街路樹よくなるシート」の活用について	17
3. 壁面緑化の効果測定	25
4. 地表の温度変化を通してみた街路樹の緑陰効果	41
5. 護岸緑化による護岸温度変化	56
II. 管理運営報告編	
1. 夢の島熱帯植物館のこれまでを振り返って	69
2. 野山北・六道山公園に於ける都民協働	84
3. 平成16年度 緑の情報連絡会活動について	100
4. 平成16年度 都市公園利用実態調査の報告	106

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	119
2. 平成16年度 都立公園等植栽本数一覧表	125
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	128
4. 委託調査一覧(平成16年度)	129
5. 平成17年度 花の見ごろ情報年間リスト	131

その34<平成18年度>

I. 技術調査編	
1. 元気な樹木づくりの手引き(樹木診断編)の作成について	1
2. 宿根草品目・品種の耐光性と耐暑性に関する評価	6
3. 外気温の変化を通してみた街路樹の緑陰効果	15
4. 夏期暑熱期における河川周辺の外気と河川沿いの緑地帯の温度変化	30
II. 管理運営報告編	
1. 平成17年度 都市公園利用者満足度調査報告(概要)	47
2. 平成17年度 緑の情報連絡会 活動報告	75
3. 平成17年度 都市公園利用実態調査の報告	78

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	97
2. 平成17年度 都立公園等植栽本数一覧表	103
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	106
4. 委託調査一覧(平成17年度)	107
5. 平成18年度 花の見ごろ情報年間リスト	109

その35<平成19年度>

I. 技術調査編	
1. よりよい屋上緑化のための土選び	1
II. 管理運営報告編	
1. 水元大自然クラブの活動について ～大自然塾5年間の実績と修了生の活動について	11
2. 都立公園における借地公園事業について	17
3. 西部公園管内における民有地の借地公園事業について	27
4. 野山北・六道山公園保全・活用計画について	32
5. 平成18年度 緑の情報連絡会 活動報告	69
6. 平成18年度 都市公園利用実態調査の報告	71

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況 93
2. 平成18年度 都立公園等植栽本数一覧表 99
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種 102
4. 委託調査一覧(平成18年度) 103
5. 平成19年度 花の見ごろ情報年間リスト 105
6. バックナンバー目次(その1～その34) 106
7. 平成18年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表 107

その36<平成20年度>

I. 技術調査編

1. 新しい街路樹～ファスティギアータイプ樹木について・・ 1
2. 元気な樹木づくりの手引き(樹林地管理編)の作成について 10
3. 都立公園の池の水質について 17

II. 管理運営報告編

1. プレ・パーク事業「観音寺の森」活動について..... 37
2. (財)東京都公園協会「みどりのiプラザ」の設置と運営・・・ 50
3. 舎人公園もりもりフェスティバルについて 54
4. 平成19年度 緑の情報連絡会 活動報告 66
5. 平成19年度 都市公園利用実態調査の報告 68

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況 85
2. 平成19年度 都立公園等植栽本数一覧表 91
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種 94
4. 委託調査一覧(平成19年度) 95
5. 平成20年度 花の見ごろ情報年間リスト 97
6. バックナンバー目次(その1～その35) 98
7. 平成19年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表 106

その37<平成21年度>

I. 技術調査編

1. 上野恩賜公園の森づくりと桜守について 1

II. 管理運営報告編

1. 世界バラ会連合優秀庭園賞受賞について 13
2. エジプト・アラブ共和国ヘルワン県「東京庭園」修復工事について 24
3. グリーンロード・ネットワークの形成・充実に向けた「街路樹の充実」事業とそれに伴う「マイ・ツリーーわたしの木」事業の実施について 30
4. 市民緑地事業について 40
5. 平成20年度 緑の情報連絡会活動について 42
6. 平成20年度 都市公園利用実態調査の報告 44
7. プレパーク事業「大戸源流森の会」について 61
8. ブルガリアローズの寄贈について 69

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況 75
2. 平成20年度 都立公園等植栽本数一覧表 81
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種 84
4. 委託調査一覧(平成20年度) 85
5. 平成21年度 花の見ごろ情報年間リスト 87
6. バックナンバー目次(その1～その36) 88
7. 平成20年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表 96

その38<平成22年度>

I. 技術調査編

1. 浜離宮恩賜庭園「松の御茶屋」の復元整備について 1

II. 管理運営報告編

1. 東京臨海広域防災公園について	13
2. 「ユビキタス・コミュニケーター（携帯情報端末：U C）」 によるガイドについて	22
3. 日露知事会におけるチシマザクラの モスクワ市寄贈について	30
4. 平成21年度 緑の情報連絡会活動について	45
5. 駒沢オリンピック公園の記念樹～バットと宇宙ケヤキ～	47
資料編（グリーン・ファイル）	

1. 東京都の道路緑化状況	53
2. 平成21年度 都立公園等植栽本数一覧表	60
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	63
4. 委託調査一覧（平成21年度）	64
5. 平成22年度 花の見ごろ情報年間リスト	66
6. バックナンバー目次（その1～その37）	67
7. 平成21年度 都立公園における都民協働団体一覧表	75

その39＜平成23年度＞

I. 技術調査編	
1. 東村山中央公園・狭山公園の樹木調査の報告	1
2. 井の頭恩賜公園の森づくりについて	16
3. 公園等のマツ枯れ防除に向けた取組	24
4. 街路樹用樹木の根圏と管理特性に及ぼす根域制限の影響	32
II. 管理運営報告編	
1. 野山北・六道山公園における都民協働について （大自然塾総括）	51
2. 平成21、22年度 都市公園利用実態調査の報告	60
3. 樹木点検員養成研修の実施と樹木点検員認定について	75
4. 平成22年度 緑の情報連絡会活動について	83

資料編（グリーン・ファイル）	
1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成22年度 都立公園等植栽本数一覧表	92
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	95
4. 委託調査一覧（平成22年度）	96
5. 平成23年度 花の見ごろ情報年間リスト	98
6. バックナンバー目次（その1～その38）	99
7. 平成22年度 都立公園における都民協働団体一覧表	107

その40＜平成24年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 神代植物公園植物多様性センターの開設について	1
2. 神代植物公園植物多様性センターの整備について	16
3. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保護復元事業 ～順応的管理による水辺の再生事業～	27
II. 管理運営報告編	
1. 都立公園等における生物多様性保全への取り組み	37
2. 都立公園がつなぐ「生物多様性」	45
3. 夢の島公園の樹林地管理について	58
4. 水元公園・原風景づくりを牽引する直営作業	65
5. 神代植物公園開園50周年記念事業について	71
6. ショクダイオオコンニャクの開花について	82
7. 平成23年度 都市公園利用実態調査の報告	96
8. 平成23年度 緑の情報連絡会活動について	103

資料編（グリーン・ファイル）	
1. 東京都の道路緑化状況	107
2. 平成23年度 都立公園等植栽本数一覧表	114
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	117
4. 委託調査一覧（平成23年度）	118
5. 平成24年度 花の見ごろ情報年間リスト	120
6. バックナンバー目次（その1～その39）	121

7. 平成23年度 都立公園における都民協働団体一覧表	129
-----------------------------	-----

その41＜平成25年度＞

I. 特集「第29回全国都市緑化フェアTOKYO」	
1. 第29回全国都市緑化フェアTOKYOの開催概要について	1
2. 緑化フェアの総務的業務を振り返って	8
3. 緑化フェアの広報協賛業務を振り返って	14
4. 緑化フェア上野恩賜公園会場「不忍・緑・五景」 ～公園の魅力を伝えるアート～	17
5. 緑化フェア井の頭恩賜公園会場整備について	21
6. 緑化フェア日比谷公園・浜離宮恩賜庭園会場について	24
II. 技術調査・計画編	
1. 平成24年度小山田緑地自然環境調査について	29
2. 東村山中央公園における「生物多様性」への取組について	33
3. 小宮公園雑木林管理基礎調査－その経緯と展開－	44
III. 管理運営報告編	
1. 米国寄贈のハナミズキについて	51
2. 大怪木再生大作戦について	56
3. 野山北・六道山公園里山民家茅葺屋根の葺き替え	62
4. 神代植物公園植物多様性センター事業運営報告	66
5. 水元流・花菖蒲再生の取組について	75
6. よみがえったパートナー・サカサマ～代々木公園～	81
7. 平成24年度 緑の情報連絡会活動について	84
資料編（グリーン・ファイル）	
1. 東京都の道路緑化状況	87
2. 平成24年度 都立公園等植栽本数一覧表	94
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	97
4. 委託調査一覧（平成24年度）	98
5. 平成25年度 花の見ごろ情報年間リスト	100
6. バックナンバー目次（その1～その40）	101
7. 平成24年度 都立公園における都民協働団体一覧表	110

その42＜平成26年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 街路樹診断マニュアルの改訂について	1
2. 谷中霊園樹木立曳き移植について	10
3. 大戸緑地植生管理計画の策定について	19
4. 井の頭恩賜公園かいぼり25について	27
5. 高木間植栽に適した街路樹用樹木に関する研究	37
6. 街路樹ツツジ類のクロロシスの実態とその改善対策	43
II. 管理運営編	
1. ふくしま⇄東京 桜の交流プロジェクト	49
2. 狭山丘陵における広域連携プロジェクト	55
3. 大泉中央公園ちやうの里再生事業	65
4. 平成25年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	72
5. 平成25年度 緑の情報連絡会 活動報告	78
資料編（グリーン・ファイル）	
1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	81
2. 平成25年度 都立公園等植栽本数一覧表	88
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	91
4. 委託調査一覧（平成25年度）	92
5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	94
6. バックナンバー目次（その1～その41）	95

その43＜平成27年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 石神井公園生物多様性保全管理計画策定の報告	1
2. 東大和公園生物多様性保全利用計画の策定について	9

3. 東京都保全地域における「保全活動ガイドライン」の策定	16
4. 街路樹根系強度調査	27
5. 神代植物公園所蔵「韻勝園梅譜」（模写帖）について	34
6. 可搬式緑化コンテナによる夏季の暑熱対策	40

II. 管理運営編

1. ショクダイオオコンニャクの開花について	45
2. 身近な自然体験の場・「いきもの広場」	49
3. かいぼりイベントにおけるボランティアの参加状況	59
4. 平成26年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	67
5. 平成26年度 緑の情報連絡会 活動報告について	73

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	75
2. 平成26年度 都立公園等植栽本数一覧表	82
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	85
4. 委託調査一覧（平成26年度）	86
5. 平成27年度 花の見ごろ情報年間リスト	88
6. バックナンバー目次（その1～その42）	89

その44＜平成28年度＞

I. 技術調査・計画編

1. よみがえる!!イノカシラフラスコモ！『水草再生ものがた』	1
2. 危険な外来生物に関する東京都の取組について	11
3. 今春、初開花した2種の野生ランの無菌培養	17
4. 河川・海岸敷等の緑化に向けた樹種の選定	26

II. 管理運営編

1. 都立公園ガイドサービスシステム構築の報告	31
2. 多摩地域の自然公園における植生の保護	38
3. 国際優秀つばき園登録へ向けた取り組みについて	46
4. ニューヨーク市への桜の寄贈について	51
5. 夏のおもてなしガーデントライアル2016について	61
6. 平成27年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	69
7. 平成27年度 緑の情報連絡会 活動報告について	75

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	77
2. 平成27年度 都立公園等植栽本数一覧表	83
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	86
4. 委託調査一覧（平成27年度）	87
5. 平成28年度 花の見ごろ情報年間リスト	89
6. バックナンバー目次（その1～その43）	90

その45＜平成29年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 東京2020大会に向けた街路樹の樹冠拡大の取組	1
2. 旧浜離宮庭園「延遼館」の復元整備事業について	9
3. 「東京の自然公園ビジョン」の策定と展開	24
4. 日比谷公園つつじ山再生に向けた調査と展開について	33
5. 都立庭園を演出する冬の添景物「雪吊り」の庭園技能伝承	42
6. 夏季高温期に適応する苗もの花き品目の選定および 利用技術の開発	49

II. 管理運営編

1. ニューヨーク市街路樹調査と街路樹マップ	59
2. 日本・チリ修好120周年チリマツ記念植樹式の実施	72
3. 人にも生きものにも優しい緑「江戸のみどり 登録緑地」募集中！	77
4. かいぼりで守り、取り戻す！溜め池の生物多様性	80
5. ヒナワチガイソウ保全活動に向けた生活史調査	88
6. 平成28年度 神代植物公園植物多様性センター年報	96
7. 平成28年度 緑の情報連絡会活動報告	104

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)…………… 107
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表…………… 113
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種…………… 116
4. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト…………… 117
5. 都立公園における都民協働団体一覧…………… 118
6. バックナンバー目次(その1～その44)…………… 122

その46<平成30年度>

I. 技術調査・計画編

1. 伝統園芸植物の栽培・普及の取組…………… 1
2. 街路樹向き緑化植物における防火機能の評価…………… 23
3. ラン科植物の無菌挿種技術向上と展示…………… 31
4. 明治の森高雄国定公園指定50周年記念事業…………… 37

II. 管理運営編

1. 都立・区立の公園・庭園におけるハナショウブ栽培管理の…………… 41
2. 光が丘公園バードサンクチュアリ池で行われた16年ぶりの…………… 52
3. 平成29年度夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告…………… 71
4. 「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」の策定と成果…………… 81
5. 御陵の入口にふさわしい風格のある公園づくりを目指して…………… 92
6. 地域の核となる公園へ! 狭山公園80周年記念事業…………… 101
7. 平成29年度 神代植物公園多様性センター年報…………… 111
8. 平成29・30年度 緑の情報連絡会活動報告…………… 122

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)…………… 125
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表…………… 131
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種…………… 134
4. 委託調査一覧(平成28・29年度)…………… 135
5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト…………… 145
6. 都立公園における都民協働団体一覧…………… 146
7. バックナンバー目次(その1～その45)…………… 150

その47<令和元年度>

I. 技術調査・計画編

1. 三宅島雄山の東京都版エコツーリズム導入
2. 多様な生物が生息する都立公園づくり事業について
3. ナラ枯れ被害対策の取組について
4. ハナショウブの観賞のポイントを紹介するリーフレットの作成
5. 向島百花園の胡枝花洞(ハギのトンネル)の修復について
6. 種子採取による生息域外保全の取組

II. 管理運営編

1. 令和元年台風第15号「令和元年房総半島台風」・第19号「令和元年東日本台風」による被害について
2. 丘陵地公園の生き物保全から普及啓発まで
3. 平成30年度 神代植物公園植物多様性センター年報
4. 平成30年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
5. ヘルシーパークプロジェクト～身近な公園を活用した健康づくり～
6. 公園を地域の環境教育拠点として最大限に活用
～都立小宮公園における取組み～
7. 里山公園における生物多様性向上の取り組み
8. 平成31年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)
2. 平成30年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧(平成30年度)
5. 平成31年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次(その1～その46)

その48<令和2年度>

I. 技術調査・計画編

1. 「街路樹診断等マニュアル」の改定について
Revision of Manual for Street Trees' Diagnosis
2. 民間企業との連携による緑化に関する取組について
3. 都立公園池水質改善事業における事業報告について
4. 高茎草地エリアの管理について ～『武蔵野のくさはら』の再現～
5. 狭山丘陵におけるナラ枯れ被害調査と対策について
6. 豊洲市場における屋上の試験植栽について

II. 管理運営編

1. 令和元年度 神代植物公園植物多様性センター年報
2. コロナ禍における公園利用実態の変化と公園管理者の取組み
3. 平成31年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
4. コロナ禍の都立大島小松川公園の管理運営と利用の実態
5. 令和2年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
2. 令和元年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（令和元年度）
5. 令和2年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次（その1～その47）

その49<令和3年度>

I. 技術調査・計画編

1. 小笠原諸島賀島列島におけるネズミ駆除の効果
2. 都内におけるクビアカツヤカミキリの生態と対策の現状
3. チリ国立ビーニャ・デル・マル植物園へのサクラ種子の寄贈について
4. 公園・緑地管理におけるGISの活用
5. 都立公園の小面積皆伐によるナラ枯れ被害の回避

II. 管理運営編

1. 令和2年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
2. 日常にスポーツを～むさしのヘルシーパークプロジェクト～
3. 令和2年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
4. 2021（令和3）年度都市部の公園・東部グループの管理運営と利用の実態
5. 令和3年度 緑の情報連絡会活動について

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
2. 令和2年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（令和2年度）
5. 令和3年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次（その1～その48）